

港湾の施設の維持管理計画策定ガイドライン (令和 8 年改訂版)

【第 2 部 作成事例】

令和 8 年 4 月

国土交通省

港湾局

第2部 作成事例（目次）

(A) 新設する場合
○係留施設
No. 1 直杭式横棧橋の事例
No. 2 矢板式係船岸の事例
No. 3 ケーソン式係船岸の事例
○外郭施設
No. 4 ケーソン式防波堤の事例
No. 5 矢板式護岸の事例
○臨港交通施設
No. 6 橋梁（PC 箱桁橋）の事例
No. 7 沈埋トンネルの事例
○水域施設
No. 8 航路及び泊地の事例
○緑地及び広場
No. 9 緑地の事例
(B) 供用期間を延長する場合
No. 10 直杭式横棧橋の事例
No. 11 矢板式係船岸の事例
No. 12 ケーソン式防波堤の事例
(C) 用途変更をする場合
No. 13 矢板式係船岸を護岸へ変更する事例
(D) 気候変動の影響を勘案して見直す場合
No. 14 ケーソン式防波堤の事例
(E) 通常点検診断施設を重点点検診断施設に変更する場合
No. 15 矢板式係船岸の事例
No. 16 複数の施設を取りまとめる維持管理計画書

※ 本作成事例において示すものは、技術基準対象施設の維持管理計画書を作成する際の参考とするための事例であり、その記載について標準的な内容を示すものではない。

維持管理計画書作成事例

(A) 新設する場合

No.1 直杭式横栈橋

＊ ＊ 港 ＊ ＊ 地区 ＊ ＊ 栈橋

維持管理計画書

項 目	内 容	備 考
港 格	重要港湾	
港 湾 名	＊ ＊ 港	
地 区 名	＊ ＊ 地区	
施 設 名	＊ ＊ 栈橋	
施 設 番 号	C-＊-＊	

2026 年 4 月

施設設置者 国土交通省

施設管理者 ＊ ＊ 県

目 次

I	総論	1
I-1	計画の目標.....	1
I-2	維持管理の基本的な考え方.....	1
I-3	施設に関連する計画.....	1
I-4	維持管理上の諸条件	2
I-5	付随する施設との関連性.....	5
I-6	維持管理レベル	6
I-7	座標系、位置座標の設定	7
I-8	初回点検診断結果	7
I-9	その他の配慮事項	7
II	点検診断計画.....	8
III	総合評価.....	10
IV	維持補修計画.....	10
V	参考資料.....	11

I 総論**I-1 計画の目標** 必要な情報

本施設を維持管理する計画の目標は、以下のとおりとする。

項 目	内 容	備 考
維持管理の計画目標期間	2026～2075 年度	
設計供用期間	50 年	

I-2 維持管理の基本的な考え方 必要な情報

本施設をどのような方針で維持管理していくかの基本的な考え方は、以下のとおりとする。

項 目	内 容	備 考
維持管理の基本的な考え方	各部材の維持管理レベルに応じた対応により維持管理を行う。	
気候変動適応の 考え方	適応策	事前適応策
	適応の概要	2℃上昇シナリオへ対応
通常・重点点検診断施設の設定	通常点検診断施設	

I-3 施設に関連する計画 有用な情報

本施設に関連する計画は、以下のとおりである。

項 目	内 容	備 考
本施設の 港湾計画 への位置づけ	計画策定（位置づけ）年	****年
	将来計画	予定なし（現状を維持）
	大規模地震対策施設計画	緊急物資輸送
予防保全計画における措置の優先度	－（経過観察措置）	
大規模地震対策推進地域等の位置づけ	有	
地域防災計画への位置づけ	有	
協働防護計画への位置づけ	有	

I-4 維持管理上の諸条件

本施設の維持管理計画に資する諸条件は、以下のとおりである。

なお、標準断面図、平面図等の関連図面は参考資料として添付する。

(施設の情報)

必要な情報

項 目	内 容	備 考
港格	重要港湾	
港湾名	* * 港	
地区名	* * 地区	
施設名	* * 棧橋	
施設番号	C- * - *	
施設設置者	国土交通省	
施設管理者	* * 県	

(構造形式)

有用な情報

項 目	内 容	備 考
施設の分類	係留施設 棧橋	
構造形式	直杭式横棧橋	
水深	D.L. - *.**(m)	
延長（取付部を含む延長）	*.**(m)	
面積	*.**(m ²)	
天端高	D.L. + *.**(m)	

(自然条件)

有用な情報

項 目	内 容	備 考
潮位	基本水準面	D.L. ± *.**(m)
	H.W.L.	D.L. + *.**(m)
	M.S.L.	D.L. + *.**(m)
	L.W.L.	D.L. + *.**(m)
		維持管理 計画書作成 時点

(気候変動の影響を勘案した自然条件)

有用な情報

項 目			内 容	備 考
気候変動の影響を 勘案した潮位	将来作用基準年		2075 年	将来作用 基準年時点
	2℃上昇 シナリオ	H.W.L.	D.L+*.**(m)	
		M.S.L.	D.L+*.**(m)	
		L.W.L.	D.L+*.**(m)	
	4℃上昇 シナリオ	H.W.L.	D.L+*.**(m)	
		M.S.L.	D.L+*.**(m)	
		L.W.L.	D.L+*.**(m)	

(設計履歴)

必要な情報

本施設の設計の履歴は、以下のとおりである。

なお、主な設計条件は参考資料として添付する。

通番	項 目	内 容	備 考
1	件名	****土質調査	
	適用基準		
	完了年度	****年度	
	受注者	***コンサルタント	
2	件名	****基本設計	
	適用基準	港湾の施設の技術上の基準・同解説（** **年度版）	
	完了年度	****年度	
	受注者	***コンサルタント	
3	件名	****細部設計	
	適用基準	港湾の施設の技術上の基準・同解説（** **年度版）	
	完了年度	****年度	
	受注者	***コンサルタント	
	件名		
	適用基準		
	完了年度		
	受注者		

(施工・補修履歴)

必要な情報

通番	項 目	内 容	備 考
1	件名	*** 棧橋築造工事	
	完了年度	****年度	
	施工者	***建設・***工業 JV	
	件名		
	完了年度		
	施工者		

(材料特性)

必要な情報

本施設の主な材料特性は以下のとおりである。

なお、詳細な材料特性については、〇〇に保管されている工事完成図書等による。

通番	項 目	内 容	備 考
1	鋼管杭	SKK * * * Φ * , * * * mm	
2	被覆防食	重防食被覆：期待耐用年数 * * 年	
3	電気防食	流電陽極方式：防食年数 * * 年	
4	基礎捨石	転用材 * * ~ * * * kg/個程度	
5	被覆石	* * ~ * * * kg/個程度	
6	コンクリート	* * - * - * * N	
7	鉄筋	SD * * *	
8	粗粒度アスファルト	As * *	
9	密粒度アスファルト	As * *	
10	渡版	* * L × * * B × * * t	
11	係船柱	曲柱 * , * * * KN * * * *	
12	防衝設備	* * * 製 * * 型 * * * H	
13	車止め	* * * 製 * * * H 型	
14	はしご	* * * 製 * * B × * * * H	

(利用状況)

有用な情報

港湾計画上の利用情報は以下のとおりである。なお、各年の利用実績は参考資料として添付する。

項 目		内 容	備 考
主要利用船舶の種類		* * * * 船	
主要取扱貨物		* * * *	
対象船舶	船型	* * , * * * D/W	
	船席数	* * バース	

I-5 付随する施設との関連性

本施設に付随する施設との関連性は、以下のとおりである。

なお「接続する緊急輸送道路」とは、道路啓開計画に示された港湾施設と接続する道路とする。

有用な情報			
(付随する施設)			
通番	項 目	内 容	備 考
1	施 設 名	* * * 泊地	
	施設番号	A-1-*	
2	施 設 名	* * * 荷さばき地	
	施設番号	F-4-*	
3	施 設 名	* * * 上屋	
	施設番号	F-5-*	
4	施 設 名	* * * 道路	
	施設番号	D-1-*	
	施 設 名		
	施設番号		

有用な情報			
(接続する緊急輸送道路)			
通番	項 目	内 容	備 考
1	道 路 名	* * * 自動車道	
	規 格	高規格道路	
2	道 路 名	国道* * 線	
	規 格	一般道	
	道 路 名		
	規 格		

I-6 維持管理レベル

必要な情報

本施設の各部材の維持管理レベル及び維持管理の方針の目安は、以下のとおりとする。

部 材 名 称		維持管理レベル	性能低下度	維持管理方針の目安
栈橋全体（栈橋法線）		Ⅲ （事後保全型）	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	経過観察措置
			C	
			D	
栈橋上部工下面・側面		Ⅱ （予防保全型）	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	計画的措置
			C	経過観察措置
			D	
鋼管杭		Ⅰ （事前対策型）	A	－
			B	緊急的措置並びに応急的措置
			C	計画的措置
			D	経過観察措置
鋼管杭（被覆防食工） 鋼管杭（電気防食工）		Ⅱ （予防保全型）	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	計画的措置
			C	経過観察措置
			D	
エプロン 海底地盤 渡版		Ⅲ （事後保全型）	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	経過観察措置
			C	
			D	
土留部	ケーソン	Ⅰ （事前対策型）	A	－
			B	緊急的措置並びに応急的措置
			C	計画的措置
			D	経過観察措置
	上部工	Ⅲ （事後保全型）	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	経過観察措置
			C	
			D	
附帯設備	係船柱 防衝設備 車止め はしご	Ⅲ （事後保全型）	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	経過観察措置
			C	
			D	

I-7 座標系、位置座標の設定

有用な情報

本施設の維持管理に有用な、座標系（ブロック番号、部材番号等）及び位置座標（X座標、Y座標、Z座標）は、参考資料として添付する。

I-8 初回点検診断結果

必要な情報

本施設の初回点検診断の実績は以下のとおりである。

なお、点検診断結果は、参考資料として添付する。

項 目	時 期	備 考
初回点検診断	2025 年度	一般・詳細

I-9 その他の配慮事項

有用な情報

項 目	内 容	備 考
代替施設の有無	無	
補修の優先度を考慮する上での配慮事項	（自由記入）	

II 点検診断計画

本施設の点検診断の頻度及び実施条件、点検診断の時期並びに点検診断項目及び点検診断方法は以下のとおりとする。

(点検診断の頻度及び実施条件)

項 目		内 容	備 考
定期点検 診断	一般定期点検診断	5 年以内ごとに少なくとも 1 回	
	詳細定期点検診断	供用期間中に少なくとも 1 回	
臨時点検 診断	一般臨時点検診断	日常点検において特段の異常が確認された場合及び 震度 5 強以上の地震が発生した場合	
	詳細臨時点検診断	一般定期点検診断又は一般臨時点検診断の結果、 詳細点検診断が必要と判断された場合	

(点検診断の時期)

本施設の点検診断の実績及び実施時期の見込みは以下のとおりとする。

年度	内 容	備 考	年度	内 容	備 考
2026			2051		
2027			2052		
2028			2053		
2029			2054		
2030	定期点検診断	一般	2055	定期点検診断	一般
2031			2056		
2032			2057		
2033			2058		
2034			2059		
2035	定期点検診断	一般	2060	定期点検診断	一般
2036			2061		
2037			2062		
2038			2063		
2039			2064		
2040	定期点検診断	一般	2065	定期点検診断	一般
2041			2066		
2042			2067		
2043			2068		
2044			2069		
2045	定期点検診断	一般	2070	定期点検診断	一般
2046			2071		
2047			2072		
2048			2073		
2049			2074		
2050	定期点検診断	一般	2075	定期点検診断	一般・詳細

(点検診断項目及び点検診断方法)

部 材 名 称		点検診断項目	点検の種類	点検診断方法
栈橋全体（栈橋法線）		凹凸、出入り	一般	点検診断ガイドラインによる
		移動量、傾斜量、沈下量	詳細	点検診断ガイドラインによる
エプロン		沈下、陥没	一般	点検診断ガイドラインによる
		アスファルトの劣化、損傷	一般	点検診断ガイドラインによる
栈橋上部工（上・側面部）		コンクリートの劣化、損傷	一般	点検診断ガイドラインによる
栈橋上部工（下面部）		コンクリートの劣化、損傷	一般	点検診断ガイドラインによる
		コンクリートの分析	詳細	点検診断ガイドラインによる
鋼管杭		鋼材の腐食、亀裂、損傷	一般	点検診断ガイドラインによる
			詳細	点検診断ガイドラインによる
		肉厚測定	詳細	点検診断ガイドラインによる
鋼管杭（被覆防食工）		モルタル被覆	一般	点検診断ガイドラインによる
			詳細	点検診断ガイドラインによる
鋼管杭（電気防食工）		電位測定	一般	点検診断ガイドラインによる
		陽極、電位	詳細	点検診断ガイドラインによる
海底地盤		洗掘、堆積	詳細	点検診断ガイドラインによる
渡版		本体の損傷、塗装	一般	点検診断ガイドラインによる
土留部	ケーソン	側壁の劣化、損傷	一般	点検診断ガイドラインによる
		コンクリートの劣化、損傷	詳細	点検診断ガイドラインによる
	上部工	コンクリートの劣化、損傷	一般	点検診断ガイドラインによる
附帯設備	係船柱	本体の劣化、損傷 塗装のはがれ等の状態	日常	点検診断ガイドラインによる
	防衝設備	本体の損傷、破損、 取付金具の腐食等の状態	日常	点検診断ガイドラインによる
	車止め	本体の損傷、塗装、腐食	日常	点検診断ガイドラインによる
	はしご	本体の損傷、塗装、腐食	日常	点検診断ガイドラインによる

III 総合評価

総合評価においては、点検診断結果に基づき、施設の変状に対する工学的知見・判断に基づく評価及び計画的かつ適切な維持工事等に向けた現場的行政的判断に基づく評価を行い、今後の施設の維持管理に関する方針を定める。

なお、総合評価結果は参考資料として添付する。

IV 維持補修計画

本施設の維持補修計画は、以下のとおりとする。

通番	項 目	内 容	備 考
1	維持補修概要	犠牲陽極交換	
	実施時期	* * * * 年度	
	概算費用	*, * * * 千円	
	維持補修概要		
	実施時期		
	概算費用		

V 参考資料

参考資料は、以下の資料を添付する。

- ① 関連図面
- ② 設計計算書
- ③ 利用実績
- ④ 座標系及び位置座標
- ⑤ 点検診断結果
- ⑥ 総合評価結果

適切に保管されていて参照可能な情報は、保管場所を明記し、添付を省略することができる。

また、施設の維持管理を実施する中で、補修を行った場合、補修の設計・施行に関する情報を該当する参考資料に追加することが望ましい。

参考資料①

関連図面

位置図

有用な情報

平面図

必要な情報

標準断面図

必要な情報

参考資料②

設計計算書

本施設に関する設計計算書より、主な維持管理に関連する主な設計条件を以下に抜粋する。

(設計条件 (抜粋))

項 目			内 容	備 考
計画条件等	要求性能	永続作用	使用性	
		変動作用	使用性	
		偶発作用	* * 性	
利用条件等	設計供用期間		50 年	
	計画延長		***.**(m)	
	計画天端高		D.L+*.**(m)	
	計画水深		D.L-*.**(m)	
	設計水深		D.L-*.**(m)	
	基本水準面		D.L±*.**(m)	
	エプロン復員		**,**(m)	
	エプロン勾配		*(%)(順勾配)	
	対象船舶		**,*** (DWT)	
	対象船舶の接岸条件		接岸速度 **,**(cm/sec)	
	牽引力		*,*** (kN)	
	載荷重		永続作用 **,**(kN/m ²) 変動作用 **,**(kN/m ²)	
自然条件等	潮位条件	H.W.L	D.L+*.**(m)	
		M.S.L	D.L+*.**(m)	
		L.W.L	D.L+*.**(m)	
	残留水位条件		D.L+*.**(m)	
	地震条件		レベル 1 地震動 kh = *.** レベル 2 地震動 * * * * 地震	
気候変動の 影響を勘案した 潮位	将来作用基準年		***	
	2℃上昇 シナリオ	H.W.L	D.L+*.**(m)	
		M.S.L	D.L+*.**(m)	
		L.W.L	D.L+*.**(m)	
	4℃上昇 シナリオ	H.W.L	D.L+*.**(m)	
		M.S.L	D.L+*.**(m)	
		L.W.L	D.L+*.**(m)	

項 目			内 容	備 考
材料特性	下部工	鋼材	規格等	
		被覆防食工	重防食：期待耐用年数＊＊年	
		電気防食工	流電陽極方式：防食年数＊＊年	
	栈橋上部工	コンクリート	＊＊-＊-＊＊N	
		鉄筋	SD＊＊＊	
	舗装	コンクリート舗装	＊＊-＊-＊＊N	
	附帯設備	係船柱	曲柱＊, ＊＊ ＊＊KN ＊＊ ＊＊	
		防衝設備	＊ ＊ ＊製 ＊ ＊ 型 ＊ ＊ ＊ H	
		車止め	＊ ＊ ＊製 ＊ ＊ ＊ H 型	
		はしご	＊ ＊ ＊製 ＊ ＊ B × ＊ ＊ ＊ H	

参考資料③

利用実績

(利用実績)

年	取扱貨物量	主要取扱貨物			備考
		1 位	2 位	3 位	
2026					
2027					
2028					
2029					
2030					
2031					
2032					
2033					
2034					
2035					
2036					
2037					
2038					
2039					
2040					
2041					
2042					
2043					
2044					
2045					
2046					
2047					
2048					
2049					
2050					
・ ・ ・					
2075					

参考資料④

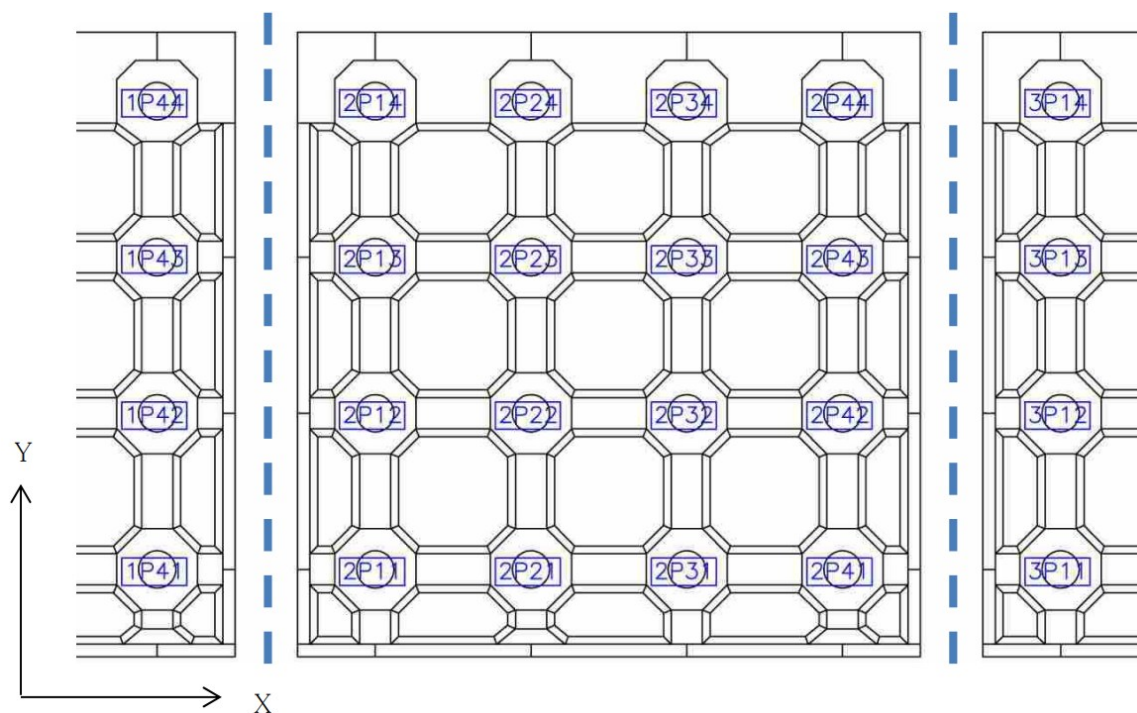
座標系及び位置座標

(座標系記号)

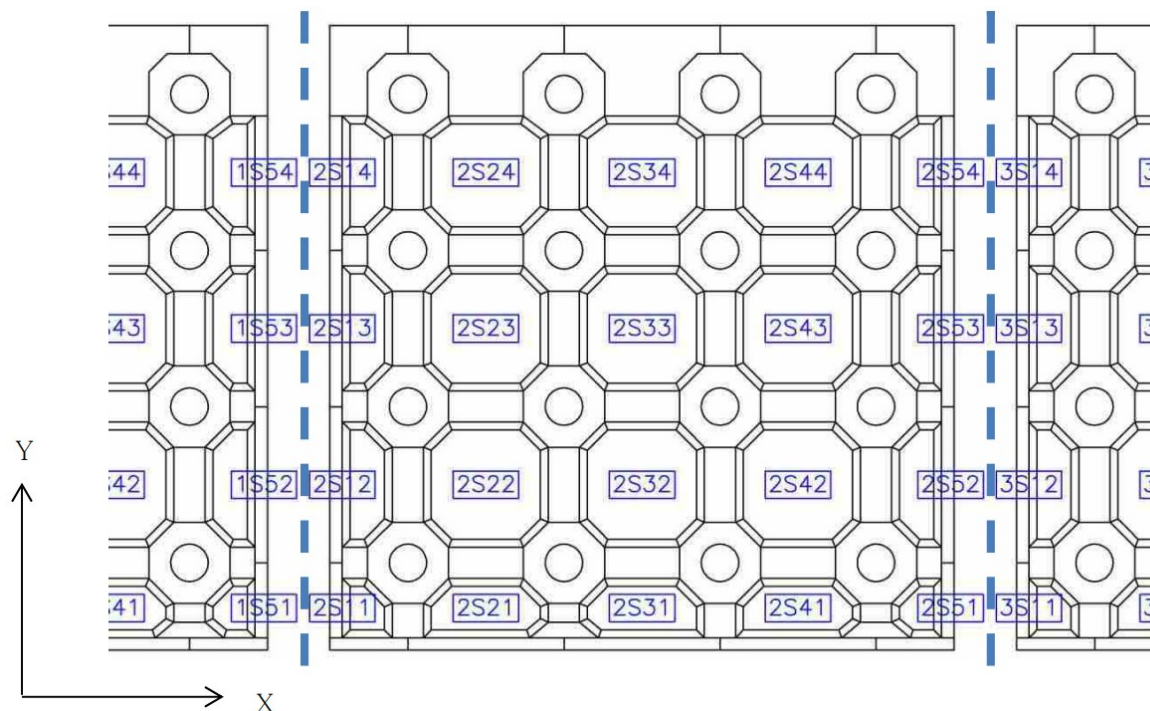
通番	名称	記号	用語
1	梁	B	Beam
2	床板	S	Slab
3	鋼管杭	P	Pile
4	被覆防食	Ppc	Protection coating
5	電気防食	Pcp	Cathodic protection
6	エプロン	Ap	Apron
7	渡版	Cp	Connection plate
8	防衝設備	F	Fender
9	係船柱	Bo	Bollard
10	車止め	Cu	Curbing
11	はしご	La	Ladder

(座標系)

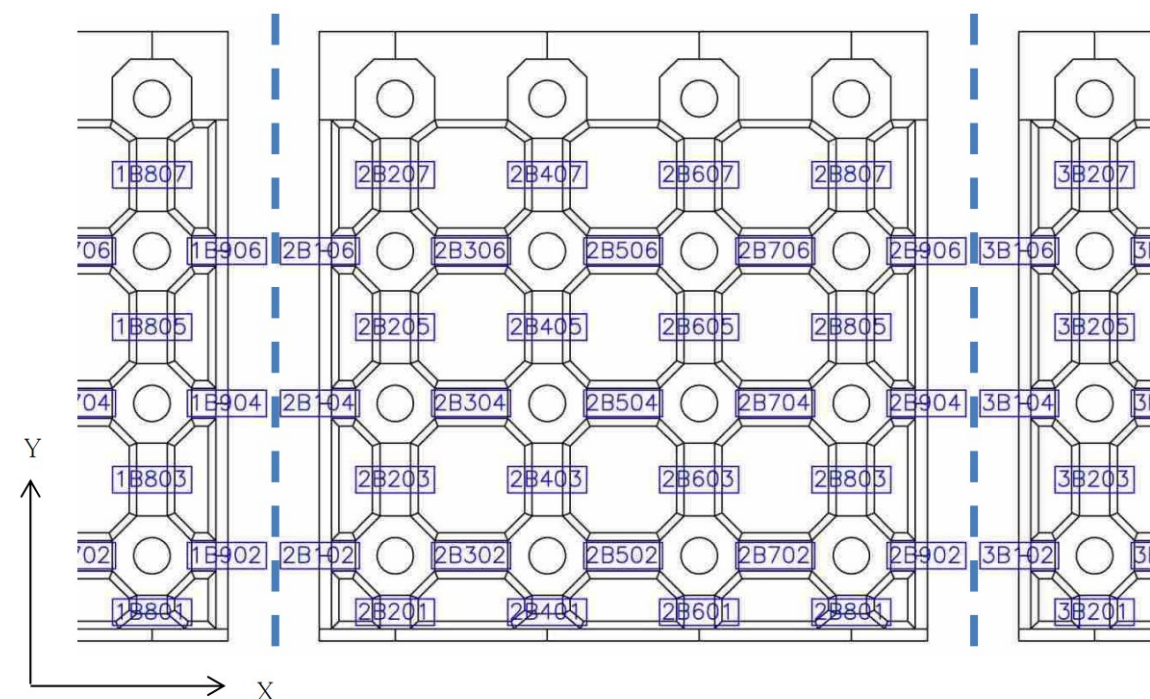
鋼管杭、被覆防食、電気防食の座標系

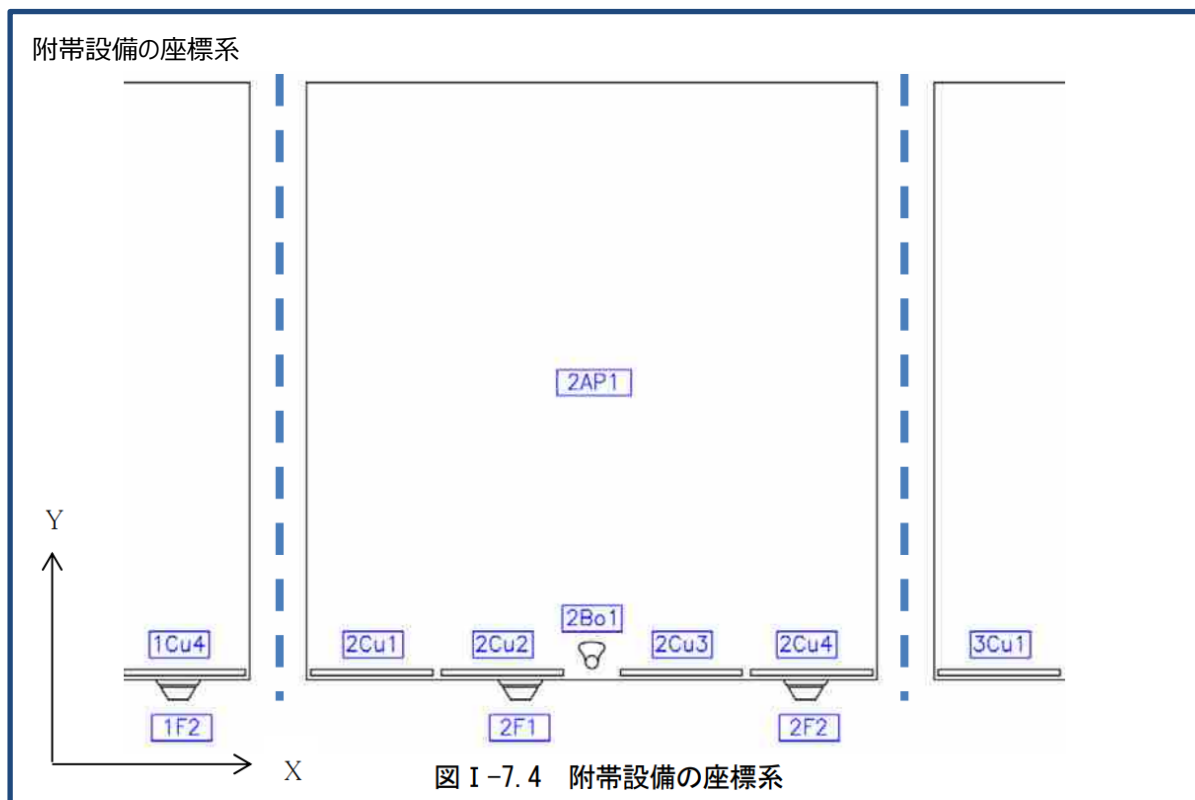


栈橋上部工（下面部）の床板の座標系



栈橋下面部の梁の座標系





(位置座標)

本施設の位置座標 (X 座標、Y 座標、Z 座標) は必要に応じて設定する。

参考資料⑤

点検診断結果

初回点検診断結果

必要な情報

参考資料⑥

総合評価結果

総合評価結果（2025 年初回点検診断時）

部材		維持管理 レベル	点検診断			①工学的知見・判断 に基づく評価	②現場的・行政的判断 に基づく評価	③施設の維持管理 に関する方針	総合評価の概要	
			点検診断の項目	点検診断結果の概要	性能低下度					
					点検診断 項目					施設 全体
栈橋全体（栈橋法線）		Ⅲ	凹凸、出入り	変状なし	D	D	（将来計画の評価） — （維持工事等の計画） — （利用面、財政面、代替案） ・ 施設の重要度は高い （応急的措置の必要性） ・ 不要 （計画的措置の必要性） ・ 不要 （点検診断計画変更の必要性） —	☐緊急的措置 ☐応急的措置 ☐計画的措置 ☒経過観察措置	本施設は近隣に代替施設 のない大水深の岸壁であり重 要度は高いが、新設で変状が ないため次回点検診断まで適 切に日常点検を実施する経 過観察措置とする。	
			移動量、傾斜量、沈下量	変状なし	D					
エプロン		Ⅲ	沈下、陥没	変状なし	D					
			コンクリートの劣化、損傷	変状なし	D					
栈橋上部工（上・側面部）		Ⅱ	コンクリートの劣化、損傷	変状なし	D					
栈橋上部工（下面部）		Ⅱ	コンクリートの劣化、損傷	変状なし	D					
			コンクリートの分析	変状なし	D					
鋼管杭		Ⅰ	鋼材の腐食、亀裂、損傷	変状なし	D					
		Ⅰ	肉厚測定	変状なし	D					
鋼管杭（被覆防食工）		Ⅱ	モルタル被覆	変状なし	D					
鋼管杭（電気防食工）		Ⅱ	電位測定	変状なし	D					
		Ⅱ	陽極、電位	変状なし	D					
海底地盤		Ⅲ	洗掘、堆積	変状なし	D					
渡版		Ⅲ	本体の損傷、塗装、腐食	変状なし	D					
土留部	ケーソン	Ⅰ	側面の劣化、損傷	変状なし	D					
			コンクリートの劣化、損傷	変状なし	D					
	上部工	Ⅲ	コンクリートの劣化、損傷	変状なし	D					
附帯設備	係船柱	Ⅲ	本体の劣化、損傷、 塗装の剥がれ等の状態	変状なし	D					
	防衛設備	Ⅲ	本体の損傷、破損、 取付金具の腐食等の状態	変状なし	D					
	車止め	Ⅲ	本体の損傷、塗装、腐食	変状なし	D					
	はしご	Ⅲ	本体の損傷、塗装、腐食	変状なし	D					

（将来計画の評価）

－

（維持工事等の計画）

－

（緊急的措置の必要性）

・不要

（補修の必要性）

・不要

（利用面、財政面、代替案）

・施設の重要度は高い

（応急的措置の必要性）

・不要

（計画的措置の必要性）

・不要

（点検診断計画変更の必要性）

－

☐緊急的措置☐応急的措置☐計画的措置☒経過観察措置

本施設は近隣に代替施設のない大水深の岸壁であり重要度は高いが、新設で変状がないため次回点検診断まで適切に日常点検を実施する経過観察措置とする。

維持管理計画書作成事例
(A) 新設する場合
No.2 矢板式係船岸の事例

＊ ＊ 港 ＊ ＊ 地区 ＊ ＊ 岸壁

維持管理計画書

項 目	内 容	備 考
港 格	重要港湾	
港 湾 名	＊ ＊ 港	
地 区 名	＊ ＊ 地区	
施 設 名	＊ ＊ 岸壁	
施 設 番 号	C-＊-＊	

2026 年 4 月

施設設置者 国土交通省

施設管理者 ＊ ＊ 県

目 次

I	総論	1
I-1	計画の目標.....	1
I-2	維持管理の基本的な考え方.....	1
I-3	施設に関連する計画.....	1
I-4	維持管理上の諸条件	2
I-5	付随する施設との関連性.....	5
I-6	維持管理レベル	6
I-7	座標系、位置座標の設定	6
I-8	初回点検診断結果	7
I-9	その他の配慮事項	7
II	点検診断計画.....	8
III	総合評価	10
IV	維持補修計画.....	10
V	参考資料	10

I 総論**I-1 計画の目標**

本施設を維持管理する計画の目標は、以下のとおりとする。

項 目	内 容	備 考
維持管理の計画目標期間	2026～2075 年度	
設計供用期間	50 年	

I-2 維持管理の基本的な考え方

本施設をどのような方針で維持管理していくかの基本的な考え方は、以下のとおりとする。

項 目	内 容	備 考
維持管理の基本的な考え方	各部材の維持管理レベルに応じた対応により維持管理を行う。	
気候変動適応の 考え方	適応策	事前適応策
	適応の概要	2℃上昇シナリオへ対応
通常・重点点検診断施設の設定	通常点検診断施設	

I-3 施設に関連する計画

本施設に関連する計画は、以下のとおりである。

項 目	内 容	備 考
本施設の 港湾計画 への位置づけ	計画策定（位置づけ）年	****年
	将来計画	予定なし（現状を維持）
	大規模地震対策施設計画	無
予防保全計画における措置の優先度	－（経過観察措置）	
大規模地震対策推進地域等の位置づけ	有	
地域防災計画への位置づけ	有	
協働防護計画への位置づけ	有	

I-4 維持管理上の諸条件

本施設の維持管理計画に資する諸条件は、以下のとおりである。

なお、標準断面図、平面図等の関連図面は参考資料として添付する。

(施設の情報)

項 目	内 容	備 考
港格	重要港湾	
港湾名	* * 港	
地区名	* * 地区	
施設名	* * 岸壁	
施設番号	C- * - *	
施設設置者	国土交通省	
施設管理者	* * 県	

(構造形式)

項 目	内 容	備 考
施設の分類	係留施設 岸壁	
構造形式	矢板式係船岸	
水深	D.L. - *.**(m)	
延長（取付部を含む延長）	*.**(m)	
面積	*.**(m ²)	
天端高	D.L. + *.**(m)	

(自然条件)

項 目		内 容	備 考
潮位	基本水準面	D.L±*.**(m)	維持管理 計画書作成 時点
	H.W.L.	D.L+*.**(m)	
	M.S.L.	D.L+*.**(m)	
	L.W.L.	D.L+*.**(m)	

(気候変動の影響を勘案した自然条件)

項 目			内 容	備 考
気候変動の影響を 勘案した潮位	将来作用基準年		2075 年	将来作用 基準年時点
	2℃上昇 シナリオ	H.W.L.	D.L+*.**(m)	
		M.S.L.	D.L+*.**(m)	
		L.W.L.	D.L+*.**(m)	
	4℃上昇 シナリオ	H.W.L.	D.L+*.**(m)	
		M.S.L.	D.L+*.**(m)	
		L.W.L.	D.L+*.**(m)	

(設計履歴)

本施設の設計の履歴は、以下のとおりである。

なお、主な設計条件等は参考資料として添付する。

通番	項 目	内 容	備 考
1	件名	****土質調査	
	適用基準		
	完了年度	****年度	
	受注者	***コンサルタント	
2	件名	****基本設計	
	適用基準	港湾の施設の技術上の基準・同解説（** **年度版）	
	完了年度	****年度	
	受注者	***コンサルタント	
3	件名	****細部設計	
	適用基準	港湾の施設の技術上の基準・同解説（** **年度版）	
	完了年度	****年度	
	受注者	***コンサルタント	
	件名		
	適用基準		
	完了年度		
	受注者		

(施工・補修履歴)

通番	項 目	内 容	備 考
1	件名	***岸壁築造工事	
	完了年度	****年度	
	施工者	***建設・***工業 JV	
	件名		
	完了年度		
	施工者		

(材料特性)

本施設の主な材料特性は以下のとおりである。

なお、詳細な材料特性については、〇〇に保管されている工事完成図書等による。

通番	項 目	内 容	備 考
1	鋼矢板	SY***, **型, ***mm	
2	被覆防食	重防食：期待耐用年数**年	
3	電気防食	流電陽極方式：防食年数**年	
4	コンクリート	**-**-**N	
5	鉄筋	SD***	
6	控え索	高張力鋼NHT**、φ*、L**	
7	コンクリート	**-**-**N	舗装
8	係船柱	曲柱*, ****KN ****	
9	防衝設備	***製 **型 ***H	
10	車止め	***製 ***H型	
11	はしご	***製 **B × ***H	

(利用状況)

港湾計画上の利用情報は以下のとおりである。なお、各年の利用実績は参考資料として添付する。

項 目		内 容	備 考
主要利用船舶の種類		****船	
主要取扱貨物		****	
対象船舶	船型	**, ***D/W	
	船席数	**バース	

I-5 付随する施設との関連性

本施設に付随する施設との関連性は、以下のとおりである。

なお「接続する緊急輸送道路」とは、道路啓開計画に示された港湾施設と接続する道路とする。

(付随する施設)

通番	項 目	内 容	備 考
1	施 設 名	* * * 泊地	
	施設番号	A-1-*	
2	施 設 名	* * * 荷さばき地	
	施設番号	F-4-*	
3	施 設 名	* * * 上屋	
	施設番号	F-5-*	
4	施 設 名	* * * 道路	
	施設番号	D-1-*	
	施 設 名		
	施設番号		

(接続する緊急輸送道路)

通番	項 目	内 容	備 考
1	道 路 名	国道* * 線	
	規 格	一般道	
	道 路 名		
	規 格		

I-6 維持管理レベル

本施設の各部材の維持管理レベル及び維持管理の方針の目安は、以下のとおりとする。

部 材 名 称		維持管理レベル	性能 低下度	維持管理方針の目安
係船岸全体 (岸壁法線)		Ⅲ (事後保全型)	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	経過観察措置
			C	
			D	
鋼管矢板		Ⅰ (事前対策型)	A	－
			B	緊急的措置並びに応急的措置
			C	計画的措置
			D	経過観察措置
鋼管矢板 (被覆防食工)		Ⅱ (予防保全型)	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	計画的措置
			C	経過観察措置
			D	
鋼管矢板 (電気防食工)		Ⅱ (予防保全型)	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	計画的措置
			C	経過観察措置
			D	
上部工 エプロン 海底地盤		Ⅲ (事後保全型)	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	経過観察措置
			C	
			D	
附 帯 設 備	係船柱 防衝設備 車止め 排水設備 はしご	Ⅲ (事後保全型)	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	経過観察措置
			C	
			D	

I-7 座標系、位置座標の設定

本施設の維持管理に有用な、座標系（ブロック番号、部材番号等）及び位置座標（X座標、Y座標、Z座標）は、参考資料として添付する。

I-8 初回点検診断結果

本施設の初回点検診断の実績は以下のとおりである。

なお、点検診断結果は、参考資料として添付する。

項 目	時 期	備 考
初回点検診断	2025 年度	一般・詳細

I-9 その他の配慮事項

項 目	内 容	備 考
代替施設の有無	有	**地区 **岸壁
補修の優先度を考慮する上での配慮事項	(自由記入)	

II 点検診断計画

本施設の点検診断の頻度及び実施条件、点検診断の時期並びに点検診断項目及び点検診断方法は以下のとおりとする。

(点検診断の頻度及び実施条件)

項 目		内 容	備 考
定期点検 診断	一般定期点検診断	5 年以内ごとに少なくとも 1 回	
	詳細定期点検診断	供用期間中に少なくとも 1 回	
臨時点検 診断	一般臨時点検診断	日常点検において特段の異常が確認された場合及び 震度 5 強以上の地震が発生した場合	
	詳細臨時点検診断	一般定期点検診断又は一般臨時点検診断の結果、 詳細点検診断が必要と判断された場合	

(点検診断の時期)

本施設の点検診断の実施時期の見込みは以下のとおりとする。

年度	内 容	備 考	年度	内 容	備 考
2026			2051		
2027			2052		
2028			2053		
2029			2054		
2030	定期点検診断	一般	2055	定期点検診断	一般
2031			2056		
2032			2057		
2033			2058		
2034			2059		
2035	定期点検診断	一般	2060	定期点検診断	一般
2036			2061		
2037			2062		
2038			2063		
2039			2064		
2040	定期点検診断	一般	2065	定期点検診断	一般
2041			2066		
2042			2067		
2043			2068		
2044			2069		
2045	定期点検診断	一般	2070	定期点検診断	一般
2046			2071		
2047			2072		
2048			2073		
2049			2074		
2050	定期点検診断	一般	2075	定期点検診断	一般・詳細

(点検診断項目及び点検診断方法)

部 材 名 称		点検診断項目	点検 の種類	点検診断方法
係船岸全体 (岸壁法線)		凹凸、出入り	一般	点検診断ガイドラインによる
		移動量、傾斜量、沈下量	詳細	点検診断ガイドラインによる
エプロン		沈下、陥没	一般	点検診断ガイドラインによる
		アスファルトの劣化、損傷	一般	点検診断ガイドラインによる
		吸出し、空洞化	詳細	点検診断ガイドラインによる
鋼管矢板		鋼材の腐食、亀裂、損傷	一般	点検診断ガイドラインによる
			詳細	点検診断ガイドラインによる
		肉厚測定	詳細	点検診断ガイドラインによる
鋼管矢板 (被覆防食工)		被覆防食工 (ペトロラタム被覆)	一般	点検診断ガイドラインによる
			詳細	点検診断ガイドラインによる
鋼管矢板 (電気防食工)		電位測定	一般	点検診断ガイドラインによる
		陽極、電位	詳細	点検診断ガイドラインによる
上部工		コンクリートの劣化、損傷	一般	点検診断ガイドラインによる
海底地盤		洗掘、堆積	詳細	点検診断ガイドラインによる
附 帯 設 備	係船柱	本体の劣化、損傷、 塗装のはがれ等の状態	日常	点検診断ガイドラインによる
	防衝設備	本体の損傷、破損、 取付金具の腐食等の状態	日常	点検診断ガイドラインによる
	車止め	本体の損傷、塗装、腐食	日常	点検診断ガイドラインによる
	排水設備	排水設備の破損、グレーチング の変形、腐食	日常	点検診断ガイドラインによる
	はしご	本体の損傷、塗装、腐食	日常	点検診断ガイドラインによる

III 総合評価

総合評価においては、点検診断結果に基づき、施設の変状に対する工学的知見・判断に基づく評価及び計画的かつ適切な維持工事等に向けた現場的行政的判断に基づく評価を行い、今後の施設の維持管理に関する方針を定める。

なお、総合評価結果は参考資料として添付する。

IV 維持補修計画

本施設の維持補修計画は、以下のとおりとする。

通番	項 目	内 容	備 考
1	維持補修概要	犠牲陽極交換	
	実施時期	* * * * 年度	
	概算費用	*, * * * 千円	
	維持補修概要		
	実施時期		
	概算費用		

V 参考資料

参考資料は、以下の資料を添付する。

- ① 関連図面
- ② 設計計算書
- ③ 利用実績
- ④ 座標系及び位置座標
- ⑤ 点検診断結果
- ⑥ 総合評価結果

参考資料①

関連図面

位置図

平面図

標準断面図

参考資料②

設計計算書

本施設に関する設計計算書より、主な維持管理に関連する主な設計条件を以下に抜粋する。

(設計条件 (抜粋))

項 目			内 容	備 考
計画条件等	要求性能	永続作用	使用性	
		変動作用	使用性	
		偶発作用	－	
利用条件等	設計供用期間		50 年	
	計画延長		***.**(m)	
	計画天端高		D.L+*.**(m)	
	計画水深		D.L-*.**(m)	
	設計水深		D.L-*.**(m)	
	基本水準面		D.L±*.**(m)	
	エプロン幅員		**.**(m)	
	エプロン勾配		*.*(%)(順勾配)	
	対象船舶		**,*** (DWT)	
	対象船舶の接岸条件		接岸速度 **.**(cm/sec)	
	牽引力		*,*** (kN)	
	載荷重		永続作用 **.**(kN/m ²) 変動作用 **.**(kN/m ²)	
自然条件等	潮位条件	H.W.L	D.L+*.**(m)	
		M.S.L	D.L+*.**(m)	
		L.W.L	D.L+*.**(m)	
	残留水位条件		D.L+*.**(m)	
	地震条件		レベル 1 地震動 kh = *.**	
気候変動の 影響を勘案した 潮位	将来作用基準年		***	
	2℃上昇シ ナリオ	H.W.L	D.L+*.**(m)	
		M.S.L	D.L+*.**(m)	
		L.W.L	D.L+*.**(m)	
	4℃上昇シ ナリオ	H.W.L	D.L+*.**(m)	
		M.S.L	D.L+*.**(m)	
		L.W.L	D.L+*.**(m)	

項 目			内 容	備 考
材料特性	下部工	鋼材	SY***, **型, ***mm	
		被覆防食工	重防食：期待耐用年数**年	
		電気防食工	流電陽極方式：防食年数**年	
	上部工	コンクリート	* *- *- * * N	
		鉄筋	SD***	
	控え工	控え索	高張力鋼NHT**、φ*、L**	
	舗装	コンクリート舗装	* *- *- * * N	
	附帯設備	係船柱	曲柱*, ***KN ****	
		防衝設備	***製 **型 ***H	
		車止め	***製 ***H型	
		はしご	***製 **B × ***H	

参考資料③

利用実績

(利用実績)

年	取扱貨物量	主要取扱貨物			備考
		1 位	2 位	3 位	
2026					
2027					
2028					
2029					
2030					
2031					
2032					
2033					
2034					
2035					
2036					
2037					
2038					
2039					
2040					
2041					
2042					
2043					
2044					
2045					
2046					
2047					
2048					
2049					
2050					
・ ・ ・					
2075					

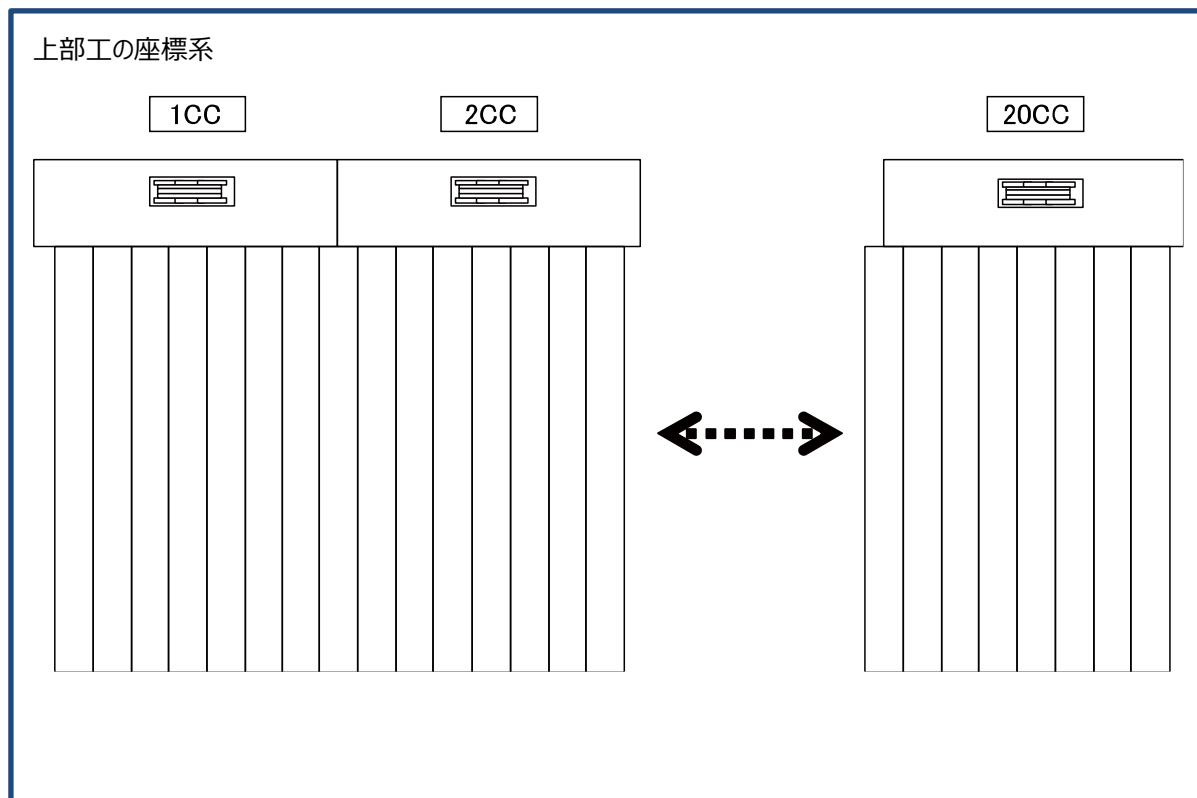
参考資料④

座標系及び位置座標

(座標系記号)

通番	名称	記号	用語
1	上部工	CC	Concrete crown

(座標系)



(位置座標)

本施設の位置座標（X 座標、Y 座標、Z 座標）は必要に応じて設定する。

参考資料⑤

点検診断結果

初回点検診断結果

参考資料⑥

総合評価結果

総合評価結果（2025 年初回点検診断時）

部材		維持管理 レベル	点検診断			①工学的知見・判断 に基づく評価	②現場的・行政的判断 に基づく評価	③施設の維持管理 に関する方針	総合評価の概要	
			点検診断の項目	点検診断結果の概要	性能低下度					
					点検診断 項目					施設 全体
係船岸全体（岸壁法線）		Ⅲ	凹凸、出入り	変状なし	D	D	（将来計画の評価） － （維持工事等の計画） － （利用面、財政面、代替案） ・ 施設の重要度は高い （応急的措置の必要性） ・ 不要 （補修の必要性） ・ 不要 （計画的措置の必要性） ・ 不要 （点検診断計画変更の必要性） －	□緊急的措置 □応急的措置 □計画的措置 ■経過観察措置	本施設は近隣に代替施設 のない大水深の岸壁であり重 要度は高いが、新設で変状が ないため次回点検診断まで適 切に日常点検を実施する経 過観察措置とする。	
		移動量、傾斜量、沈下量	変状なし	D						
エプロン		Ⅲ	沈下、陥没	変状なし	D					
			コンクリートの劣化、損傷	変状なし	D					
			吸い出し、空洞化	変状なし	D					
鋼管矢板		Ⅰ	鋼材の腐食、亀裂、損傷	変状なし	D					
			肉厚測定	変状なし	D					
鋼管矢板（被覆防食工）		Ⅱ	被覆防食工 （ベトロラム被覆）	変状なし	D					
鋼管矢板（電気防食工）		Ⅱ	電位測定	変状なし	D					
		Ⅱ	陽極、電位	変状なし	D					
上部工		Ⅲ	洗掘、堆積	変状なし	D					
海底地盤		Ⅲ	洗掘、堆積	変状なし	D					
附 帯 設 備	係船柱	Ⅲ	本体の劣化、損傷、 塗装の剥がれ等の状態	変状なし	D					
	防衝設備	Ⅲ	本体の損傷、破損、 取付金具の腐食等の状態	変状なし	D					
	車止め	Ⅲ	本体の損傷、塗装、腐食	変状なし	D					
	排水設備	Ⅲ	排水設備の破損、グレーチ ングの変形、腐食	変状なし	D					
	はしご	Ⅲ	本体の損傷、塗装、腐食	変状なし	D					

維持管理計画書作成事例
(A) 新設する場合
No.3 ケーソン式係船岸の事例

＊ ＊ 港 ＊ ＊ 地区 ＊ ＊ 岸壁

維持管理計画書

項 目	内 容	備 考
港 格	重要港湾	
港 湾 名	＊ ＊ 港	
地 区 名	＊ ＊ 地区	
施 設 名	＊ ＊ 岸壁	
施 設 番 号	C-＊-＊	

2026 年 4 月

施設設置者 国土交通省

施設管理者 ＊ ＊ 県

目 次

I	総論	1
I-1	計画の目標.....	1
I-2	維持管理の基本的な考え方.....	1
I-3	施設に関連する計画.....	1
I-4	維持管理上の諸条件	2
I-5	付随する施設との関連性.....	5
I-6	維持管理レベル	6
I-7	座標系、位置座標の設定	6
I-8	初回点検診断結果	6
I-9	その他の配慮事項	7
II	点検診断計画.....	8
III	総合評価	9
IV	維持補修計画.....	10
V	参考資料	10

I 総論**I-1 計画の目標**

本施設を維持管理する計画の目標は、以下のとおりとする。

項 目	内 容	備 考
維持管理の計画目標期間	2026～2075 年度	
設計供用期間	50 年	

I-2 維持管理の基本的な考え方

本施設をどのような方針で維持管理していくかの基本的な考え方は、以下のとおりとする。

項 目	内 容	備 考
維持管理の基本的な考え方	各部材の維持管理レベルに応じた対応により維持管理を行う。	
気候変動適応の 考え方	適応策	事前適応策
	適応の概要	2℃上昇シナリオへ対応
通常・重点点検診断施設の設定	通常点検診断施設	

I-3 施設に関連する計画

本施設に関連する計画は、以下のとおりである。

項 目	内 容	備 考
本施設の 港湾計画 への位置づけ	計画策定（位置づけ）年	＊ ＊ ＊ ＊ 年
	将来計画	予定なし（現状を維持）
	大規模地震対策施設計画	緊急物資輸送
予防保全計画における措置の優先度	－（経過観察措置）	
大規模地震対策推進地域等の位置づけ	有	
地域防災計画への位置づけ	有	
協働防護計画への位置づけ	有	

I-4 維持管理上の諸条件

本施設の維持管理計画に資する諸条件は、以下のとおりである。

なお、標準断面図、平面図等の関連図面は参考資料として添付する。

(施設の情報)

項 目	内 容	備 考
港格	重要港湾	
港湾名	* * 港	
地区名	* * 地区	
施設名	* * 岸壁	
施設番号	C- * - *	
施設設置者	国土交通省	
施設管理者	* * 県	

(構造形式)

項 目	内 容	備 考
施設の分類	係留施設 岸壁	
構造形式	ケーソン式係船岸	
水深	D.L. - *.**(m)	
延長（取付部を含む延長）	*.**(m)	
面積	*.**(m ²)	
天端高	D.L. + *.**(m)	

(自然条件)

項 目		内 容	備 考
潮位	基本水準面	D.L±*.**(m)	維持管理 計画書作成 時点
	H.W.L.	D.L+*.**(m)	
	M.S.L.	D.L+*.**(m)	
	L.W.L.	D.L+*.**(m)	

(気候変動の影響を勘案した自然条件)

項 目		内 容		備 考
気候変動の影響を 勘案した潮位	将来作用基準年		2075 年	将来作用 基準年時点
	2℃上昇 シナリオ	H.W.L.	D.L+*.**(m)	
		M.S.L.	D.L+*.**(m)	
		L.W.L.	D.L+*.**(m)	
	4℃上昇 シナリオ	H.W.L.	D.L+*.**(m)	
		M.S.L.	D.L+*.**(m)	
		L.W.L.	D.L+*.**(m)	

(設計履歴)

本施設の設計の履歴は、以下のとおりである。

なお、主な設計条件は参考資料として添付する。

通番	項 目	内 容	備 考
1	件名	****土質調査	
	適用基準		
	完了年度	****年度	
	受注者	***コンサルタント	
2	件名	****基本設計	
	適用基準	港湾の施設の技術上の基準・同解説(****年度版)	
	完了年度	****年度	
	受注者	***コンサルタント	
3	件名	****細部設計	
	適用基準	港湾の施設の技術上の基準・同解説(****年度版)	
	完了年度	****年度	
	受注者	***コンサルタント	
	件名		
	適用基準		
	完了年度		
	受注者		

(施工・補修履歴)

通番	項 目	内 容	備 考
1	件名	***岸壁本体工事	
	完了年度	****年度	
	施工者	***建設・***工業 JV	
2	件名	***岸壁築造工事	
	完了年度	****年度	
	施工者	***建設・***工業 JV	
	件名		
	完了年度		
	施工者		

(材料特性)

本施設の主な材料特性は以下のとおりである。

なお、詳細な材料特性については、〇〇に保管されている工事完成図書等による。

通番	項 目	内 容	備 考
1	コンクリート	* * - * - * * N	
2	鉄筋	SD * * *	
3	ケーソン中詰砂	転用材 * * ~ * * * kg/個程度	
4	基礎捨石	転用材 * * ~ * * * kg/個程度	
5	被覆石	* * ~ * * * kg/個程度	
6	粗粒度アスファルト	As * *	
7	密粒度アスファルト	As * *	
8	係船柱	曲柱 * , * * * KN * * * *	
9	防衝設備	* * * 製 * * 型 * * * H	
10	車止め	* * * 製 * * * H 型	
11	はしご	* * * 製 * * B × * * * H	

(利用状況)

港湾計画上の利用情報は以下のとおりである。なお、各年の利用実績は参考資料として添付する。

項 目		内 容	備 考
主要利用船舶の種類		* * * * 船	
主要取扱貨物		* * * *	
対象船舶	船型	* * , * * * D/W	
	船席数	* * バース	

I-5 付随する施設との関連性

本施設に付随する施設との関連性は、以下のとおりである。

なお「接続する緊急輸送道路」とは、道路啓開計画に示された港湾施設と接続する道路とする。

(付随する施設)

通番	項 目	内 容	備 考
1	施 設 名	* * * 泊地	
	施設番号	A-1-*	
2	施 設 名	* * * 荷さばき地	
	施設番号	F-4-*	
3	施 設 名	* * * 上屋	
	施設番号	F-5-*	
4	施 設 名	* * * 道路	
	施設番号	D-1-*	
	施 設 名		
	施設番号		

(接続する緊急輸送道路)

通番	項 目	内 容	備 考
1	道 路 名	* * * 自動車道	
	規 格	高規格道路	
2	道 路 名	国道 * * 線	
	規 格	一般道	
	道 路 名		
	規 格		

I-6 維持管理レベル

本施設の各部材の維持管理レベルは、以下のとおりとする。

部 材 名 称		維持管理レベル	性能低下度	維持管理方針の目安
係船岸全体（岸壁法線）		Ⅲ （事後保全型）	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	経過観察措置
			C	
			D	
ケーソン		Ⅰ （事前対策型）	A	－
			B	緊急的措置並びに応急的措置
			C	計画的措置
			D	経過観察措置
上部工 エプロン 海底地盤		Ⅲ （事後保全型）	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	経過観察措置
			C	
			D	
附帯 設備	係船柱 防衝設備 照明設備 車止め 排水設備 柵、扉、ロープ 標識等 荷役機械の基礎 はしご	Ⅲ （事後保全型）	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	経過観察措置
			C	
			D	

I-7 座標系、位置座標の設定

本施設の維持管理に有用な、座標系（ブロック番号、部材番号等）及び位置座標（X座標、Y座標、Z座標）は、参考資料として添付する。

I-8 初回点検診断結果

本施設の初回点検診断の実績は以下のとおりである。

なお、点検診断結果は、参考資料として添付する。

項 目	時期	備 考
初回点検診断	2025 年度	一般・詳細

I-9 その他の配慮事項

項 目	内 容	備 考
代替施設の有無	無	
補修の優先度を考慮する上での配慮事項	(自由記入)	

II 点検診断計画

本施設の点検診断の頻度及び実施条件、点検診断の時期並びに点検診断項目及び点検診断方法は以下のとおりとする。

(点検診断の頻度及び実施条件)

項 目		内 容	備 考
定期点検 診断	一般定期点検診断	5 年以内ごとに少なくとも 1 回	
	詳細定期点検診断	供用期間中に少なくとも 1 回	
臨時点検 診断	一般臨時点検診断	日常点検において特段の異常が確認された場合及び 震度 5 強以上の地震が発生した場合	
	詳細臨時点検診断	一般定期点検診断又は一般臨時点検診断の結果、 詳細点検診断が必要と判断された場合	

(点検診断の時期)

本施設の点検診断の実施時期の見込みは以下のとおりとする。

年 度	内 容	備 考	年 度	内 容	備 考
2026			2051		
2027			2052		
2028			2053		
2029			2054		
2030	定期点検診断	一般	2055	定期点検診断	一般
2031			2056		
2032			2057		
2033			2058		
2034			2059		
2035	定期点検診断	一般	2060	定期点検診断	一般
2036			2061		
2037			2062		
2038			2063		
2039			2064		
2040	定期点検診断	一般	2065	定期点検診断	一般
2041			2066		
2042			2067		
2043			2068		
2044			2069		
2045	定期点検診断	一般	2070	定期点検診断	一般
2046			2071		
2047			2072		
2048			2073		
2049			2074		
2050	定期点検診断	一般	2075	定期点検診断	一般・詳細

(点検診断項目及び点検診断方法)

部 材 名 称		点検診断項目	点検の種類	点検診断方法
係船岸全体 (岸壁法線)		凹凸、出入り	一般	点検診断ガイドラインによる
		移動量、傾斜量、沈下量	詳細	点検診断ガイドラインによる
エプロン		沈下、陥没	一般	点検診断ガイドラインによる
		舗装の段差、わだち掘れ、ひび割れ	一般	点検診断ガイドラインによる
		吸出し、空洞化	詳細	点検診断ガイドラインによる
ケーソン		側壁の劣化、損傷	一般	点検診断ガイドラインによる
		コンクリートの劣化、損傷	詳細	点検診断ガイドラインによる
上部工		コンクリートの劣化、損傷	一般	点検診断ガイドラインによる
海底地盤		洗掘、堆積	詳細	点検診断ガイドラインによる
附帯設備	係船柱	本体の劣化、損傷、塗装のはがれ等の状態	一般	点検診断ガイドラインによる
	防衝設備	本体の損傷、破損、取付金具の腐食等の状態	一般	点検診断ガイドラインによる
	照明設備	灯具、支柱、基礎の劣化、設備等の状態	一般	点検診断ガイドラインによる
	車止め	本体の損傷、塗装、腐食	一般	点検診断ガイドラインによる
	排水設備	排水設備の破損、グレーチングの変形、腐食	一般	点検診断ガイドラインによる
	柵、扉、ロープ	破断、摩耗、編み込み部のゆるみ等の状態	一般	点検診断ガイドラインによる
	標識等	標識板、支柱、基礎の劣化、損傷等の状態	一般	点検診断ガイドラインによる
	荷役機械の基礎	コンクリートの劣化、損傷	一般	点検診断ガイドラインによる
		レールの劣化、損傷、変形	一般	点検診断ガイドラインによる
		基礎金具の劣化、損傷、腐食	一般	点検診断ガイドラインによる
	はしご	本体の損傷、塗装、腐食	一般	点検診断ガイドラインによる

III 総合評価

総合評価においては、点検診断結果に基づき、施設の変状に対する工学的知見・判断に基づく評価及び計画的かつ適切な維持工事等に向けた現場的行政的判断に基づく評価を行い、今後の施設の維持管理に関する方針を定める。

なお、総合評価結果は参考資料として添付する。

IV 維持補修計画

本施設の維持補修計画は、以下のとおりとする。

通番	項 目	内 容	備 考
1	維持補修概要		
	実施時期		
	概算費用		
	維持補修概要		
	実施時期		
	概算費用		

V 参考資料

参考資料は、以下の資料を添付する。

- ① 関連図面
- ② 設計計算書
- ③ 利用実績
- ④ 座標系及び位置座標
- ⑤ 点検診断結果
- ⑥ 総合評価結果

参考資料①

関連図面

位置図

平面図

標準断面図

参考資料②

設計計算書

本施設に関する設計計算書より、主な維持管理に関連する主な設計条件を以下に抜粋する。

(設計条件 (抜粋))

項 目			内 容	備 考
計画条件等	要求性能	永続作用	使用性	
		変動作用	使用性	
		偶発作用	—	
利用条件等	設計供用期間		50 年	
	計画延長		***.**(m)	
	計画天端高		D.L+*.**(m)	
	計画水深		D.L-*.**(m)	
	設計水深		D.L-*.**(m)	
	基本水準面		D.L±*.**(m)	
	エプロン幅員		**.**(m)	
	エプロン勾配		*.*(%)(順勾配)	
	対象船舶		**,*** (DWT)	
	対象船舶の接岸条件		接岸速度 **.**(cm/sec)	
	牽引力		*,*** (kN)	
	載荷重		永続作用 **.**(kN/m ²) 変動作用 **.**(kN/m ²)	
自然条件等	潮位条件	H.W.L	D.L+*.**(m)	
		M.S.L	D.L+*.**(m)	
		L.W.L	D.L+*.**(m)	
	残留水位条件		D.L+*.**(m)	
	地震条件		・レベル 1 地震動 kh = *.** ・レベル 2 地震動 ****地震	
気候変動の 影響を勘案した 潮位	将来作用基準年		***	
	2℃上昇シ ナリオ	H.W.L	D.L+*.**(m)	
		M.S.L	D.L+*.**(m)	
		L.W.L	D.L+*.**(m)	
	4℃上昇シ ナリオ	H.W.L	D.L+*.**(m)	
		M.S.L	D.L+*.**(m)	
		L.W.L	D.L+*.**(m)	

項 目		内 容	備 考
材料特性	本体工	コンクリート	* *- *- * * N
		鉄筋	SD * * *
	上部工	コンクリート	* *- *- * * N
		鉄筋	SD * * *
	舗装	コンクリート舗装	* *- *- * * N
	附帯設備	係船柱	曲柱 *, * * * KN * * * *
		防衝設備	* * * 製 * * 型 * * * H
		車止め	* * * 製 * * * H 型
		はしご	* * * 製 * * B × * * * H

参考資料③

利用実績

(利用実績)

年	取扱貨物量	主要取扱貨物			備考
		1 位	2 位	3 位	
2026					
2027					
2028					
2029					
2030					
2031					
2032					
2033					
2034					
2035					
2036					
2037					
2038					
2039					
2040					
2041					
2042					
2043					
2044					
2045					
2046					
2047					
2048					
2049					
2050					
・ ・ ・					
2075					

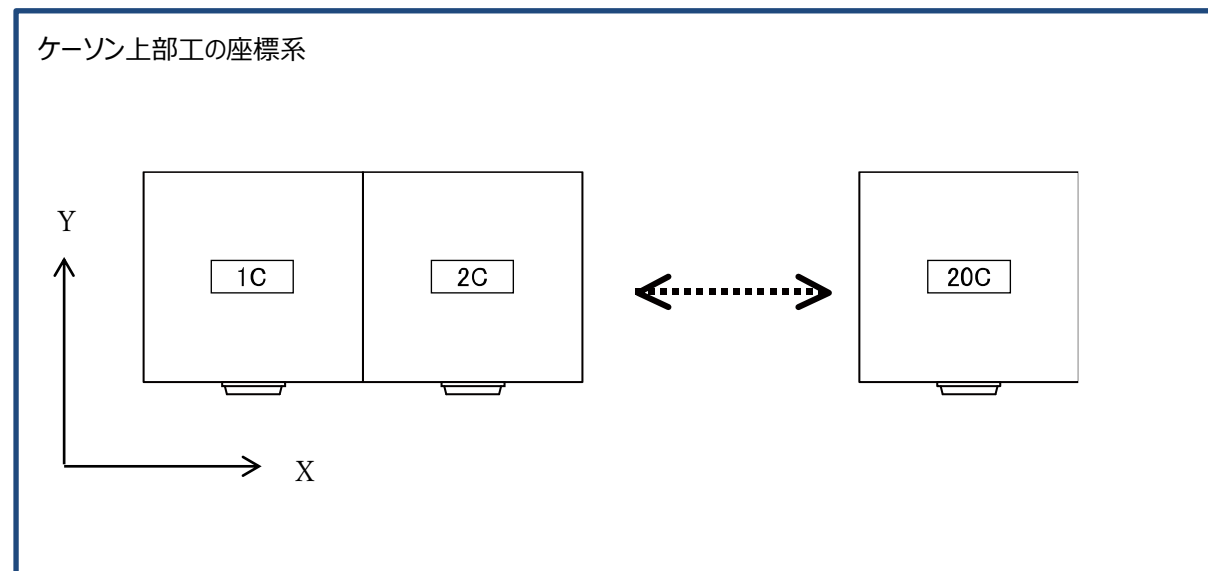
参考資料④

座標系及び位置座標

(座標系記号)

通番	名称	記号	用語
1	ケーソン	C	Caisson

(座標系)



(位置座標)

本施設の位置座標（X 座標、Y 座標、Z 座標）は必要に応じて設定する。

参考資料⑤

点検診断結果

初回点検結果

参考資料⑥

総合評価結果

総合評価結果（2025 年初回点検診断時）

部材		維持管理 レベル	点検診断			①工学的知見・判断 に基づく評価	②現場的・行政的判断 に基づく評価	③施設の維持管理 に関する方針	総合評価の概要	
			点検診断の項目	点検診断結果の概要	性能低下度					
					点検診断 項目					施設 全体
係船岸全体（岸壁法線）		Ⅲ	凹凸、出入り	変状なし	D	D				
			移動量、傾斜量、沈下量	変状なし	D					
エプロン		Ⅲ	沈下、陥没	変状なし	D					
			舗装の段差、わだち掘れ、ひび割れ	変状なし	D					
			吸出し、空洞化	変状なし	D					
ケーソン		Ⅰ	側壁の劣化、損傷	変状なし	D					
			コンクリートの劣化、損傷	変状なし	D					
上部工		Ⅲ	コンクリートの劣化、損傷	変状なし	D					
海底地盤		Ⅲ	洗掘、堆積	変状なし	D					
附帯設備	係船柱	Ⅲ	本体の劣化、損傷、塗装の剥がれ等の状態	変状なし	D					
	防衛設備	Ⅲ	本体の損傷、破損、取付金具の腐食等の状態	変状なし	D					
	照明設備	Ⅲ	灯具、支柱、基礎の劣化、設備等の状態	変状なし	D					
	車止め	Ⅲ	本体の損傷、塗装、腐食	変状なし	D					
	排水設備	Ⅲ	排水設備の破損、グレーチングの変形、腐食	変状なし	D					
	柵、扉、ロープ	Ⅲ	破断、摩耗、編み込み部のゆるみ等の状態	変状なし	D					
	標識等	Ⅲ	標識板、支柱、基礎の劣化、損傷等の状態	変状なし	D					
	荷役機械の基礎	Ⅲ	コンクリートの劣化、損傷	変状なし	D					
		Ⅲ	レールの劣化、損傷、変形	変状なし	D					
		Ⅲ	基礎金具の劣化、損傷、腐食	変状なし	D					
はしご		Ⅲ	本体の損傷、塗装、腐食	変状なし	D					

（緊急的措置の必要性） ・不要 （補修の必要性） ・不要	（将来計画の評価） － （維持工事等の計画） － （利用面、財政面、代替案） ・施設の重要度は高い （応急的措置の必要性） ・不要 （計画的措置の必要性） ・不要 （点検診断計画変更の必要性） －	☐ 緊急的措置 ☐ 応急的措置 ☐ 計画的措置 ☒ 経過観察措置	本施設は近隣に代替施設のない大水深の岸壁であり重要度は高いが、新設で変状がないため次回点検診断まで適切に日常点検を実施する経過観察措置とする。

（将来計画の評価）

（維持工事等の計画）

（利用面、財政面、代替案）

・ 施設の重要度は高い

（応急的措置の必要性）

・ 不要

（計画的措置の必要性）

・ 不要

（点検診断計画変更の必要性）

☐ 緊急的措置☐ 応急的措置☐ 計画的措置☒ 経過観察措置

本施設は近隣に代替施設のない大水深の岸壁であり重要度は高いが、新設で変状がないため次回点検診断まで適切に日常点検を実施する経過観察措置とする。

維持管理計画書作成事例
(A) 新設する場合
No.4 ケーソン式防波堤の事例

＊ ＊ 港 ＊ ＊ 地区 ＊ ＊ 防波堤

維持管理計画書

項 目	内 容	備 考
港 格	重要港湾	
港 湾 名	＊ ＊ 港	
地 区 名	＊ ＊ 地区	
施 設 名	＊ ＊ 防波堤	
施 設 番 号	B - ＊ - ＊	

2026 年 4 月

施設設置者 国土交通省

施設管理者 ＊ ＊ 県

目 次

I	総論	1
I-1	計画の目標.....	1
I-2	維持管理の基本的な考え方.....	1
I-3	施設に関連する計画.....	1
I-4	維持管理上の諸条件	2
I-5	付随する施設との関連性.....	4
I-6	維持管理レベル.....	4
I-7	座標系、位置座標の設定	5
I-8	初回点検診断結果	5
I-9	その他の配慮事項	5
II	点検診断計画.....	6
III	総合評価	7
IV	維持補修計画.....	7
V	参考資料	8

I 総論

I-1 計画の目標

本施設を維持管理する計画の目標は、以下のとおりとする。

項 目	内 容	備 考
維持管理の計画目標期間	2026～2075 年度	
設計供用期間	50 年	

I-2 維持管理の基本的な考え方

本施設をどのような方針で維持管理していくかの基本的な考え方は、以下のとおりとする。

項 目	内 容	備 考
維持管理の基本的な考え方	各部材の維持管理レベルに応じた対応により維持管理を行う。	
気候変動適応の 考え方	適応策	事前適応策
	適応の概要	2℃上昇シナリオへ対応
通常・重点点検診断施設の設定	通常点検診断施設	

I-3 施設に関連する計画

本施設に関連する計画は、以下のとおりである。

項 目	内 容	備 考
本施設の 港湾計画 への位置づけ	計画策定（位置づけ）年	＊ ＊ ＊ ＊ 年
	将来計画	予定なし（現状を維持）
予防保全計画における措置の優先度	－（経過観察措置）	
大規模地震対策推進地域等の位置づけ	有	
協働防護計画への位置づけ	有	

I-4 維持管理上の諸条件

本施設の維持管理計画に資する諸条件は、以下のとおりである。

なお、標準断面図、平面図等の関連図面は参考資料として添付する。

(施設の情報)

項 目	内 容	備 考
港格	重要港湾	
港湾名	* * 港	
地区名	* * 地区	
施設名	* * 防波堤	
施設番号	B - * - *	
施設設置者	国土交通省	
施設管理者	* * 県	

(施設の情報)

項 目	内 容	備 考
施設の分類	外郭施設 防波堤	
構造形式	ケーソン式防波堤	
延長	* *.*(m)	
天端高	D.L.+* *.*(m)	

(自然条件)

設計条件に関する項目		内 容	備考
潮位	基本水準面	D.L±* **.*(m)	維持管理 計画書作成 時点
	H.W.L.	D.L+* **.*(m)	
	M.S.L.	D.L+* **.*(m)	
	L.W.L.	D.L+* **.*(m)	

(気候変動の影響を勘案した潮位)

設計条件に関する項目			内 容	備考
気候変動の影響を 勘案した潮位	将来作用基準年		2075 年	将来作用 基準年時点
	2℃上昇 シナリオ	H.W.L.	D.L+*.**(m)	
		M.S.L.	D.L+*.**(m)	
		L.W.L.	D.L+*.**(m)	
	4℃上昇 シナリオ	H.W.L.	D.L+*.**(m)	
		M.S.L.	D.L+*.**(m)	
		L.W.L.	D.L+*.**(m)	

(設計履歴)

本施設の設計の履歴は、以下のとおりである。

なお、主な設計条件は参考資料として添付する。

通番	項 目	内 容	備 考
1	件名	****土質調査	
	適用基準		
	完了年度	****年度	
	受注者	***コンサルタント	
2	件名	****基本設計	
	適用基準	港湾の施設の技術上の基準・同解説 (****年度版)	
	完了年度	****年度	
	受注者	***コンサルタント	
3	件名	****細部設計	
	適用基準	港湾の施設の技術上の基準・同解説 (****年度版)	
	完了年度	****年度	
	受注者	***コンサルタント	
	件名		
	適用基準		
	完了年度		
	受注者		

(施工・補修履歴)

通番	項 目	内 容	備 考
1	件名	***重力式防波堤新設工事	
	完了年度	****年度	
	施工者	***建設・***工業 JV	
	件名		
	完了年度		
	施工者		

(材料特性)

本施設の主な材料特性は以下のとおりである。

なお、詳細な材料特性については、〇〇に保管されている工事完成図書等による。

通番	項 目	内 容	備 考
1	コンクリート	* * - * - * * N	
2	鉄筋	SD * * *	
3	ケーソン中詰砂	転用材 * * ~ * * * kg/個程度	
4	消波ブロック	* * トン	
5	マウンド材	転用材 * * ~ * * * kg/個程度	
6	被覆材	転用材 * * ~ * * * kg/個程度	
7	根固材	転用材 * * ~ * * * kg/個程度	

I-5 付随する施設との関連性

該当なし

I-6 維持管理レベル

本施設の各部材の維持管理レベルは、以下のとおりとする。

部 材 名 称	維持管理レベル	性能低下度	維持管理方針の目安
防波堤全体	Ⅲ	A	緊急的措置並びに応急的措置
		B	経過観察措置
		C	
		D	
ケーソン	Ⅰ (事前対策型)	A	－
		B	緊急的措置並びに応急的措置
		C	計画的措置
		D	経過観察措置
上部工 消波工 海底地盤 被覆工 根固工	Ⅲ (事後保全型)	A	緊急的措置並びに応急的措置
		B	経過観察措置
		C	
		D	

I-7 座標系、位置座標の設定

本施設の維持管理に有用な、座標系（ブロック番号、部材番号等）及び位置座標（X座標、Y座標、Z座標）は、参考資料として添付する。

I-8 初回点検診断結果

本施設の初回点検診断の実績は以下のとおりである。

なお、点検診断結果は、参考資料として添付する。

項 目	時 期	備 考
初回点検診断	2025 年度	一般・詳細

I-9 その他の配慮事項

項 目	内 容	備 考
代替施設の有無	無	
補修の優先度を考慮する上での配慮事項	（自由記入）	

II 点検診断計画

本施設の点検診断の頻度及び実施条件、点検診断の時期並びに点検診断項目及び点検診断方法は以下のとおりとする。

(点検診断の頻度もしくは実施条件)

項 目		内 容	備 考
定期点検 診断	一般定期点検診断	5 年以内ごとに少なくとも 1 回	
	詳細定期点検診断	供用期間中に少なくとも 1 回	
臨時点検 診断	一般臨時点検診断	日常点検において特段の異常が確認された場合及び 震度 5 強以上の地震が発生した場合	
	詳細臨時点検診断	一般定期点検診断もしくは一般臨時点検診断の結果、 詳細点検診断が必要と判断された場合	

(点検診断の時期)

本施設の点検診断実施時期の見込みは以下のとおりとする。

年 度	内 容	備 考	年 度	内 容	備 考
2026			2051		
2027			2052		
2028			2053		
2029			2054		
2030	定期点検診断	一般	2055	定期点検診断	一般
2031			2056		
2032			2057		
2033			2058		
2034			2059		
2035	定期点検診断	一般	2060	定期点検診断	一般
2036			2061		
2037			2062		
2038			2063		
2039			2064		
2040	定期点検診断	一般	2065	定期点検診断	一般
2041			2066		
2042			2067		
2043			2068		
2044			2069		
2045	定期点検診断	一般	2070	定期点検診断	一般
2046			2071		
2047			2072		
2048			2073		
2049			2074		
2050	定期点検診断	一般	2075	定期点検診断	一般・詳細

(点検診断項目及び点検診断方法)

部 材 名 称	点検診断項目	点検 の種類	点検診断方法
防波堤全体	移動	一般	点検診断ガイドラインによる
	沈下	一般	点検診断ガイドラインによる
ケーソン	コンクリートの劣化、損傷	一般	点検診断ガイドラインによる
		詳細	点検診断ガイドラインによる
	ケーソンの空洞化	詳細	点検診断ガイドラインによる
上部工	コンクリートの劣化、損傷	一般	点検診断ガイドラインによる
消波工	移動、散乱、沈下	一般	点検診断ガイドラインによる
	損傷、欠損	一般	点検診断ガイドラインによる
	移動、散乱、沈下	詳細	点検診断ガイドラインによる
海底地盤	洗掘、堆積	詳細	点検診断ガイドラインによる
被覆工	移動、散乱、沈下	詳細	点検診断ガイドラインによる
根固工	移動、散乱、沈下	詳細	点検診断ガイドラインによる

III 総合評価

総合評価においては、点検診断結果に基づき、施設の変状に対する工学的知見・判断に基づく評価及び計画的かつ適切な維持工事等に向けた現場的行政的判断に基づく評価を行い、今後の施設の維持管理に関する方針を定める。

なお、総合評価結果は参考資料として添付する。

IV 維持補修計画

本施設の維持補修計画は、以下のとおりとする。

通番	項 目	内 容	備 考
1	維持補修概要		
	実施時期		
	概算費用		
	維持補修概要		
	実施時期		
	概算費用		

V 参考資料

参考資料は、以下の資料を添付する。

- ① 関連図面
- ② 設計計算書
- ③ 座標系及び位置座標
- ④ 点検診断結果
- ⑤ 総合評価結果

参考資料①

関連図面

位置図

平面図

標準断面図

参考資料②

設計計算書

本施設に関する設計計算書より、主な維持管理に関連する主な設計条件を以下に抜粋する。

(設計条件)

項 目			内 容	備 考
【計画条件等】	要求性能	永続作用	使用性	
		変動作用	使用性	
		偶発作用	－	
【利用条件等】	設計供用期間		50 年	
	計画延長		***.**(m)	
	計画天端高		D.L+*.**(m)	
	計画水深		D.L-*.**(m)	
	設計水深		D.L-*.**(m)	
	基本水準面		D.L±*.**(m)	
【自然条件等】	潮位条件	H.W.L	D.L+*.**(m)	
		M.S.L	D.L+*.**(m)	
		L.W.L	D.L+*.**(m)	
	波浪条件		$H_{(1/3)}$ *.**(m)	
	地震条件		レベル 1 地震動 kh = *.**	
【気候変動の影響を勘案した潮位】	将来作用基準年		****年	
	2℃上昇シナリオ	H.W.L	D.L+*.**(m)	
		M.S.L	D.L+*.**(m)	
		L.W.L	D.L+*.**(m)	
	4℃上昇シナリオ	H.W.L	D.L+*.**(m)	
		M.S.L	D.L+*.**(m)	
		L.W.L	D.L+*.**(m)	
材料特性	本体工	コンクリート	* * - * - * * N	
		鉄筋	SD * * *	
	上部工	コンクリート	* * - * - * * N	
		鉄筋	SD * * *	
	中詰工	中詰砂	転用材 * * ～ * * * kg/個程度	
	消波工	消波ブロック	* * トン	
	マウンド工	マウンド材	転用材 * * ～ * * * kg/個程度	
	被覆工	被覆材	転用材 * * ～ * * * kg/個程度	
	根固工	根固材	転用材 * * ～ * * * kg/個程度	

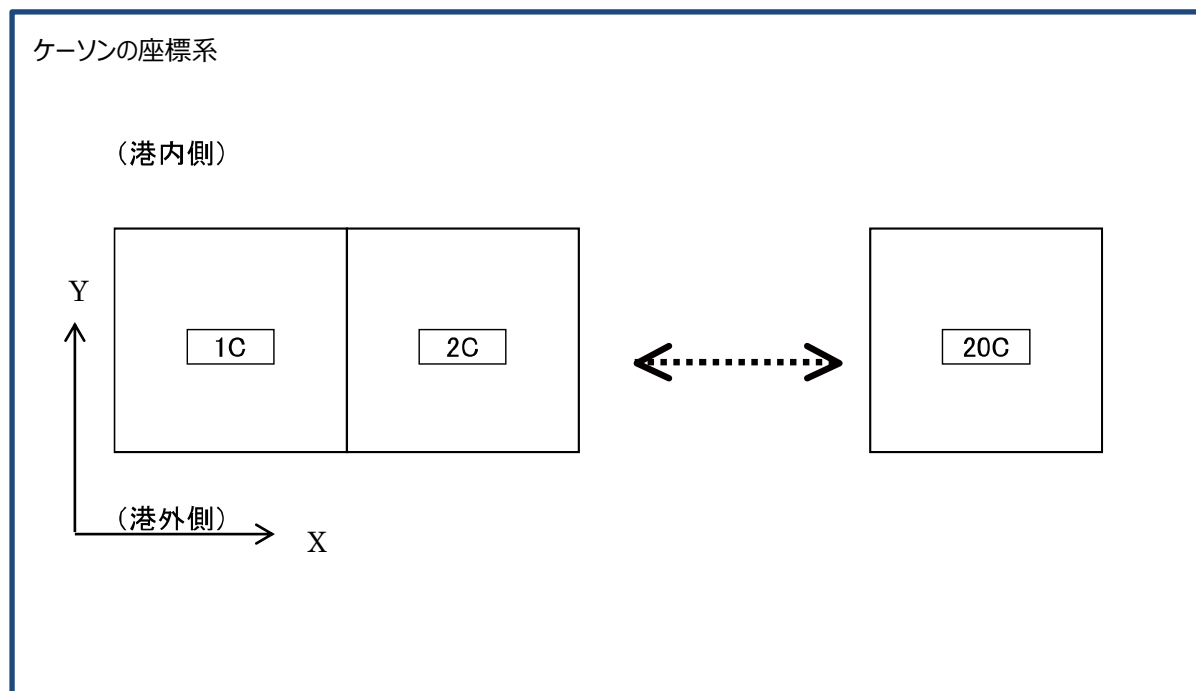
参考資料③

座標系及び位置座標

(座標系記号)

通番	名称	記号	用語
1	ケーソン	C	Caisson

(座標系)



(位置座標)

本施設の位置座標（X 座標、Y 座標、Z 座標）は必要に応じて設定する。

参考資料⑤

点検診断結果

初回点検結果

参考資料⑥

総合評価結果

総合評価結果（2025 年初回点検診断時）

部材	維持管理 レベル	点検診断				①工学的知見・判断 に基づく評価	②現場的・行政的判断 に基づく評価	③施設の維持管理 に関する方針	総合評価の概要
		点検診断の項目	点検診断結果の概要	性能低下度					
				点検診断 項目	施設 全体				
防波堤全体	Ⅲ	移動	変状なし	D	D	（緊急的措置の必要性） ・不要 （補修の必要性） ・不要	（将来計画の評価） － （維持工事等の計画） － （利用面、財政面、代替案） ・施設の重要度は高い （応急的措置の必要性） ・不要 （計画的措置の必要性） ・不要 （点検診断計画変更の必要性） －	☐ 緊急的措置 ☐ 応急的措置 ☐ 計画的措置 ☒ 経過観察措置	本施設は、港内の静穏度を確保し、船舶の安全な出入りや停泊を確保するために築造された防波堤であるが、新設で変状がないため、次回点検診断まで適切に日常点検を実施する経過観察措置とする。
	Ⅲ	沈下	変状なし	D					
ケーソン	Ⅰ	コンクリートの劣化、損傷（目視）	変状なし	D					
		コンクリートの劣化、損傷（潜水）	変状なし	D					
		ケーソンの空洞化	変状なし	D					
上部工	Ⅲ	コンクリートの劣化、損傷	変状なし	D					
消波工	Ⅲ	移動、散乱、沈下	変状なし	D					
		損傷、欠損	変状なし	D					
		移動、散乱、沈下	変状なし	D					
海底地盤	Ⅲ	洗掘、堆積	変状なし	D					
被覆工	Ⅲ	移動、散乱、沈下	変状なし	D					
根固工	Ⅲ	移動、散乱、沈下	変状なし	D					

維持管理計画書作成事例

(A) 新設する場合

No.5 矢板式護岸の事例

＊ ＊ 港 ＊ ＊ 地区 ＊ ＊ 護岸

維持管理計画書

項 目	内 容	備 考
港 格	重要港湾	
港 湾 名	＊ ＊ 港	
地 区 名	＊ ＊ 地区	
施 設 名	＊ ＊ 護岸	
施 設 番 号	B - ＊ - ＊	

2026 年 4 月

施設設置者 国土交通省

施設管理者 ＊ ＊ 県

目 次

I	総論	1
I-1	計画の目標.....	1
I-2	維持管理の基本的な考え方.....	1
I-3	施設に関連する計画.....	1
I-4	維持管理上の諸条件	2
I-5	付随する施設との関連性.....	4
I-6	維持管理レベル.....	5
I-7	座標系、位置座標の設定	5
I-8	初回点検診断結果	5
I-9	その他の配慮事項	6
II	点検診断計画.....	6
III	総合評価	8
IV	維持補修計画.....	8
V	参考資料	9

I 総論

I-1 計画の目標

本施設を維持管理する計画の目標は、以下のとおりとする。

項 目	内 容	備 考
維持管理の計画目標期間	2026～2075 年度	
設計供用期間	50 年	

I-2 維持管理の基本的な考え方

本施設をどのような方針で維持管理していくかの基本的な考え方は、以下のとおりとする。

項 目	内 容	備 考
維持管理の基本的な考え方	各部材の維持管理レベルに応じた対応により維持管理を行う。	
気候変動適応の 考え方	適応策	事前適応策
	適応の概要	2℃上昇シナリオへ対応
通常・重点点検診断施設の設定	通常点検診断施設	

I-3 施設に関連する計画

本施設に関連する計画は、以下のとおりである。

項 目	内 容	備 考
本施設の 港湾計画 への位置づけ	計画策定（位置づけ）年	＊ ＊ ＊ ＊ 年
	将来計画	予定なし（現状を維持）
予防保全計画における措置の優先度	－（経過観察措置）	
大規模地震対策推進地域等の位置づけ	有	
協働防護計画への位置づけ	有	

I-4 維持管理上の諸条件

本施設の維持管理計画に資する諸条件は、以下のとおりである。

なお、標準断面図、平面図等の関連図面は参考資料として添付する。

(施設の情報)

項 目	内 容	備 考
港格	重要港湾	
港湾名	* * 港	
地区名	* * 地区	
施設名	* * 護岸	
施設番号	B - * - *	
施設設置者	国土交通省	
施設管理者	* * 県	

(構造形式)

項 目	内 容	備 考
施設の分類	外郭施設 護岸	
構造形式	矢板式護岸	
延長	* * . * (m)	
天端高	D.L. + * * . * (m)	

(自然条件)

項 目	内 容	備 考
潮位	基本水準面	D.L. ± * . ** (m)
	H.W.L.	D.L. + * . ** (m)
	M.S.L.	D.L. + * . ** (m)
	L.W.L.	D.L. + * . ** (m)

(気候変動の影響を勘案した自然条件)

項 目		内 容		備 考	
気候変動の影響を 勘案した潮位	将来作用基準年		2075 年		将来作用 基準年時点
	2℃上昇 シナリオ	H.W.L.	D.L+*.**(m)		
		M.S.L.	D.L+*.**(m)		
		L.W.L.	D.L+*.**(m)		
	4℃上昇 シナリオ	H.W.L.	D.L+*.**(m)		
		M.S.L.	D.L+*.**(m)		
		L.W.L.	D.L+*.**(m)		

(設計履歴)

本施設の設計の履歴は、以下のとおりである。

なお、主な設計条件は参考資料として添付する。

通番	項 目	内 容	備 考
1	件名	****土質調査	
	適用基準		
	完了年度	****年度	
	受注者	***コンサルタント	
2	件名	****基本設計	
	適用基準	港湾の施設の技術上の基準・同解説 (****年度版)	
	完了年度	****年度	
	受注者	***コンサルタント	
3	件名	****細部設計	
	適用基準	港湾の施設の技術上の基準・同解説 (****年度版)	
	完了年度	****年度	
	受注者	***コンサルタント	
	件名		
	適用基準		
	完了年度		
	受注者		

(施工・補修履歴)

通番	項 目	内 容	備 考
1	件名	***護岸築造工事	
	完了年度	****年度	
	施工者	***建設	
	件名		
	完了年度		
	施工者		

(材料特性)

本施設の主な材料特性は以下のとおりである。

なお、詳細な材料特性については、〇〇に保管されている工事完成図書等による。

通番	項 目	内 容	備 考
1	鋼矢板	SY***, **型, *** mm	
2	被覆防食	重防食：期待耐用年数**年	
3	電気防食	流電陽極方式：防食年数**年	
4	コンクリート	***-**-**N	
5	鉄筋	SD***	
6	控え索	高張力鋼NHT**、φ*、L**	
7	水叩きコンクリート	***-**-**N	
8	排水設備	***製 ***H型	

I-5 付随する施設との関連性

本施設に付随する施設との関連性は、以下のとおりである。

(付随する施設)

通番	項 目	内 容	備 考
1	施 設 名		
	施設番号		
	施 設 名		
	施設番号		

I-6 維持管理レベル

本施設の各部材の維持管理レベルは、以下のとおりとする。

部 材 名 称		維持管理レベル	性能低下度	維持管理方針の目安
鋼矢板等		Ⅰ (事前対策型)	A	—
			B	緊急的措置並びに応急的措置
			C	計画的措置
			D	経過観察措置
水叩き 護岸全体 上部工 海底地盤		Ⅲ (事後保全型)	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	経過観察措置
			C	
			D	
鋼矢板等 (被覆防食工) 鋼矢板等 (電気防食工)		Ⅱ (予防保全型)	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	計画的措置
			C	経過観察措置
			D	
附帯設備	排水設備	Ⅲ (事後保全型)	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	経過観察措置
			C	
			D	

I-7 座標系、位置座標の設定

本施設の維持管理に有用な、座標系（ブロック番号、部材番号等）及び位置座標（X座標、Y座標、Z座標）は、参考資料として添付する。

I-8 初回点検診断結果

本施設の初回点検診断の実績は以下のとおりである。

なお、点検診断結果は、参考資料として添付する。

項 目	時期	備 考
初回点検診断	2025 年度	一般・詳細

I-9 その他の配慮事項

項 目	内 容	備 考
代替施設の有無	無	
補修の優先度を考慮する上での配慮事項	(自由記入)	

II 点検診断計画

本施設の点検診断の頻度及び実施条件、点検診断の時期並びに点検診断項目及び点検診断方法は以下のとおりとする。

(点検診断の頻度及び実施条件)

項 目	内 容	備 考
定期点検 診断	一般定期点検診断	5 年以内ごとに少なくとも 1 回
	詳細定期点検診断	供用期間中に少なくとも 1 回
臨時点検 診断	一般臨時点検診断	日常点検において特段の異常が確認された場合及び 震度 5 強以上の地震が発生した場合
	詳細臨時点検診断	一般定期点検診断又は一般臨時点検診断の結果、 詳細点検診断が必要と判断された場合

(点検診断の時期)

本施設の点検診断の実施時期の見込みは以下のとおりとする。

年度	内 容	備 考	年度	内 容	備 考
2026			2051		
2027			2052		
2028			2053		
2029			2054		
2030	定期点検診断	一般	2055	定期点検診断	一般
2031			2056		
2032			2057		
2033			2058		
2034			2059		
2035	定期点検診断	一般	2060	定期点検診断	一般
2036			2061		
2037			2062		
2038			2063		
2039			2064		
2040	定期点検診断	一般	2065	定期点検診断	一般
2041			2066		
2042			2067		
2043			2068		
2044			2069		
2045	定期点検診断	一般	2070	定期点検診断	一般
2046			2071		
2047			2072		
2048			2073		
2049			2074		
2050	定期点検診断	一般	2075	定期点検診断	一般・詳細

(点検診断項目及び点検診断方法)

部 材 名 称		点検診断項目	点検の種類	点検診断方法
水叩き		水叩きのひび割れ、損傷	日常	点検診断ガイドラインによる
護岸全体		施設全体の移動	一般	点検診断ガイドラインによる
		施設全体の沈下	一般	点検診断ガイドラインによる
		陥没、吸出し、空洞化	一般	点検診断ガイドラインによる
			詳細	点検診断ガイドラインによる
鋼矢板等		鋼材の腐食、亀裂、損傷	一般	点検診断ガイドラインによる
		肉厚測定	詳細	点検診断ガイドラインによる
鋼矢板等 (被覆防食工)		被覆防食工（重防食被覆）	一般	点検診断ガイドラインによる
			詳細	点検診断ガイドラインによる
鋼矢板等 (電気防食工)		電位測定	一般	点検診断ガイドラインによる
		直流電源及び電気設備	詳細	点検診断ガイドラインによる
上部工		コンクリートの劣化、損傷	一般	点検診断ガイドラインによる
海底地盤		洗掘、堆積	詳細	点検診断ガイドラインによる
附帯設備	排水設備	排水設備の破損、グレーチングの変形、腐食	日常	点検診断ガイドラインによる

III 総合評価

総合評価は、点検診断結果に基づき、施設の変状に対する工学的知見・判断に基づく評価及び計画的かつ適切な維持工事等に向けた現場的行政的判断に基づく評価を行い、今後の施設の維持管理に関する方針を定める。

なお、総合評価結果は参考資料として添付する。

IV 維持補修計画

本施設の維持補修計画は、以下のとおりとする。

通番	項 目	内 容	備 考
1	維持補修概要	犠牲陽極交換	
	実施時期	****年度	
	概算費用	*,***千円	

V 参考資料

参考資料は、以下の資料を添付する。

- ① 関連図面
- ② 設計計算書
- ③ 座標系及び位置座標
- ④ 点検診断結果
- ⑤ 総合評価結果

参考資料①

関連図面

位置図

平面図

標準断面図

参考資料②

設計計算書

本施設に関する設計計算書より、主な維持管理に関連する主な設計条件を以下に抜粋する。

(設計条件 (抜粋))

項 目			内 容	備 考
【計画条件等】	要求性能	永続作用	使用性	
		変動作用	使用性	
		偶発作用	－	
【利用条件等】	設計供用期間		50 年	
	計画延長		***.**(m)	
	計画天端高		D.L+*.**(m)	
	基本水準面		D.L±*.**(m)	
	水叩き幅員		**(m)	
	水叩き勾配		*.%(%) (順勾配)	
【自然条件等】	潮位条件	H.W.L	D.L+*.**(m)	
		M.S.L	D.L+*.**(m)	
		L.W.L	D.L+*.**(m)	
	波浪条件		$H_{(1/3)}$ *.**(m)	
	残留水位条件		D.L+*.**(m)	
	地震条件		・レベル 1 地震動 kh = *.**	
【気候変動の 影響を勘案した 潮位】	将来作用基準年		****年	
	2℃上昇 シナリオ	H.W.L	D.L+*.**(m)	
		M.S.L	D.L+*.**(m)	
		L.W.L	D.L+*.**(m)	
	4℃上昇 シナリオ	H.W.L	D.L+*.**(m)	
		M.S.L	D.L+*.**(m)	
		L.W.L	D.L+*.**(m)	
材料特性	鋼矢板	鋼材	SY***, **型, ***mm	
		被覆防食工	重防食：期待耐用年数(30～35 年)	
		電気防食工	流電陽極方式：防食年数**年	
	上部工	コンクリート	*-*-*-**N	
		鉄筋	SD***	
	控え工	控え索	高張力鋼NHT**、φ*、L**	
	水叩き	コンクリート 舗装	*-*-*-**N	
	附帯設備	排水設備	***製 ***H 型	

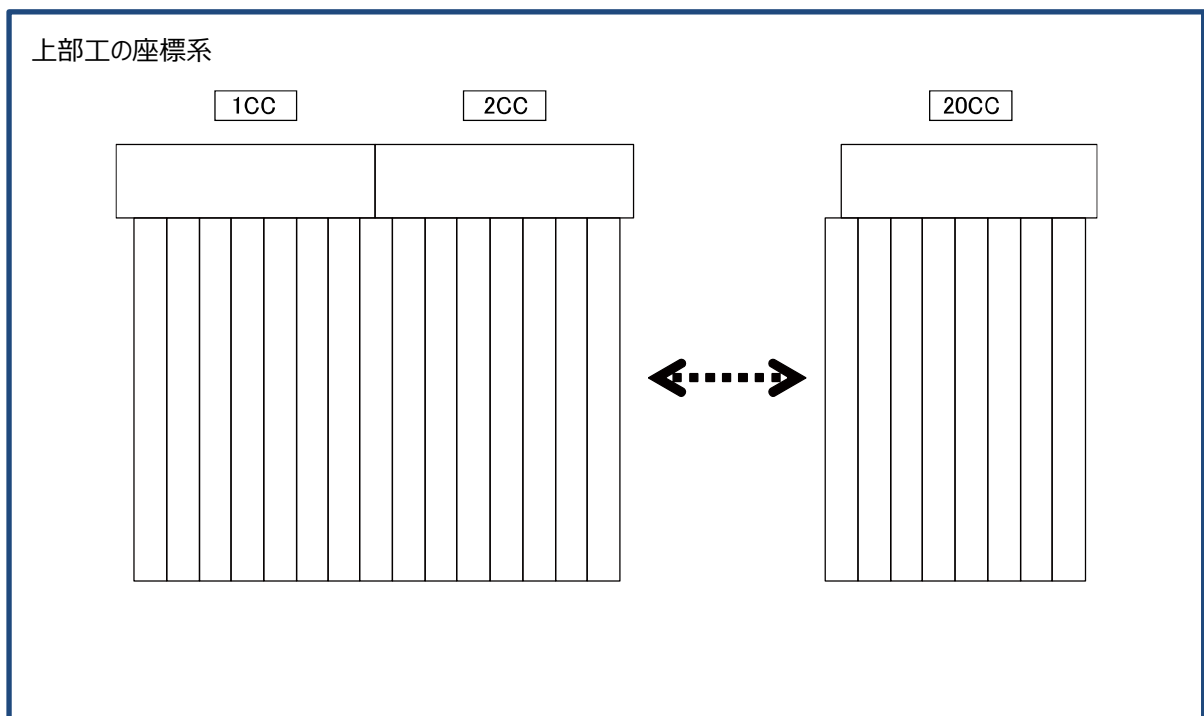
参考資料④

座標系及び位置座標

(座標系記号)

通番	名称	記号	用語
1	上部工	1CC	Concrete crown (Coping concrete)

(座標系)



(位置座標)

本施設の位置座標（X 座標、Y 座標、Z 座標）は必要に応じて設定する。

参考資料⑤

点検診断結果

初回点検診断結果

参考資料⑥

総合評価結果

総合評価結果（2025 年初回点検診断時）

部材		維持管理 レベル	点検診断			①工学的知見・判断 に基づく評価	②現場的・行政的判断 に基づく評価	③施設の維持管理 に関する方針	総合評価の概要	
			点検診断の項目	点検診断結果の概要	性能低下度					
					点検診断 項目					施設 全体
水叩き		Ⅲ	水叩きのひび割れ、損傷	変状なし	D	D	（緊急的措置の必要性） ・不要 （補修の必要性） ・不要	（将来計画の評価） － （維持工事等の計画） － （利用面、財政面、代替案） ・施設の重要度は高い （応急的措置の必要性） ・不要 （計画的措置の必要性） ・不要 （点検診断計画変更の必要性） －	□緊急的措置 □応急的措置 □計画的措置 ■経過観察措置	本施設は波・潮流・高潮などの力を受け止め、背後の土地を侵食や浸水から守るための重要度の高い護岸である。新設で変状がないため、次回点検診断まで適切に日常点検を実施する経過観察措置とする。
護岸全体		Ⅲ	施設全体の移動	変状なし	D					
			施設全体の沈下	変状なし	D					
			陥没、吸出し、空洞化	変状なし	D					
鋼矢板等		Ⅰ	鋼材の腐食、亀裂、空洞化（目視）	変状なし	D					
			鋼材の腐食、亀裂、空洞化（潜水）	変状なし	D					
			肉厚測定	変状なし	D					
鋼矢板等 （被覆防食工）		Ⅱ	被覆防食工（重防食工）（目視）	変状なし	D					
			被覆防食工（重防食工）（潜水）	変状なし	D					
鋼矢板等 （電気防食工）		Ⅱ	電位測定	変状なし	D					
			直流電源及び電気設備	変状なし	D					
上部工		Ⅲ	コンクリートの劣化、損傷	変状なし	D					
海底地盤		Ⅲ	洗掘、堆積	変状なし	D					
附帯設備	排水設備	Ⅲ	排水設備の破損、グレーチングの変形、腐食	変状なし	D					

維持管理計画書作成事例
(A) 新設する場合
No.6 橋梁（PC 箱桁橋）の事例

＊ ＊ 港 ＊ ＊ 地区 ＊ ＊ 橋

維持管理計画書

項 目	内 容	備 考
港 格	重要港湾	
港 湾 名	＊ ＊ 港	
地 区 名	＊ ＊ 地区	
施 設 名	＊ ＊ 橋	
施 設 番 号	D - ＊ - ＊	

2026 年 4 月

施設設置者 国土交通省

施設管理者 ＊ ＊ 県

目 次

I	総論	1
I-1	計画の目標.....	1
I-2	維持管理の基本的な考え方.....	1
I-3	施設に関連する計画.....	1
I-4	維持管理上の諸条件	2
I-5	付随する施設との関連性.....	5
I-6	維持管理レベル.....	6
I-7	座標系、位置座標の設定	6
I-8	初回点検診断結果	6
I-9	その他の配慮事項	7
II	点検診断計画.....	7
III	総合評価	11
IV	維持補修計画.....	11
V	参考資料	11

I 総論**I-1 計画の目標**

本施設を維持管理する計画の目標は、以下のとおりとする。

項 目	内 容	備 考
維持管理の計画目標期間	2026～2125 年度	
設計供用期間	100 年	

I-2 維持管理の基本的な考え方

本施設をどのような方針で維持管理していくかの基本的な考え方は、以下のとおりとする。

項 目	内 容	備 考
維持管理の基本的な考え方	各部材の維持管理レベルに応じた対応により維持管理を行う。	
通常・重点点検診断施設の設定	通常点検診断施設	

I-3 施設に関連する計画

本施設に関連する計画は、以下のとおりである。

項 目	内 容	備 考
本施設の 港湾計画 への位置づけ	計画策定（位置づけ）年	＊ ＊ ＊ ＊ 年
	将来計画	予定なし（現状を維持）
	大規模地震対策施設計画	緊急物資輸送
予防保全計画における措置の優先度	－（経過観察措置）	
大規模地震対策推進地域等の位置づけ	有	
地域防災計画への位置づけ	有	
協働防護計画への位置づけ	有	

I-4 維持管理上の諸条件

本施設の維持管理計画に資する諸条件は、以下のとおりである。

なお、標準断面図、平面図等の関連図面は参考資料として添付する。

(施設の情報)

項 目	内 容	備 考
港格	重要港湾	
港湾名	* * 港	
地区名	* * 地区	
施設名	* * 橋梁	
施設番号	D - * - *	
施設設置者	国土交通省	
施設管理者	* * 県	

(構造形式)

項 目	内 容	備 考
施設の分類	臨港交通施設 橋梁	
構造形式	橋梁 (PC 箱桁橋)	
延長 (取付部を含む延長)	* * . * (m)	

(自然条件)

項 目		内 容	備 考
潮位	基本水準面	D.L±*.**(m)	維持管理 計画書作成 時点
	H.W.L.	D.L+*.**(m)	
	M.S.L.	D.L+*.**(m)	
	L.W.L.	D.L+*.**(m)	

(設計履歴)

本施設の設計の履歴は、以下のとおりである。

なお、主な設計条件は参考資料として添付する。

通番	項 目	内 容	備 考
1	件名	****土質調査	
	適用基準		
	完了年度	****年度	
	受注者	***コンサルタント	
2	件名	****基本設計	
	適用基準	港湾の施設の技術上の基準・同解説(****年度版)	
	完了年度	****年度	
	受注者	***コンサルタント	
3	件名	****細部設計	
	適用基準	港湾の施設の技術上の基準・同解説(****年度版)	
	完了年度	****年度	
	受注者	***コンサルタント	
	件名		
	適用基準		
	完了年度		
	受注者		

(施工・補修履歴)

通番	項 目	内 容	備 考
1	件名	***橋梁築造工事	
	完了年度	****年度	
	施工者	***建設・***工業JV	
	件名		
	完了年度		
	施工者		

(材料特性)

本施設の主な材料特性は以下のとおりである。

なお、詳細な材料特性については、〇〇に保管されている工事完成図書等による。

通番	項 目	内 容	備 考
1	コンクリート（主桁部・連結部）	* * - * - * * N	
2	PC 鋼材	* * N/mm ² 級	
3	鉄筋	SD * * *	
4	エポキシ樹脂鉄筋	SD * * *	
5	コンクリート（躯体、杭頭中詰）	* * - * - * * N	
6	基礎工	* * 基礎	
7	埋立土（路床）	第 * * 種建設発生土	
8	コンクリート（擁壁部）	* * - * - * * N	
9	ゴム支承	サイズ：* * × * * × * *	
10	伸縮装置	**型	
11	落橋防止装置	**型	
12	橋梁舗装(車道、歩道)	再生 As * *	
13	附帯設備等	**製 * * 型 * * * H	

I-5 付随する施設との関連性

本施設に付随する施設との関連性は、以下のとおりである。

なお、「接続する緊急輸送道路」とは、道路啓開計画に示された港湾施設と接続する道路とする。

(付随する施設)

通番	項 目	内 容	備 考
1	施 設 名	* * * 岸壁	
	施設番号	C-1-*	
2	施 設 名	* * * 道路地	
	施設番号	D-1-*	
	施 設 名		
	施設番号		

(接続する緊急輸送道路)

通番	項 目	内 容	備 考
1	道 路 名	国道* * 線	
	規 格	一般道	
	道 路 名		
	規 格		

I-6 維持管理レベル

本施設の各部材の維持管理レベル及び維持管理の方針の目安は、以下のとおりとする。

部 材 名 称		維持管理レベル	性能低下度	維持管理方針の目安
橋梁部	上部工 下部工(M.L.W.Lより上の部分) 下部工(M.L.W.Lより下の部分)	Ⅰ (事前対策型)	A	－
			B	緊急的措置並びに応急的措置
			C	計画的措置
			D	経過観察措置
	支承 伸縮装置 落橋防止装置 高欄・防護柵 排水施設 照明施設 縁石 点検施設	Ⅲ (事後保全型)	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	経過観察措置
			C	
			D	
道路部	路床及び路体工、擁壁工	Ⅰ (事前対策型)	A	－
			B	緊急的措置並びに応急的措置
			C	計画的措置
			D	経過観察措置
	舗装 高欄・防護柵 排水施設 照明施設 縁石	Ⅲ (事後保全型)	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	経過観察措置
			C	
			D	

I-7 座標系、位置座標の設定

本施設の維持管理に有用な、座標系（ブロック番号、部材番号等）及び位置座標（X座標、Y座標、Z座標）は、参考資料として添付する。

I-8 初回点検診断結果

本施設の初回点検診断の実績は以下のとおりである。

なお、点検診断結果は、参考資料として添付する。

項 目	時 期	備 考
初回点検診断	2025 年度	一般・詳細

I-9 その他の配慮事項

項 目	内 容	備 考
代替施設の有無	無	
補修の優先度を考慮する上での配慮事項	(自由記入)	

II 点検診断計画

本施設の点検診断の頻度及び実施条件、点検診断の時期並びに点検診断項目及び点検診断方法は以下のとおりとする。

(点検診断の頻度及び実施条件)

項 目		内 容	備 考
定期点検 診断	一般定期点検診断	5 年以内ごとに少なくとも 1 回	
	詳細定期点検診断	供用期間中に少なくとも 1 回	
臨時点検 診断	一般臨時点検診断	日常点検において特段の異常が確認された場合及び 震度 5 強以上の地震が発生した場合	
	詳細臨時点検診断	一般定期点検診断又は一般臨時点検診断の結果、 詳細点検診断が必要と判断された場合	

(点検診断の時期)

本施設の点検診断の見込みは以下のとおりとする。

(点検診断の時期)

年度	内容	備考	年度	内容	備考
2026			2051		
2027			2052		
2028			2053		
2029			2054		
2030	定期点検診断	一般	2055	定期点検診断	一般
2031			2056		
2032			2057		
2033			2058		
2034			2059		
2035	定期点検診断	一般	2060	定期点検診断	一般
2036			2061		
2037			2062		
2038			2063		
2039			2064		
2040	定期点検診断	一般	2065	定期点検診断	一般
2041			2066		
2042			2067		
2043			2068		
2044			2069		
2045	定期点検診断	一般	2070	定期点検診断	一般
2046			2071		
2047			2072		
2048			2073		
2049			2074		
2050	定期点検診断	一般	2075	定期点検診断	一般

年度	内容	備考	年度	内容	備考
2076			2101		
2077			2102		
2078			2103		
2079			2104		
2080	定期点検診断	一般	2105	定期点検診断	一般
2081			2106		
2082			2107		
2083			2108		
2084			2109		
2085	定期点検診断	一般	2110	定期点検診断	一般
2086			2111		
2087			2112		
2088			2113		
2089			2114		
2090	定期点検診断	一般	2115	定期点検診断	一般
2091			2116		
2092			2117		
2093			2118		
2094			2119		
2095	定期点検診断	一般	2120	定期点検診断	一般
2096			2121		
2097			2122		
2098			2123		
2099			2124		
2100	定期点検診断	一般	2125	定期点検診断	一般・詳細

(点検診断項目及び点検診断方法)

部 材 名 称		点検診断項目	点検の種類	点検診断方法
橋梁部	上部工	コンクリートの劣化、損傷 鉄筋の腐食	一般	点検診断ガイドラインによる
	下部工（M.L.W.Lより上の部分）	コンクリートの劣化、損傷 鉄筋の腐食	一般	点検診断ガイドラインによる
	下部工（M.L.W.Lより下の部分）	コンクリートの劣化、損傷 鉄筋の腐食	一般	点検診断ガイドラインによる
	支承	支承本体の損傷、取付け状況	一般	点検診断ガイドラインによる
	伸縮装置	装置本体の状態や作動状況 陥没や盛上りの有無 アンカー部材の状態	一般	点検診断ガイドラインによる
	落橋防止装置	本体の損傷、変形	一般	点検診断ガイドラインによる
	高欄・防護柵	損傷、変形、塗装、腐食	日常	点検診断ガイドラインによる
	排水施設	損傷、変形、塗装、腐食、 水漏れ	一般	点検診断ガイドラインによる
	照明施設	損傷、変形、塗装、腐食	日常	点検診断ガイドラインによる
	縁石	損傷、変形	日常	点検診断ガイドラインによる
	点検施設	損傷、変形、塗装、腐食	一般	点検診断ガイドラインによる
道路部	路床及び路体工、 擁壁工	擁壁工の排水状態 擁壁の劣化、損傷	一般	点検診断ガイドラインによる
	舗装	舗装の段差、わだち掘れ、ひび割れ	日常	点検診断ガイドラインによる
	高欄・防護柵	損傷、変形、塗装、腐食	日常	点検診断ガイドラインによる
	排水施設	損傷、変形、塗装、腐食、 水漏れ	一般	点検診断ガイドラインによる
	照明施設	損傷、変形、塗装、腐食	日常	点検診断ガイドラインによる
	縁石	損傷、変形	日常	点検診断ガイドラインによる

III 総合評価

総合評価は、点検診断結果に基づき、施設の変状に対する工学的知見・判断に基づく評価及び計画的かつ適切な維持工事等に向けた現場的行政的判断に基づく評価を行い、今後の施設の維持管理に関する方針を定める。

なお、総合評価結果は参考資料として添付する。

IV 維持補修計画

本施設の維持補修計画は、以下のとおりとする。

通番	項 目	内 容	備 考
1	維持補修概要		
	実施時期		
	概算費用		
	維持補修概要		
	実施時期		
	概算費用		

V 参考資料

参考資料は、以下の資料を添付する。

- ① 関連図面
- ② 材料特性等
- ③ 設計計算書
- ④ 座標系及び位置座標
- ⑤ 点検診断結果
- ⑥ 総合評価結果

参考資料①

関連図面

位置図

平面図

標準断面図

参考資料②

設計計算書

本施設に関する設計計算書より、主な維持管理に関連する主な設計条件を以下に抜粋する。

(設計条件 (抜粋))

項 目			内 容	備 考
【計画条件等】	要求性能	永続作用	使用性	
		変動作用	使用性	
		偶発作用	* * 性	
【利用条件等】	設計供用期間		100 年	
	計画延長		***.**(m)	
	計画交通量		***台/日 (○車線)	
	道路規格		第○種 第△級	
	設計速度		V=*** (km/h)	
	活荷重	車道部	B 活荷重 ** (kN/m)	
		歩道部	群集荷重 ** (kN/m)	
	死荷重		鋼 : *** (kN/m ³) コンクリート : (kN/m ³)	
	対象船舶 の諸元	種類	***	
		船の長さ	L=*** (m)	
		船の幅	B=*** (m)	
		喫水	H=*** (m)	
	航路高		H=*** (m)	
	航路幅		B=*** (m)	
	航路の位置		***	
【自然条件等】	潮位条件	H.W.L	D.L+*.**(m)	
		M.S.L	D.L+*.**(m)	
		L.W.L	D.L+*.**(m)	
	地震条件		・レベル 1 地震動 kh = *.**	
			・レベル 2 地震動 * * * * 地震	

項 目		内 容	備 考
材料特性	上部工	コンクリート（主桁部）	** - * - * * N
		コンクリート（連結部）	** - * - * * N
		PC 鋼材	** N/mm ² 級
		鉄筋	SD * * *
	下部工	躯体コンクリート	** - * - * * N
		杭頭中詰コンクリート	** - * - * * N
		鉄筋	SD * * *
		基礎工	** 基礎
	路床・路体	埋立土	第 * * 種建設発生土
	擁壁工	コンクリート	** - * - * * N
	支承	ゴム支承	サイズ : ** × ** × **
	伸縮装置		** 型
	落橋防止装置		** 型
	舗装	橋梁舗装(車道)	規格、サイズ等
		橋梁舗装(歩道)	規格、サイズ等
	附帯設備等	** 製 * * 型 * * * H	

参考資料③

利用実績

(利用実績)

年	計画交通量***台/日	備考
2026		
2027		
2028		
2029		
2030		
2031		
2032		
2033		
2034		
2035		
2036		
2037		
2038		
2039		
2040		
2041		
2042		
2043		
2044		
2045		
2046		
2047		
2048		
2049		
2050		
・ ・ ・		
2125		

参考資料④

座標系及び位置座標

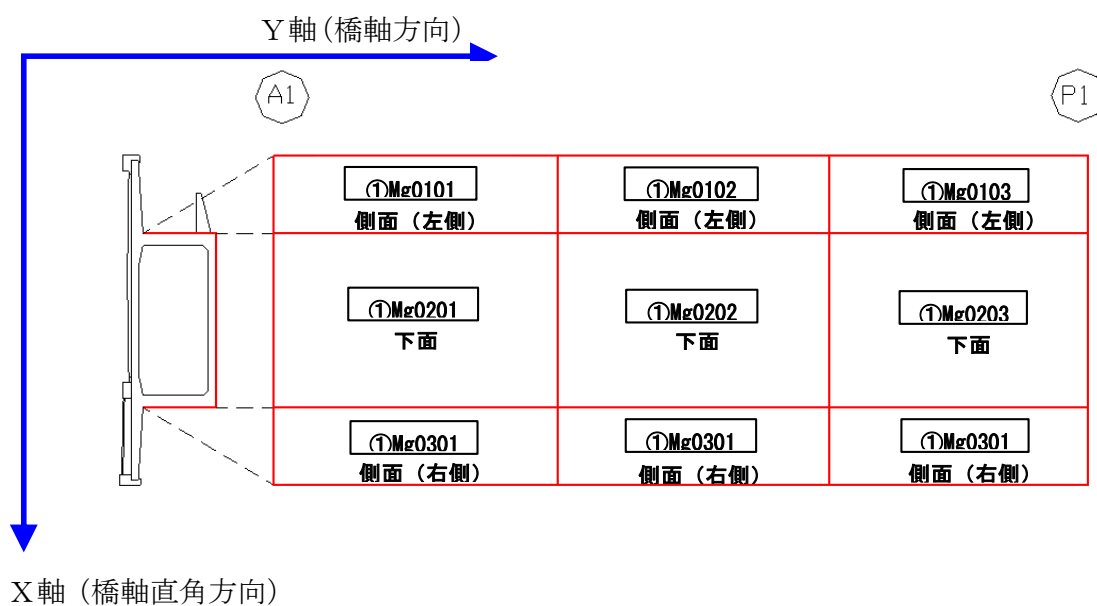
(座標系記号)

上部工

通番	名称	記号	用語
1	主桁	Mg	Main girder
2	横桁	Cr	Cross beam
3	床版	Ds	Deck slab
4	胸壁	Ap	Abutment parapet wall
5	豎壁	Ac	
6	翼壁	Aw	Abutment wing wall
7	その他	Px	
8	柱部	Pw	Pier wall
9	梁部	Pb	Pier beam
10	擁壁	Rw	Retaining Wall

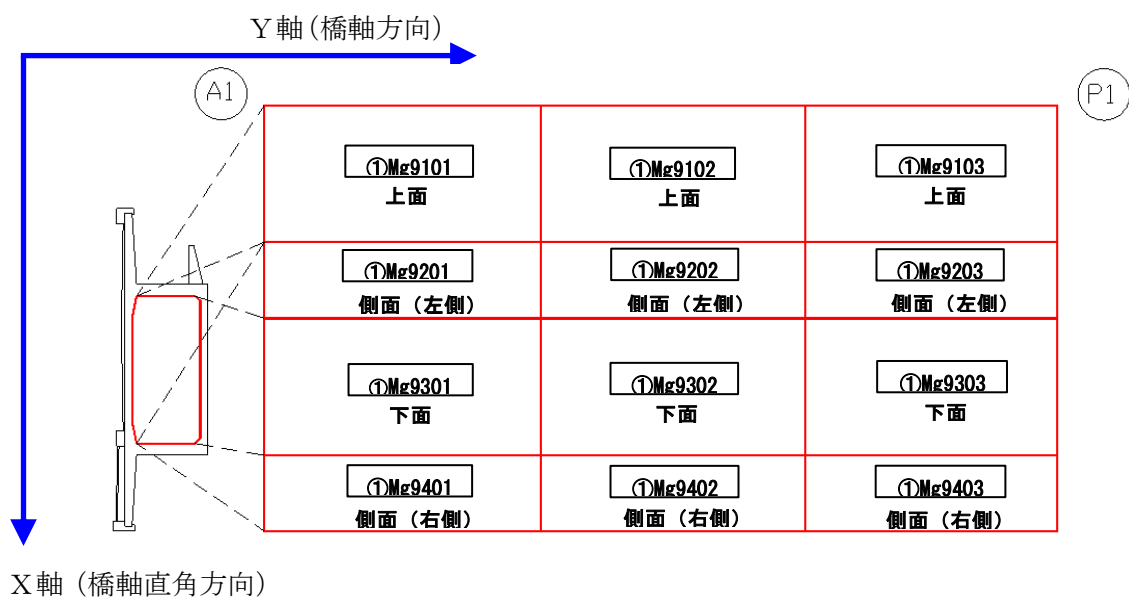
主桁外面に対する座標系（第①径間）

主桁外面 Mg

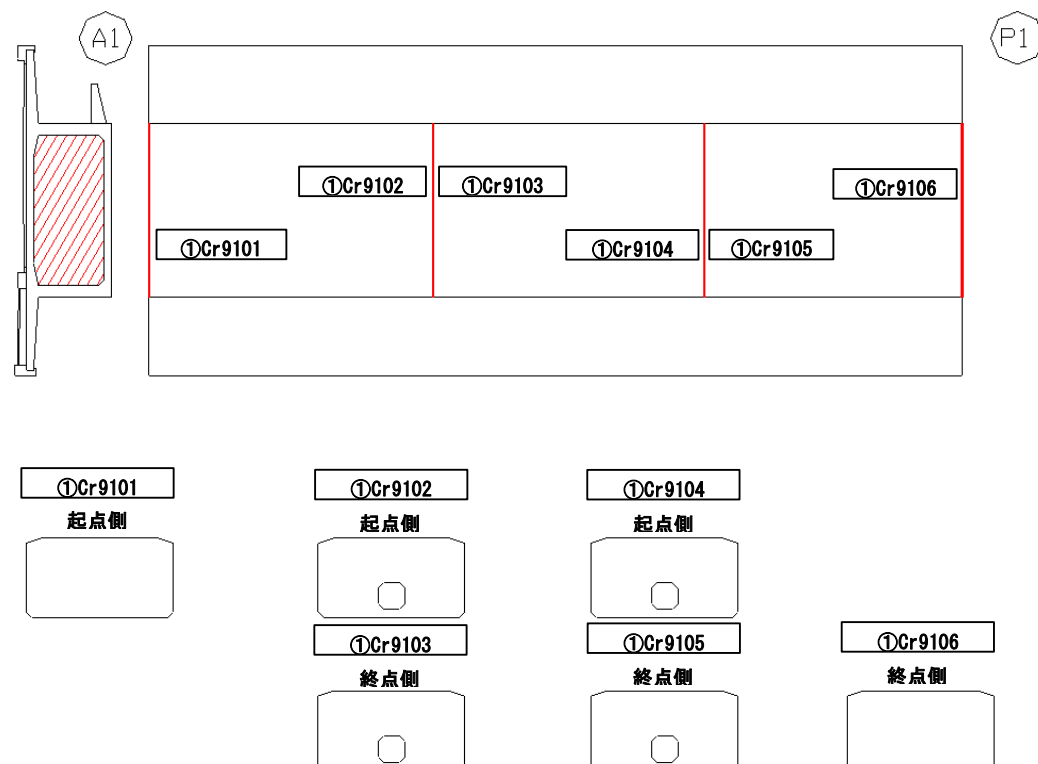


主桁内面に対する座標系

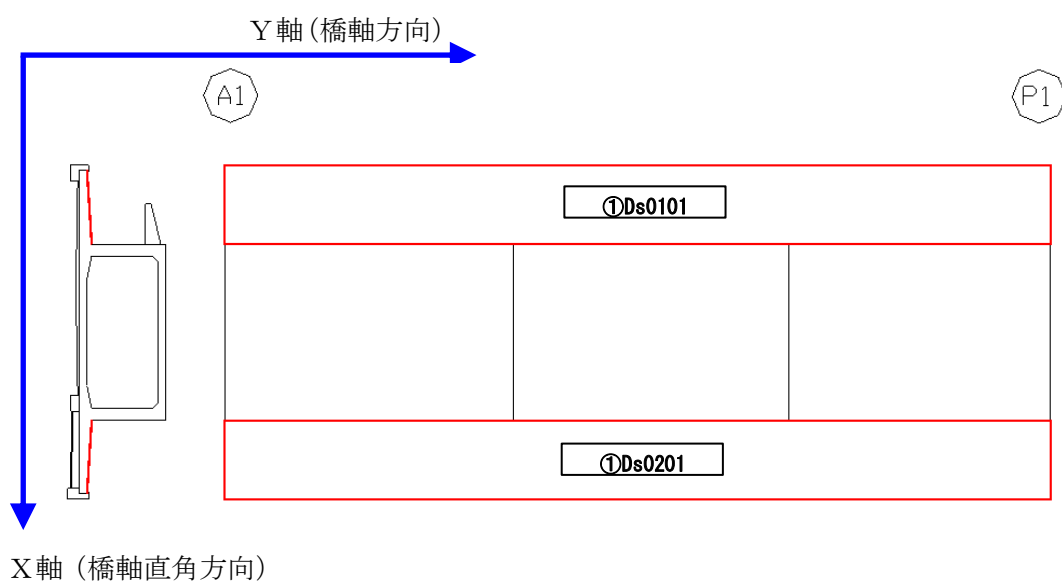
主桁内面 Mg



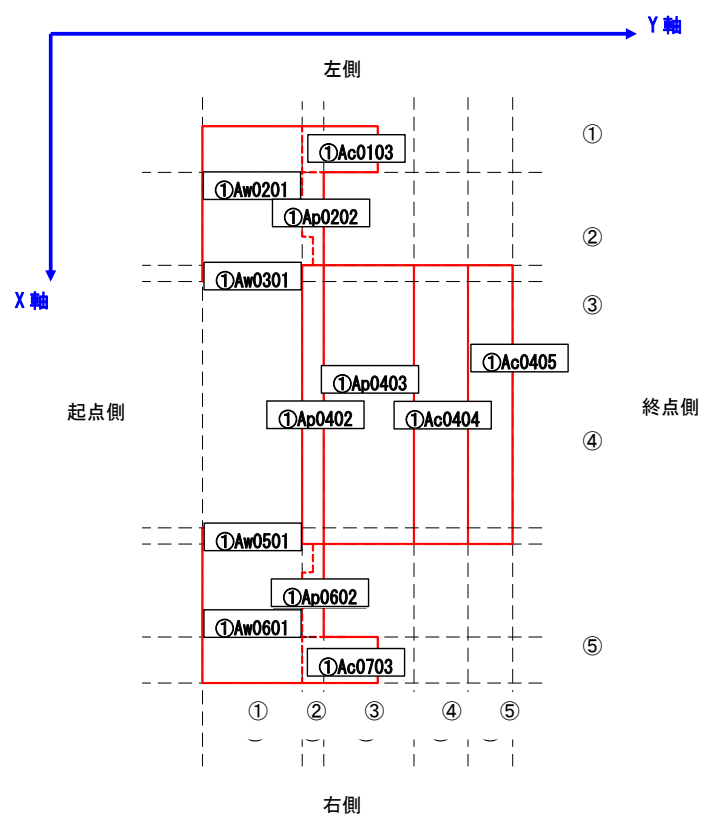
横桁に対する座標系



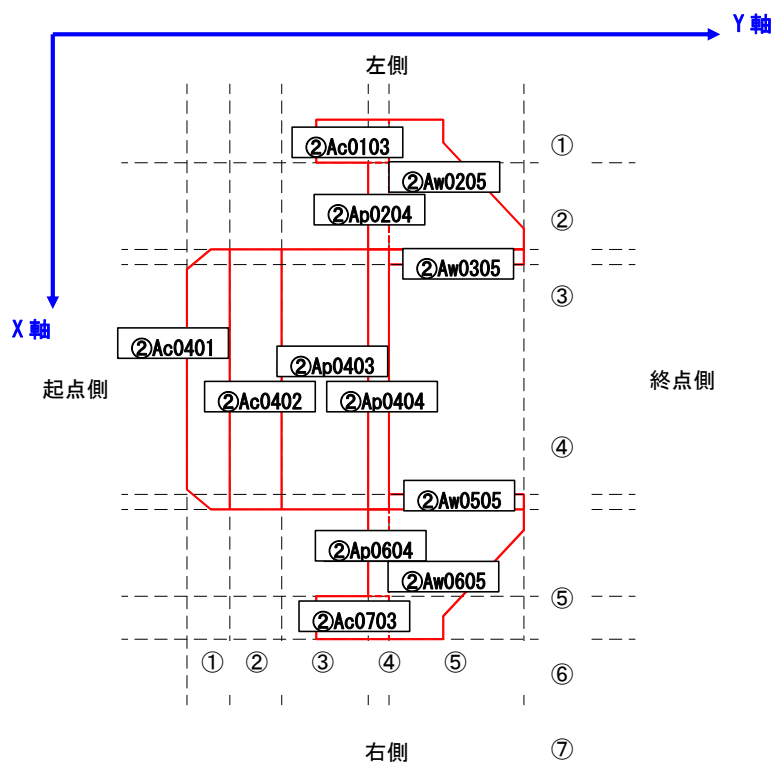
床版に対する座標系



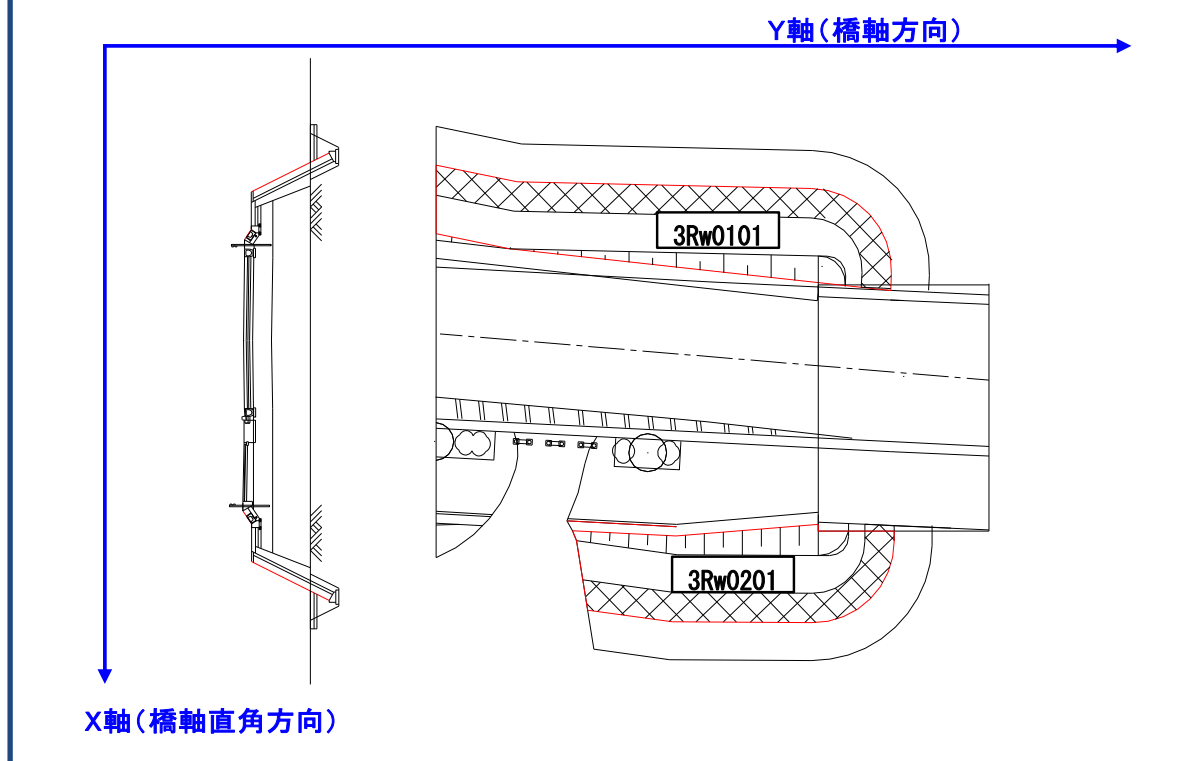
栈橋下面部の梁の座標系（A1 橋台）



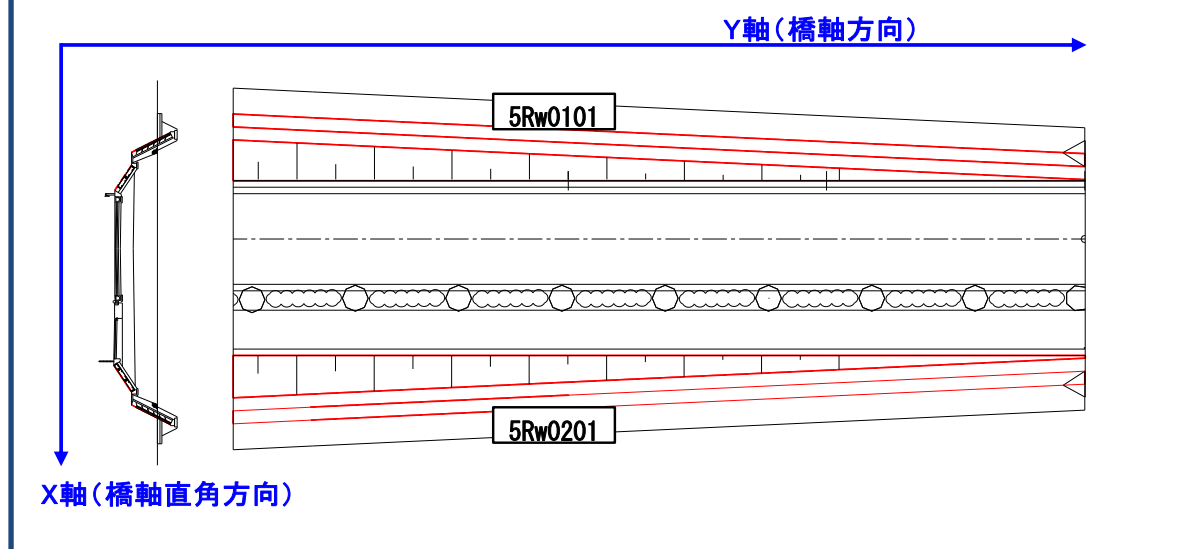
栈橋下面部の梁の座標系（A2 橋台）



道路部の擁壁工（第 3 ブロック）の座標系



道路部の擁壁工（第 5 ブロック）の座標系



(位置座標)

本施設の位置座標 (X 座標、Y 座標、Z 座標) は必要に応じて設定する。

参考資料⑤

点検診断結果

初回点検結果

参考資料⑥

総合評価結果

総合評価結果（2025 年初回点検診断時）

部材		維持管理 レベル	点検診断				①工学的知見・判断 に基づく評価	②現場的・ 行政的判断 に基づく評価	③施設の維持管 理に関する方針	総合評価の概要
			点検診断の項目	点検診断結果の概要	性能低下度					
					点検診断 項目	施設 全体				
橋梁部	上部工	I	コンクリートの劣化、損傷 鉄筋の腐食	変状なし	D	D	（将来計画の評価） － （維持工事等の計画） － （利用面、財政面、代替案） ・ 施設の重要度は高い （応急的措置の必要性） ・ 不要 （計画的措置の必要性） ・ 不要 （点検診断計画変更の必要性） －	□緊急的措置 □応急的措置 □計画的措置 ■経過観察措置	本施設は近隣に代替施 設のない橋梁であり重要 度は高いが、新設で変状 がないため、次回点検診 断まで適切に日常点検を 実施する経過観察措置と する。	
	下部工（M.L.W.L より上の部分）	I	コンクリートの劣化、損傷 鉄筋の腐食	変状なし	D					
	下部工（M.L.W.L より下の部分）	I	コンクリートの劣化、損傷 鉄筋の腐食	変状なし	D					
	支承	Ⅲ	支承本体の損傷、取付け状 況	変状なし	D					
	伸縮装置	Ⅲ	装置本体の状態や作動状況 陥没や盛上りの有無 アンカー部材の状態	変状なし	D					
	落橋防止装置	Ⅲ	本体の損傷、変形	変状なし	D					
	高欄・防護柵	Ⅲ	損傷、変形、塗装、腐食	変状なし	D					
	排水施設	Ⅲ	損傷、変形、塗装、腐食、水 漏れ	変状なし	D					
	照明施設	Ⅲ	損傷、変形、塗装、腐食	変状なし	D					
	緑石	Ⅲ	損傷、変形	変状なし	D					
	点検施設	Ⅲ	損傷、変形、塗装、腐食	変状なし	D					
道路部	路床及び路体工、 擁壁工	I	擁壁工の排水状態 擁壁の劣化、損傷	変状なし	D	D				
	舗装	Ⅲ	舗装の段差、わだち掘れ、ひ び割れ	変状なし	D					
	高欄・防護柵	Ⅲ	損傷、変形、塗装、腐食	変状なし	D					
	排水施設	Ⅲ	損傷、変形、塗装、腐食、水 漏れ	変状なし	D					
	照明施設	Ⅲ	損傷、変形、塗装、腐食	変状なし	D					
	緑石	Ⅲ	損傷、変形	変状なし	D					

維持管理計画書作成事例

(A) 新設する場合

No.7 沈埋トンネルの事例

＊ ＊ 港 ＊ ＊ 地区 ＊ ＊ トンネル

維持管理計画書

項 目	内 容	備 考
港 格	重要港湾	
港 湾 名	＊ ＊ 港	
地 区 名	＊ ＊ 地区	
施 設 名	＊ ＊ トンネル	
施 設 番 号	D - ＊ - ＊	

2026 年 4 月

施設設置者 国土交通省

施設管理者 ＊ ＊ 県

目 次

I	総論	1
I-1	計画の目標.....	1
I-2	維持管理の基本的な考え方.....	1
I-3	施設に関連する計画.....	1
I-4	維持管理上の諸条件	2
I-5	付随する施設との関連性.....	5
I-6	維持管理レベル.....	6
I-7	座標系、位置座標の設定	7
I-8	初回点検診断結果	7
I-9	その他の配慮事項	7
II	点検診断計画.....	7
III	総合評価	11
IV	維持補修計画.....	11
V	参考資料	12

I 総論**I-1 計画の目標**

本施設を維持管理する計画の目標は、以下のとおりとする。

項 目	内 容	備 考
維持管理の計画目標期間	2026～2125 年度	
設計供用期間	100 年	

I-2 維持管理の基本的な考え方

本施設をどのような方針で維持管理していくかの基本的な考え方は、以下のとおりとする。

項 目	内 容	備 考
維持管理の基本的な考え方	各部材の維持管理レベルに応じた対応により維持管理を行う。	
気候変動適応の考え方	適応策	事前適応策
	適応の概要	2℃上昇シナリオへ対応
通常・重点点検診断施設の設定	通常点検診断施設	

I-3 施設に関連する計画

本施設に関連する計画は、以下のとおりである。

項 目	内 容	備 考
本施設の 港湾計画 への位置づけ	計画策定（位置づけ）年	＊ ＊ ＊ ＊ 年
	将来計画	予定なし（現状を維持）
	大規模地震対策施設計画	緊急物資輸送
予防保全計画における措置の優先度	－（経過観察措置）	
大規模地震対策推進地域等の位置づけ	有	
地域防災計画への位置づけ	有	
協働防護計画への位置づけ	有	

I-4 維持管理上の諸条件

本施設の維持管理計画に資する諸条件は、以下のとおりである。

なお、標準断面図、平面図等の関連図面は参考資料として添付する。

(施設の情報)

項 目	内 容	備 考
港格	重要港湾	
港湾名	* * 港	
地区名	* * 地区	
施設名	* * トンネル	
施設番号	D - * - *	
施設設置者	国土交通省	
施設管理者	* * 県	

(構造形式)

項 目	内 容	備 考
施設の分類	臨港交通施設 トンネル	
構造形式	沈埋トンネル	
延長（取付部を含む延長）	* * . * (m)	

(自然条件)

項 目	内 容	備 考
潮位	基本水準面	D.L±*.**(m)
	H.W.L.	D.L+*.**(m)
	M.S.L.	D.L+*.**(m)
	L.W.L.	D.L+*.**(m)
		維持管理 計画書作成 時点

(設計履歴)

本施設の設計の履歴は、以下のとおりである。

なお、主な設計条件は参考資料として添付する。

通番	項 目	内 容	備 考
1	件名	****土質調査	
	適用基準		
	完了年度	****年度	
	受注者	***コンサルタント	
2	件名	****基本設計	
	適用基準	港湾の施設の技術上の基準・同解説(****年度版)	
	完了年度	****年度	
	受注者	***コンサルタント	
3	件名	****細部設計	
	適用基準	港湾の施設の技術上の基準・同解説(****年度版)	
	完了年度	****年度	
	受注者	***コンサルタント	
	件名		
	適用基準		
	完了年度		
	受注者		

(施工・補修履歴)

通番	項 目	内 容	備 考
1	件名	**線**トンネル築造工事	
	完了年度	****年度	
	施工者	***建設・***工業JV	
	件名		
	完了年度		
	施工者		

(材料特性)

本施設の主な材料特性は以下のとおりである。

なお、詳細な材料特性については、〇〇に保管されている工事完成図書等による。

項 目		内 容	備 考
材料特性	沈埋函	コンクリート	* *- *- * * N
		鉄筋	SD * * *
		PC 鋼材	* * N/mm ² 級
		鋼板	規格等
		シート防水	規格等
		防護コンクリート	* *- *- * * N
		電気防食	流電陽極方式：防食年数**年
		継手	* * 型継手
		可撓継手	* * 型継手
		せん断キー	* * 型せん断キー
	材料特性	換気設備	**製 * * 型
		非常用設備	**製 * * 型
		照明設備	**製 * * 型
		電力関係設備	**製 * * 型
		保安・計測設備	**製 * * 型
		監視・制御設備	**製 * * 型
		排水設備	**製 * * 型

I-5 付随する施設との関連性

本施設に付随する施設との関連性は、以下のとおりである。

なお「接続する緊急輸送道路」とは、道路啓開計画に示された港湾施設と接続する道路とする。

(付随する施設)

通番	項 目	内 容	備 考
1	施 設 名	***アプローチ道路	
	施設番号	D - * - *	
2	施 設 名	***アプローチ道路	
	施設番号	D - * - *	
	施 設 名		
	施設番号		

(接続する緊急輸送道路)

通番	項 目	内 容	備 考
1	道 路 名	***自動車道	
	規 格	高規格道路	
2	道 路 名	国道**線	
	規 格	一般道	
	道 路 名		
	規 格		

I-6 維持管理レベル

本施設の各部材の維持管理レベルは、以下のとおりとする。

部 材 名 称		維持管理レベル	性能低下度	維持管理方針の目安
本体	沈埋函（躯体本体(鋼板、本体コンクリート(道床コンクリート含む))) 継手部 P Cケーブル 基礎構造	Ⅰ (事前対策型)	A	—
			B	緊急的措置並びに応急的措置
			C	計画的措置
			D	経過観察措置
	舗装	Ⅱ (予防保全型)	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	計画的措置
			C	経過観察措置
			D	
	上載土砂 舗装（目地部）	Ⅲ (事後保全型)	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	経過観察措置
			C	
			D	
その他	電気防食	Ⅱ (予防保全型)	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	計画的措置
			C	経過観察措置
			D	
	内装版・耐火被覆材	Ⅲ (事後保全型)	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	経過観察措置
			C	
			D	
設備	換気設備 非常用設備 照明設備 電力関係設備	Ⅱ (予防保全型)	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	計画的措置
			C	経過観察措置
			D	
	保安・計測設備 監視・制御設備 排水設備	Ⅲ (事後保全型)	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	経過観察措置
			C	
			D	

I-7 座標系、位置座標の設定

本施設の維持管理に有用な、座標系（ブロック番号、部材番号等）及び位置座標（X座標、Y座標、Z座標）は、参考資料として添付する。

I-8 初回点検診断結果

本施設の初回点検診断の実績は以下のとおりである。

なお、点検診断結果は、参考資料として添付する。

項 目	内 容	備 考
初回点検診断	2025 年度	一般・詳細

I-9 その他の配慮事項

項 目	内 容	備 考
代替施設の有無	無	
補修の優先度を考慮する上での配慮事項	（自由記入）	

II 点検診断計画

本施設の点検診断の頻度及び実施条件、点検診断の時期並びに点検診断項目及び点検診断方法は以下のとおりとする。

（点検診断の頻度及び実施条件）

項 目	内 容	備 考
定期点検 診断	一般定期点検診断	5 年以内ごとに少なくとも 1 回
	詳細定期点検診断	供用期間中に少なくとも 1 回
臨時点検 診断	一般臨時点検診断	日常点検において特段の異常が確認された場合及び 震度 5 強以上の地震が発生した場合
	詳細臨時点検診断	一般定期点検診断又は一般臨時点検診断の結果、 詳細点検診断が必要と判断された場合

(点検診断の時期)

本施設の点検診断の見込みは以下のとおりとする。

(点検診断の時期)

年度	内容	備考	年度	内容	備考
2026			2051		
2027			2052		
2028			2053		
2029			2054		
2030	定期点検診断	一般	2055	定期点検診断	一般
2031			2056		
2032			2057		
2033			2058		
2034			2059		
2035	定期点検診断	一般	2060	定期点検診断	一般
2036			2061		
2037			2062		
2038			2063		
2039			2064		
2040	定期点検診断	一般	2065	定期点検診断	一般
2041			2066		
2042			2067		
2043			2068		
2044			2069		
2045	定期点検診断	一般	2070	定期点検診断	一般
2046			2071		
2047			2072		
2048			2073		
2049			2074		
2050	定期点検診断	一般	2075	定期点検診断	一般

年度	内容	備考	年度	内容	備考
2076			2101		
2077			2102		
2078			2103		
2079			2104		
2080	定期点検診断	一般	2105	定期点検診断	一般
2081			2106		
2082			2107		
2083			2108		
2084			2109		
2085	定期点検診断	一般	2110	定期点検診断	一般
2086			2111		
2087			2112		
2088			2113		
2089			2114		
2090	定期点検診断	一般	2115	定期点検診断	一般
2091			2116		
2092			2117		
2093			2118		
2094			2119		
2095	定期点検診断	一般	2120	定期点検診断	一般
2096			2121		
2097			2122		
2098			2123		
2099			2124		
2100	定期点検診断	一般	2125	定期点検診断	一般・詳細

(点検診断項目及び点検診断方法)

部 材 名 称		点検診断項目	点検の種類	点検診断方法
本体	沈埋函(躯体本体(鋼板、本体コンクリート(道床コンクリート含む)))	コンクリートの浮き(第三者への影響)	一般	点検診断ガイドラインによる
		移動量、傾斜量、沈下量、累計応力	詳細	点検診断ガイドラインによる
	継手部	腐食、漏水	一般	点検診断ガイドラインによる
		伸縮量、ねじれ	詳細	点検診断ガイドラインによる
		一次止水ゴム、二次止水ゴムの割れ、損傷	一般	点検診断ガイドラインによる
	P Cケーブル	連結部の腐食、切断、ボルトの緩み	一般	点検診断ガイドラインによる
	基礎構造	洗堀、堆積、衝突跡	一般	点検診断ガイドラインによる
	上載土砂	洗堀、堆積、衝突跡	一般	点検診断ガイドラインによる
	舗装	舗装目地部等の段差、わだち掘れ、ひび割れ、漏水	日常	点検診断ガイドラインによる
		舗装等の段差、わだち掘れ、ひび割れ	一般	点検診断ガイドラインによる
		舗装面の計測等の機器等を活用した高度な方法	詳細	点検診断ガイドラインによる
その他	鋼板(電気防食工)	電位測定	一般	点検診断ガイドラインによる
			詳細	点検診断ガイドラインによる
	内装版・耐火パネル	本体の損傷、ボルトの緩み・脱落、破損、取付金具の腐食、コンクリートの剥離等の変状・損傷状況	一般	点検診断ガイドラインによる
			詳細	点検診断ガイドラインによる
設備	換気設備	腐食、亀裂、ボルトのゆるみ、剥落、変形、摩耗、欠落、破損、塗装劣化、異常音、振動、異常動作	日常	点検診断ガイドラインによる
			一般	点検診断ガイドラインによる
			詳細	点検診断ガイドラインによる
	非常用設備	腐食、亀裂、ボルトのゆるみ、剥落、変形、摩耗、欠落、破損、塗装劣化、異常音、振動、異常動作	日常	点検診断ガイドラインによる
			一般	点検診断ガイドラインによる
			詳細	点検診断ガイドラインによる

設備	照明設備	腐食、亀裂、ボルトのゆるみ、剥落、変形、摩耗、欠落、破損、塗装劣化、異常音、振動、異常動作	日常	点検診断ガイドラインによる
			詳細	点検診断ガイドラインによる
	電力関係設備	腐食、亀裂、ボルトのゆるみ、剥落、変形、摩耗、欠落	日常	点検診断ガイドラインによる
			一般	点検診断ガイドラインによる
設備	保安・計測設備	腐食、亀裂、ボルトのゆるみ、剥落、変形、欠落、動作	詳細	点検診断ガイドラインによる
			日常	点検診断ガイドラインによる
			一般	点検診断ガイドラインによる
	監視・制御設備	腐食、亀裂、ボルトのゆるみ、剥落、変形、欠落、動作	日常	点検診断ガイドラインによる
			一般	点検診断ガイドラインによる
			詳細	点検診断ガイドラインによる
	排水設備	排水施設の損傷、排水機能	日常	点検診断ガイドラインによる
			一般	点検診断ガイドラインによる
		目視及び機器による点検 排水施設の損傷、排水機能	詳細	点検診断ガイドラインによる

III 総合評価

総合評価は、点検診断結果に基づき、施設の変状に対する工学的知見・判断に基づく評価及び計画的かつ適切な維持工事等に向けた現場的行政的判断に基づく評価を行い、今後の施設の維持管理に関する方針を定める。

なお、総合評価結果は参考資料として添付する。

IV 維持補修計画

本施設の維持補修計画は、以下のとおりとする。

通番	項目	内 容	備 考
1	維持補修概要		
	実施時期		
	概算費用		
	維持補修概要		
	実施時期		
	概算費用		

V 参考資料

参考資料は、以下の資料を添付する。

- ① 関連図面
- ② 材料特性等
- ③ 設計計算書
- ④ 利用実績
- ⑤ 座標系及び位置座標
- ⑥ 点検診断結果
- ⑦ 総合評価結果

参考資料①

関連図面

位置図

平面図

標準断面図

参考資料②

設計計算書

本施設に関する設計計算書より、主な維持管理に関連する主な設計条件を以下に抜粋する。

(設計条件 (抜粋))

項 目			内 容	備 考
【計画条件等】	要求性能	永続作用	使用性	
		変動作用	使用性	
		偶発作用	* * 性	
【利用条件等】	設計供用期間		100 年	
	計画延長		***.**(m)	
	制限速度		**m/時	
	設計速度		**m/時	
【自然条件等】	潮位条件	H.W.L	D.L+*.**(m)	
		M.S.L	D.L+*.**(m)	
		L.W.L	D.L+*.**(m)	
	地震条件		・レベル 1 地震動 kh = *.**	
【構造特性】	設計計画交通量		⊗***台/日	
	大型車混入率		**%	
	車線数		往復分離片側 2 車線、往復 4 車線	
	1 車線の幅員		1 車線の幅員*.**m	
	路肩幅		*.*m	
	最大縦断勾配		最大縦断勾配*.*%	
	建築限界高さ		最大限界高さ*.*m	
	避難通路		幅*.*m、高さ*.*m	
	耐用年数		100 年	
	付帯設備		***	
	計画地盤高		T.P.+*.***m	
	トンネル延長		***m	
	トンネル断面		**.* (幅) 、*.*m(高さ)	
	非常駐車帯		あり	
	換気方式		ジェットファン (立坑含む)	
	防災等級		**級	
	航路幅及び航路水深		航路幅*.*m、水深*.*m	
	最小土被り厚		*.*m	
	その他特記事項		-	

項 目			内 容	備 考
材料特性	沈埋函	コンクリート	* *- *- * * N	
		鉄筋	SD * * *	
		PC 鋼材	* * N/mm ² 級	
		鋼板	規格等	
		シート防水	規格等	
		防護コンクリート	* *- *- * * N	
		電気防食	流電陽極方式：防食年数**年	
		継手	* * 型継手	
		可撓継手	* * 型継手	
		せん断キー	* * 型せん断キー	
	材料特性	換気設備	**製 * * 型	
		非常用設備	**製 * * 型	
		照明設備	**製 * * 型	
		電力関係設備	**製 * * 型	
		保安・計測設備	**製 * * 型	
		監視・制御設備	**製 * * 型	
		排水設備	**製 * * 型	

参考資料③

利用実績

(利用実績)

年	計画交通量***台/日	備考
2026		
2027		
2028		
2029		
2030		
2031		
2032		
2033		
2034		
2035		
2036		
2037		
2038		
2039		
2040		
2041		
2042		
2043		
2044		
2045		
2046		
2047		
2048		
2049		
2050		
・ ・ ・		
2125		

参考資料④

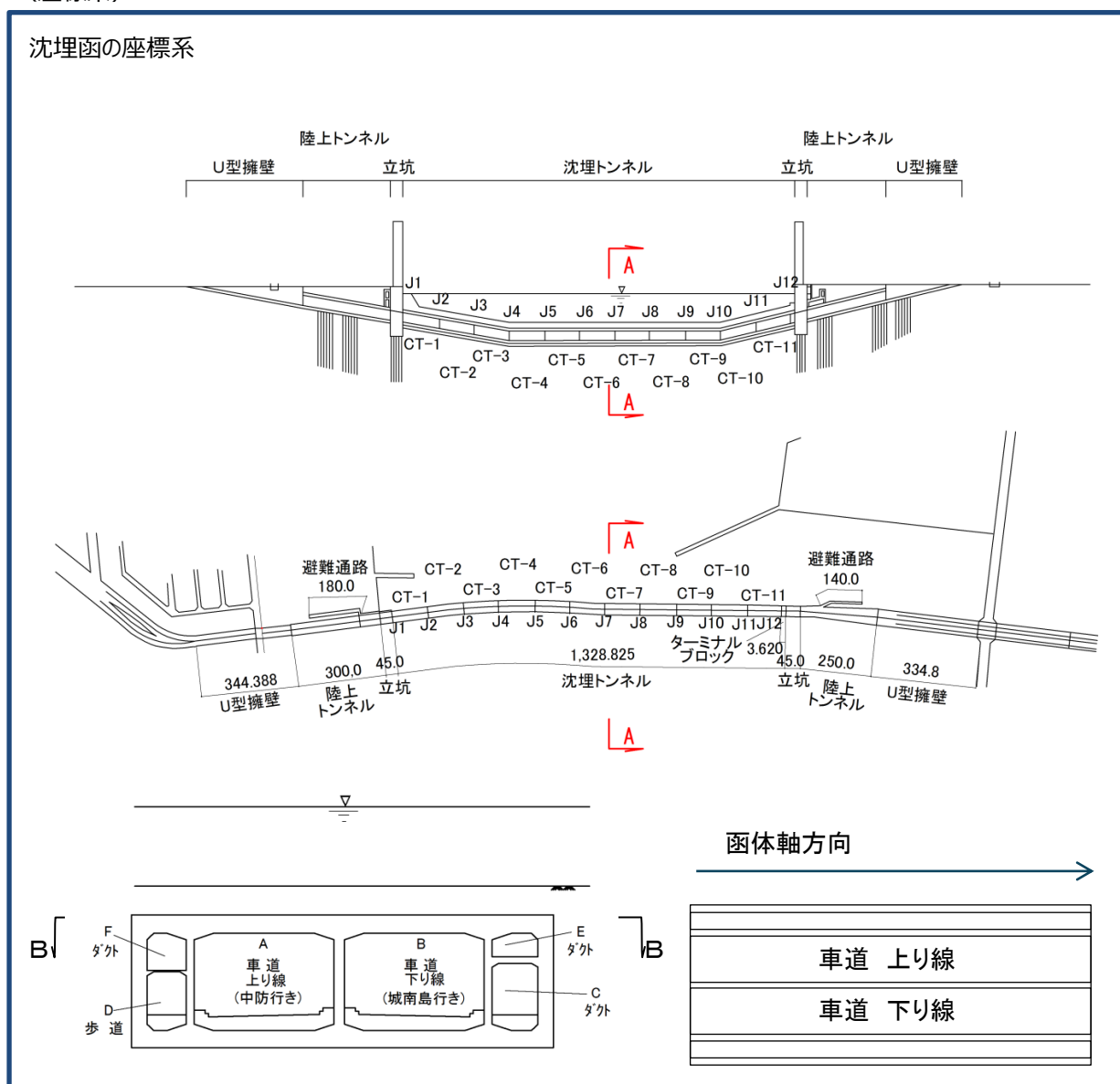
座標系及び位置座標

(座標系記号)

通番	名称	記号	用語	摘要
1	沈埋トンネル部	C T		トンネル区間記号や ジョイント記号
2	ジョイント部	J		
3	車道上り線	A		函体直角方向断面 エリア記号
4	車道下り線	B		
5	共同溝部	C		
6	歩道部	D		
7	共同溝部	E		
8	共同溝部	F		
9	南	S		方向記号
10	北	N		
	東	E		
	西	W		
	上	U		
	下	D		
	右	R		
	左	L		
	壁面パネル	SHP		部材記号
	耐熱パネル	TNP		
	側壁コンクリート	SHC		
	スラブ	SLC		
	ハンチ	HNC		

(座標系)

沈埋函の座標系



(位置座標)

本施設の位置座標 (X 座標、Y 座標、Z 座標) は必要に応じて設定する。

参考資料⑤

点検診断結果

初回点検結果

参考資料⑥

総合評価結果

総合評価結果（2025 年初回点検診断時）

部材		維持管理 レベル	点検診断			①工学的知見・判断 に基づく評価	②現場的・行政的判断 に基づく評価	③施設の維持管理 に関する方針	総合評価の概要	
			点検診断の項目	点検診断結果 の概要	性能低下度					
					点検診断 項目					施設 全体
本体	沈埋函	I	コンクリートの浮き（第三者への影響）	変状なし	D	D	（将来計画の評価） － （維持工事等の計画） － （利用面、財政面、代替案） ・ 施設の重要度は高い （緊急的措置の必要性） ・ 不要 （補修の必要性） ・ 不要 （応急的措置の必要性） ・ 不要 （計画的措置の必要性） ・ 不要 （点検診断計画変更の必要性） －	☐ 緊急的措置 ☐ 応急的措置 ☐ 計画的措置 ☒ 経過観察措置	本施設は近隣に代替施設 のない沈埋トンネルであり重要 度は高いが、新設で変状がな いため次回点検診断まで適 切に日常点検を実施する経 過観察措置とする。	
		Ⅲ	移動量、傾斜量、沈下量、累計応力	変状なし	D					
	継手部	I	腐食、漏水	変状なし	D					
			伸縮量、ねじれ	変状なし	D					
			一次止水ゴム、二次止水ゴムの割れ、損 傷	変状なし	D					
	P Cケーブル	I	連結部の腐食、切断、ボルトの弛み	変状なし	D					
	基礎構造	I	洗堀、堆積、衝突等	変状なし	D					
	上載土砂	Ⅲ	洗堀、堆積、衝突等	変状なし	D					
	舗装	Ⅲ	舗装目地部等の段差、わだち掘れ、ひび 割れ、漏水	変状なし	D					
Ⅱ		舗装等の段差、わだち掘れ、ひび割れ	変状なし	D						
Ⅱ		舗装面の計測等の機器等を活用した高度 な方法	変状なし	D						
その他	銅板(電気防食工)	Ⅱ	電位測定	変状なし	D					
	内装版・耐火パネル	Ⅲ	本体の損傷、ボルトの緩み・脱落、破損、 取付金具の腐食、コンクリートの剥離等の 変状・損傷状況	変状なし	D					
設備	換気設備	Ⅰ，Ⅲ	腐食、亀裂、ボルトのゆるみ、剥落、変 形、摩耗、欠落、破損、塗装劣化、異常 音、振動、異常動作	変状なし	D					
	非常用設備		変状なし	D						
	照明設備		変状なし	D						
	電力関係設備	Ⅱ，Ⅲ	腐食、亀裂、ボルトのゆるみ、剥落、変 形、摩耗、欠落	変状なし	D					
	保安・計測設備		変状なし	D						
	監視・制御設備		変状なし	D						
	排水設備	Ⅱ，Ⅲ	排水施設の損傷、排水機能	変状なし	D					
		Ⅱ	目視及び機器による点検 排水施設の損傷、排水機能	変状なし	D					

（将来計画の評価）

－

（維持工事等の計画）

－

（利用面、財政面、代替案）

・ 施設の重要度は高い

（応急的措置の必要性）

・ 不要

（計画的措置の必要性）

・ 不要

（点検診断計画変更の必要性）

－

☐ 緊急的措置☐ 応急的措置☐ 計画的措置☒ 経過観察措置

本施設は近隣に代替施設のない沈埋トンネルであり重要度は高いが、新設で変状がなかったため次回点検診断まで適切に日常点検を実施する経過観察措置とする。

維持管理計画書作成事例
(A) 新設する場合
No.8 航路及び泊地の事例

＊ ＊ 港 ＊ ＊ 地区 ＊ ＊ 航路及び泊地

維持管理計画書

項 目	内 容	備 考
港 格	重要港湾	
港 湾 名	＊ ＊ 港	
地 区 名	＊ ＊ 地区	
施 設 名	＊ ＊ 航路及び泊地	
施 設 番 号	A-＊-＊	

2026 年 4 月

施設設置者 国土交通省

施設管理者 ＊ ＊ 県

目 次

I	総論	1
I-1	計画の目標.....	1
I-2	維持管理の基本的な考え方.....	1
I-3	施設に関連する計画.....	1
I-4	維持管理上の諸条件	2
I-5	付随する施設との関連性.....	3
I-6	維持管理レベル.....	4
I-7	座標系、位置座標の設定	4
I-8	初回点検診断結果	4
I-9	その他の配慮事項	4
II	点検診断計画.....	5
III	総合評価	6
IV	維持補修計画.....	6
V	参考資料	7

I 総論**I-1 計画の目標**

本施設を維持管理する計画の目標は、以下のとおりとする。

項 目	内 容	備 考
維持管理の計画目標期間	2026～2075 年度	
設計供用期間	50 年	

I-2 維持管理の基本的な考え方

本施設をどのような方針で維持管理していくかの基本的な考え方は、以下のとおりとする。

項 目	内 容	備 考
維持管理の基本的な考え方	各部材の維持管理レベルに応じた対応により維持管理を行う。	
通常・重点点検診断施設の設定	通常点検診断施設	

I-3 維持管理に関連する計画

本施設に関連する計画は、以下のとおりである。

項 目	内 容	備 考
本施設の 港湾計画 への位置づけ	計画策定（位置づけ）年	＊ ＊ ＊ ＊ 年
	将来計画	予定なし（現状を維持）
予防保全計画における措置の優先度	－（経過観察措置）	
大規模地震対策推進地域等の位置づけ	無	
協働防護計画への位置づけ	無	

I-4 維持管理上の諸条件

本施設の維持管理計画に資する諸条件は、以下のとおりである。

なお、標準断面図、平面図等の関連図面は参考資料として添付する。

(施設の情報)

項 目	内 容	備 考
港格	重要港湾	
港湾名	* * 港	
地区名	* * 地区	
施設名	* * 航路及び泊地	
施設番号	A- * - *	
施設設置者	国土交通省	
施設管理者	* * 県	

(諸元【航路】)

項 目	内 容	備 考
施設の分類	水域施設 航路	
水深	D.L. - * * . * m	
航路延長	* * m	
航路幅員	* * m	

(諸元【泊地】)

項 目	内 容	備 考
施設の分類	水域施設 泊地	
水深	D.L. - * * . * m	
泊地面積	* * m ²	

(自然条件)

項 目		内 容	備 考
潮位	基本水準面	D.L±*.**(m)	維持管理 計画書作成 時点
	H.W.L.	D.L+*.**(m)	
	M.S.L.	D.L+*.**(m)	
	L.W.L.	D.L+*.**(m)	

(設計履歴)

通番	項 目	内 容	備 考
1	件名	****深浅測量	
	適用基準		
	完了年度	****年度	
	受注者	***コンサルタント	
	件名		
	適用基準		
	完了年度		
	受注者		

(施工・補修履歴)

通番	項 目	内 容	備 考
1	件名	***航路維持浚渫工事	
	完了年度	****年度	
	施工者	***建設	
2	件名	***泊地維持浚渫工事	
	完了年度	****年度	
	施工者	***建設	
	件名		
	完了年度		
	施工者		

I-5 付随する施設との関連性

本施設に付随する施設との関連性は、以下のとおりである。

(付随する施設)

通番	項 目	内 容	備 考
1	施 設 名	***岸壁	
	施設番号	C-1-*	
2	施 設 名		
	施設番号		

I-6 維持管理レベル

本施設の各部材の維持管理レベルは、以下のとおりとする。

部 材 名 称	維持管理レベル	性能 低下度	維持管理方針の目安
航路 泊地	Ⅲ (事後保全型)	A	緊急的措置並びに応急的措置
		B	経過観察措置
		C	
		D	

I-7 座標系、位置座標の設定

該当なし

I-8 初回点検診断結果

本施設の初回点検診断の実績は以下のとおりである。

なお、点検診断結果は、参考資料として添付する。

項 目	時期	備 考
初回点検診断	2025 年度	一般・詳細

I-9 その他の配慮事項

項 目	内 容	備 考
代替施設の有無	無	
補修の優先度を考慮する上での配慮事項	(自由記入)	

II 点検診断計画

本施設の点検診断の頻度及び実施条件、点検診断の時期並びに点検診断項目及び点検診断方法は以下のとおりとする。

(点検診断の頻度及び実施条件)

項 目		内 容	備 考
定期点検 診断	一般定期点検診断	5 年以内ごとに少なくとも 1 回	
	詳細定期点検診断	供用期間中に少なくとも 1 回	
臨時点検 診断	一般臨時点検診断	日常点検において特段の異常が確認された場合及び 震度 5 強以上の地震が発生した場合	
	詳細臨時点検診断	一般定期点検診断又は一般臨時点検診断の結果、 詳細点検診断が必要と判断された場合	

(点検診断の時期)

本施設の点検診断の実施時期の見込みは以下のとおりとする。

年度	内 容	備 考	年度	内 容	備 考
2026			2051		
2027			2052		
2028			2053		
2029			2054		
2030	定期点検診断	一般	2055	定期点検診断	一般
2031			2056		
2032			2057		
2033			2058		
2034			2059		
2035	定期点検診断	一般	2060	定期点検診断	一般
2036			2061		
2037			2062		
2038			2063		
2039			2064		
2040	定期点検診断	一般	2065	定期点検診断	一般
2041			2066		
2042			2067		
2043			2068		
2044			2069		
2045	定期点検診断	一般	2070	定期点検診断	一般
2046			2071		
2047			2072		
2048			2073		
2049			2074		
2050	定期点検診断	一般	2075	定期点検診断	一般・詳細

(点検診断項目及び点検診断方法)

部 材 名 称	点検診断項目	点検 の種類	点検診断方法
航路	水深	一般	点検診断ガイドラインによる
		詳細	点検診断ガイドラインによる
	航路の状態	一般	点検診断ガイドラインによる
泊地	水深	一般	点検診断ガイドラインによる
		詳細	点検診断ガイドラインによる
	泊地の状態	一般	点検診断ガイドラインによる

III 総合評価

総合評価においては、点検診断結果に基づき、施設の変状に対する工学的知見・判断に基づく評価及び計画的かつ適切な維持工事等に向けた現場的行政的判断に基づく評価を行い、今後の施設の維持管理に関する方針を定める。

なお、総合評価結果は参考資料として添付する。

IV 維持補修計画

本施設の維持補修計画は、以下のとおりとする。

通番	項 目	内 容	備 考
1	維持補修概要		
	実施時期		
	概算費用		
	維持補修概要		
	実施時期		
	概算費用		

V 参考資料

参考資料は、以下の資料を添付する。

- ① 関連図面
- ② 設計計算書
- ③ 出来型測量図
- ④ 点検診断結果
- ⑤ 総合評価結果

参考資料①

関連図面

位置図

平面図

標準断面図

参考資料②

設計計算書

本施設に関する設計計算書より、主な維持管理に関連する主な設計条件を以下に抜粋する。

(設計条件 (抜粋))

項 目			内 容	備 考
【計画条件等】	要求性能	永続作用	供用性	
		変動作用	供用性	
		偶発作用	* * 性	
【利用条件等】	設計供用期間		50 年	
	計画水深		D.L-*.**(m)	
	泊地面積		A=***k m ²	
	対象船舶		**,*** (DWT)	
【自然条件等】	潮位条件	H.W.L	D.L+*.**(m)	
		M.S.L	D.L+*.**(m)	
		L.W.L	D.L+*.**(m)	

参考資料③

出来型測量図

出来型測量図

参考資料⑤

点検診断結果

初回点検結果

参考資料⑥

総合評価結果

総合評価結果（2025 年初回点検診断時）

部材	維持管理 レベル	点検診断				①工学的知見・判断 に基づく評価	②現場的・行政的判断 に基づく評価	③施設の維持管理 に関する方針	総合評価の概要					
		点検診断の項目	点検診断結果の概要	性能低下度										
				点検診断 項目	施設 全体									
航路	Ⅲ	水深	変状なし	D	D	（緊急的措置の必要性） ・不要 （補修の必要性） ・不要	（将来計画の評価） － （維持工事等の計画） － （利用面、財政面、代替案） ・施設の重要度は高い （応急的措置の必要性） ・不要 （計画的措置の必要性） ・不要 （点検診断計画変更の必要性） －	☐ 緊急的措置 ☐ 応急的措置 ☐ 計画的措置 ☒ 経過観察措置	本施設は利用船舶を安全に航行、停泊するための水域であるが、新設で変状がないため次回点検診断まで適切に日常点検を実施する経過観察措置とする。					
		航路の状態	変状なし	D										
泊地	Ⅲ	水深	変状なし	D						D	（緊急的措置の必要性） ・不要 （補修の必要性） ・不要	（将来計画の評価） － （維持工事等の計画） － （利用面、財政面、代替案） ・施設の重要度は高い （応急的措置の必要性） ・不要 （計画的措置の必要性） ・不要 （点検診断計画変更の必要性） －	☐ 緊急的措置 ☐ 応急的措置 ☐ 計画的措置 ☒ 経過観察措置	本施設は利用船舶を安全に航行、停泊するための水域であるが、新設で変状がないため次回点検診断まで適切に日常点検を実施する経過観察措置とする。
		泊地の状態	変状なし	D										

維持管理計画書作成事例

(A) 新設する場合

No.9 緑地の事例

＊ ＊ 港 ＊ ＊ 地区 ＊ ＊ 緑地

維持管理計画書

項 目	内 容	備 考
港 格	重要港湾	
港 湾 名	＊ ＊ 港	
地 区 名	＊ ＊ 地区	
施 設 名	＊ ＊ 緑地	
施 設 番 号	L - ＊ - ＊	

2026 年 4 月

施設設置者 国土交通省

施設管理者 ＊ ＊ 県

目 次

I	総論	1
I-1	計画の目標.....	1
I-2	維持管理の基本的な考え方.....	1
I-3	施設に関連する計画.....	1
I-4	維持管理上の諸条件	2
I-5	付随する施設との関連性.....	4
I-6	維持管理レベル.....	4
I-7	座標系、位置座標の設定	5
I-8	初回点検診断結果	5
I-9	その他の配慮事項	5
II	点検診断計画.....	6
III	総合評価	7
IV	維持補修計画.....	7
V	参考資料	8

I 総論**I-1 計画の目標**

本施設を維持管理する計画の目標は、以下のとおりとする。

項 目	内 容	備 考
維持管理の計画目標期間	2026～2075 年度	
設計供用期間	50 年	

I-2 維持管理の基本的な考え方

本施設をどのような方針で維持管理していくかの基本的な考え方は、以下のとおりとする。

項 目	内 容	備 考
維持管理の基本的な考え方	各部材の維持管理レベルに応じた対応により維持管理を行う。	
通常・重点点検診断施設の設定	通常点検診断施設	

I-3 施設に関連する計画

本施設に関連する計画は、以下のとおりである。

項 目	内 容	備 考
本施設の 港湾計画 への位置づけ	計画策定（位置づけ）年	＊ ＊ ＊ ＊ 年
	将来計画	予定なし（現状を維持）
	大規模地震対策施設計画	無
予防保全計画における措置の優先度	－（経過観察措置）	
大規模地震対策推進地域等の位置づけ	無	
地域防災計画への位置づけ	無	
協働防護計画への位置づけ	無	

I-4 維持管理上の諸条件

本施設の維持管理計画に資する諸条件は、以下のとおりである。

なお、標準断面図、平面図等の関連図面は参考資料として添付する。

(施設の情報)

項 目	内 容	備 考
港格	重要港湾	
港湾名	* * 港	
地区名	* * 地区	
施設名	* * 緑地	
施設番号	L - * - *	
施設設置者	国土交通省	
施設管理者	* * 県	

(構造形式)

項 目	内 容	備 考
施設の分類	港湾環境整備施設 緑地	
面積	* * . * m ²	

(自然条件)

項 目	内 容	備 考
潮位	基本水準面	D.L±*.**(m)
	H.W.L.	D.L+*.**(m)
	M.S.L.	D.L+*.**(m)
	L.W.L.	D.L+*.**(m)
		維持管理 計画書作成 時点

(設計履歴)

通番	項 目	内 容	備 考
1	件名	****設計	
	適用基準	港湾の施設の技術上の基準・同解説(****年度版)	
	完了年度	****年度	
	受注者	***コンサルタント	
	件名		
	適用基準		
	完了年度		
	受注者		

(施工・補修履歴)

通番	項 目	内 容	備 考
1	件名	***緑地造成工事	
	完了年度	****年度	
	施工者	***建設	
2	件名	***管理施設工事	
	完了年度	****年度	
	施工者	***建設	
	件名		
	完了年度		
	施工者		

(材料特性)

本施設の主な材料特性は以下のとおりである。

なお、詳細な材料特性については、〇〇に保管されている工事完成図書等による。

通番	項 目	内 容	備 考
1	コンクリート	*-*-**N	
2	鉄筋	SD***	
3	粗粒度アスファルト	As**	
4	密粒度アスファルト	As**	
5			

I-5 付随する施設との関連性

本施設に付随する施設との関連性は、以下のとおりである。

なお「接続する緊急輸送道路」とは、道路啓開計画に示された港湾施設と接続する道路とする。

(付随する施設)

通番	項 目	内 容	備 考
1	施 設 名	***道路	
	施設番号	A-1-*	
2	施 設 名		
	施設番号		

(接続する緊急輸送道路)

通番	項 目	内 容	備 考
1	道 路 名	国道**線	
	規 格	一般道	
	道 路 名		
	規 格		

I-6 維持管理レベル

本施設の各部材の維持管理レベルは、以下のとおりとする。

部 材 名 称		維持管理レベル	性能低下度	維持管理方針の目安
修景施設（植栽、噴水等） 休憩施設（四阿、ベンチ等） 便益施設（水飲み場、トイレ、駐車場等） 災害応急対策施設（備蓄倉庫等） その他施設（展望台等） 舗装		Ⅲ (事後保全型)	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	経過観察措置
			C	
			D	
管 理 施 設	照明設備	Ⅲ (事後保全型)	A	緊急的措置並びに応急的措置
	車止め		B	経過観察措置
	排水設備		C	
	柵・扉・ロープ 標識等		D	

I-7 座標系、位置座標の設定

本施設は、座標系の設定、位置座標（X 座標、Y 座標）は行わない。

I-8 初回点検診断結果

本施設の初回点検診断の実績は以下のとおりである。

なお、点検診断結果は、参考資料として添付する。

項 目	時期	備 考
初回点検診断	2025 年度	一般・詳細

I-9 その他の配慮事項

項 目	内 容	備 考
代替施設の有無	無	
補修の優先度を考慮する上での配慮事項	（自由記入）	

II 点検診断計画

本施設の点検診断の頻度もしくは実施条件、点検診断の時期及び点検診断項目及び点検診断方法は以下のとおりとする。

(点検診断の頻度もしくは実施条件)

項 目		内 容	備 考
定期点検 診断	一般定期点検診断	5 年以内ごとに少なくとも 1 回	
	詳細定期点検診断	供用期間中に少なくとも 1 回	
臨時点検 診断	一般臨時点検診断	日常点検において特段の異常が確認された場合及び 震度 5 強以上の地震が発生した場合	
	詳細臨時点検診断	一般定期点検診断もしくは一般臨時点検診断の結果、 詳細点検診断が必要と判断された場合	

(点検診断の時期)

本施設の点検診断実施時期の見込みは以下のとおりとする。

年度	内 容	備 考	年度	内 容	備 考
2026			2051		
2027			2052		
2028			2053		
2029			2054		
2030	定期点検診断	一般	2055	定期点検診断	一般
2031			2056		
2032			2057		
2033			2058		
2034			2059		
2035	定期点検診断	一般	2060	定期点検診断	一般
2036			2061		
2037			2062		
2038			2063		
2039			2064		
2040	定期点検診断	一般	2065	定期点検診断	一般
2041			2066		
2042			2067		
2043			2068		
2044			2069		
2045	定期点検診断	一般	2070	定期点検診断	一般
2046			2071		
2047			2072		
2048			2073		
2049			2074		
2050	定期点検診断	一般	2075	定期点検診断	一般・詳細

(点検診断項目及び点検診断方法)

部 材 名 称		点検診断項目	点検の種類	点検診断方法
修景施設（植栽、噴水等）		各施設	日常	点検診断ガイドラインによる
休憩施設（四阿、ベンチ等）		各施設	日常	点検診断ガイドラインによる
便益施設（水飲み場、トイレ、駐車場等）		各施設	日常	点検診断ガイドラインによる
災害応急対策施設（備蓄倉庫等）		各施設	日常	点検診断ガイドラインによる
その他施設（展望台等）		各施設	日常	点検診断ガイドラインによる
舗装		沈下、陥没	一般	点検診断ガイドラインによる
		空洞化	詳細	点検診断ガイドラインによる
管理施設	照明設備	灯具、支柱、基礎の劣化、損傷等の状態	日常	点検診断ガイドラインによる
	車止め	本体の損傷、塗装、腐食	日常	点検診断ガイドラインによる
	排水設備	排水設備の破損、グレーチングの変形、腐食	日常	点検診断ガイドラインによる
	柵、扉、ロープ	破断、摩耗、編み込み部の緩み等の状態	日常	点検診断ガイドラインによる
	標識等	標識板、支柱、基礎の劣化、損傷等の状態	日常	点検診断ガイドラインによる

III 総合評価

総合評価においては、点検診断結果に基づき、施設の変状に対する工学的知見・判断に基づく評価及び計画的かつ適切な維持工事等に向けた現場的行政的判断に基づく評価を行い、今後の施設の維持管理に関する方針を定める。

なお、総合評価結果は参考資料として添付する。

IV 維持補修計画

本施設の維持補修計画は、以下のとおりとする。

通番	項 目	内 容	備 考
1	維持補修概要		
	実施時期		
	概算費用		

V 参考資料

参考資料は、以下の資料を添付する。

- ① 関連図面
- ② 設計計算書
- ③ 点検診断結果
- ④ 総合評価結果

参考資料①

関連図面

位置図

平面図

標準断面図

参考資料②

設計計算書

本施設に関する設計計算書より、主な維持管理に関連する主な設計条件を以下に抜粋する。

(設計条件 (抜粋))

項 目			内 容	備 考
【計画条件等】	要求性能	永続作用	使用性	
		変動作用	使用性	
		偶発作用	* * 性	
【利用条件等】	設計供用期間		50 年	
	緑地面積		***m ²	
【自然条件等】	潮位条件	H.W.L	D.L+*.**(m)	
		M.S.L	D.L+*.**(m)	
		L.W.L	D.L+*.**(m)	
	地震条件		・レベル 1 地震動 kh = *.**	
【材料特性】	コンクリート		* * - * - * * N	
	鉄筋		SD * * *	
	粗粒度アスファルト		As * *	
	密粒度アスファルト		As * *	

参考資料④

点検診断結果

初回点検診断結果

参考資料⑤

総合評価結果

総合評価結果（2025 年初回点検診断時）

部材		維持管理 レベル	点検診断			①工学的知見・判断 に基づく評価	②現場的・行政的判断 に基づく評価	③施設の維持管理 に関する方針	総合評価の概要	
			点検診断の項目	点検診断結果の概要	性能低下度					
					点検診断 項目					施設 全体
修景施設（植栽、噴水等）		Ⅲ	各施設	変状なし	D	D	（将来計画の評価） — （維持工事等の計画） — （利用面、財政面、代替案） ・施設の重要度は高い （応急的措置の必要性） ・不要 （計画的措置の必要性） ・不要 （点検診断計画変更の必要性） —	□緊急的措置 □応急的措置 □計画的措置 ■経過観察措置	本施設は地域住民の交流・憩いの場や港湾施設の修景等を目的とした緑地であるが、新設で変状がないため、次回点検診断まで適切に日常点検を実施する経過観察措置とする。	
休憩施設 （四阿、ベンチ等）		Ⅲ	各施設	変状なし	D					
便益施設（水飲み場、トイレ、駐車場等）		Ⅲ	各施設	変状なし	D					
災害応急対策施設 （備蓄倉庫等）		Ⅲ	各施設	変状なし	D					
その他施設（展望台等）		Ⅲ	各施設	変状なし	D					
舗装		Ⅲ	沈下、陥没	変状なし	D					
		Ⅲ	空洞化	変状なし	D					
管理施設	照明設備	Ⅲ	灯具、支柱、基礎の劣化、損傷等の状態	変状なし	D					
	車止め	Ⅲ	本体の損傷、塗装、腐食	変状なし	D					
	排水設備	Ⅲ	排水設備の破損、グレーチングの変形、腐食	変状なし	D					
	柵、扉、ロープ	Ⅲ	破断、摩耗、編み込み部の緩み等の状態	変状なし	D					
	標識等	Ⅲ	標識板、支柱、基礎の劣化、損傷等の状態	変状なし	D					

維持管理計画書作成事例
 (B) 供用期間を延長する場合
 No.10 直杭式横栈橋

＊ ＊ 港 ＊ ＊ 地区 ＊ ＊ 栈橋

維持管理計画書

項 目	内 容	備 考
港 格	重要港湾	
港 湾 名	＊ ＊ 港	
地 区 名	＊ ＊ 地区	
施 設 名	＊ ＊ 栈橋	
施 設 番 号	C-＊-＊	

2026 年 4 月

施設設置者 国土交通省

施設管理者 ＊ ＊ 県

※ 当初設計の要求性能と現行技術基準に基づく要求性能との間で生じる水準の差の有無が判断できないため、維持管理での十分な配慮を行うことで供用期間を延長する事例

目 次

I	総論	1
I-1	計画の目標.....	1
I-2	維持管理の基本的な考え方.....	1
I-3	施設に関連する計画.....	1
I-4	維持管理上の諸条件	2
I-5	付随する施設との関連性.....	6
I-6	維持管理レベル	7
I-7	座標系、位置座標の設定	8
I-8	供用期間を延長する際の点検診断結果	8
I-9	その他の配慮事項	8
II	点検診断計画.....	9
III	総合評価	13
IV	維持補修計画.....	13
V	参考資料	13

I 総論

I-1 計画の目標

本施設を維持管理する計画の目標は、以下のとおりとする。

項 目	内 容	備 考
維持管理の計画目標期間	2026～2075 年度	供用期間延長
設計供用期間	50 年	

I-2 維持管理の基本的な考え方

本施設をどのような方針で維持管理していくかの基本的な考え方は、以下のとおりとする。

項 目	内 容	備 考
維持管理の基本的な考え方	各部材の維持管理レベルに応じた対応により維持管理を行う。 供用期間の延長に伴い、点検診断を強化する。	供用期間の延長に伴って、マーカ部を追記
気候変動適応の考え方	適応策	
	適応の概要	
通常・重点点検診断施設の設定		通常点検診断施設

I-3 施設に関連する計画

本施設に関連する計画は、以下のとおりである。

項 目	内 容	備 考
本施設の 港湾計画 への位置づけ	計画策定（位置づけ）年	****年
	将来計画	予定なし（現状を維持）
	大規模地震対策施設計画	無
予防保全計画における措置の優先度		－（経過観察措置）
大規模地震対策推進地域等の位置づけ		有
地域防災計画への位置づけ		有
協働防護計画への位置づけ		有

I-4 維持管理上の諸条件

本施設の維持管理計画に資する諸条件は、以下のとおりである。

なお、標準断面図、平面図等の関連図面は、参考資料として添付する。

(施設の情報)

項 目	内 容	備 考
港格	重要港湾	
港湾名	* * 港	
地区名	* * 地区	
施設名	* * 棧橋	
施設番号	C- * - *	
施設設置者	国土交通省	
施設管理者	* * 県	

(構造形式)

項 目	内 容	備 考
施設の分類	係留施設 棧橋	
構造形式	直杭式横棧橋	
水深	D.L. - *.**m	
延長（取付部を含む延長）	*.**m	
面積	*.**m ²	
天端高	D.L. + *.**m	

(自然条件)

設計条件に関する項目		内 容	備考
潮位	基本水準面	D.L±*.**m	維持管理 計画書作成 時点
	H.W.L.	D.L+*.**m	
	M.S.L.	D.L+*.**m	
	L.W.L.	D.L+*.**m	

(気候変動の影響を勘案した自然条件)

項 目			内 容	備 考
気候変動の影響を 勘案した潮位	将来作用基準年		2075 年	将来作用 基準年時点
	2℃上昇 シナリオ	H.W.L.	D.L+*.**m	
		M.S.L.	D.L+*.**m	
		L.W.L.	D.L+*.**m	
	4℃上昇 シナリオ	H.W.L.	D.L+*.**m	
		M.S.L.	D.L+*.**m	
		L.W.L.	D.L+*.**m	

(設計履歴)

本施設の設計の履歴は、以下のとおりである。

なお、主な設計条件は参考資料として添付する。

通番	項 目	内 容	備 考
1	件名	****土質調査	
	適用基準		
	完了年度	****年度	
	受注者	***コンサルタント	
2	件名	****基本設計	
	適用基準	港湾の施設の技術上の基準・同解説(****年度版)	
	完了年度	****年度	
	受注者	***コンサルタント	
3	件名	****細部設計	
	適用基準	港湾の施設の技術上の基準・同解説(****年度版)	
	完了年度	****年度	
	受注者	***コンサルタント	
4	件名	****補修設計	
	適用基準	港湾の施設の技術上の基準・同解説(****年度版)	
	完了年度	****年度	
	受注者	***コンサルタント	
5	件名		
	適用基準		
	完了年度		
	受注者		

(施工・補修履歴)

通番	項 目	内 容	備 考
1	件名	* * * 棧橋築造工事	
	完了年度	* * * * 年度	
	施工者	* * * 建設・* * * 工業 JV	
2	件名	* * * 被覆防食工補修工事	
	完了年度	* * * * 年度	
	施工者	* * * 建設	
3	件名	* * * 電気防食工補修工事	
	完了年度	* * * * 年度	
	施工者	* * * 建設	
4	件名	* * * エプロン補修工事	
	完了年度	* * * * 年度	
	施工者	* * * 建設	
5	件名	* * * 附帯設備補修工事	
	完了年度	* * * * 年度	
	施工者	* * * 建設	
6	件名	* * * 上部工補修工事	
	完了年度	* * * * 年度	
	施工者	* * * 建設	
	件名		
	完了年度		
	施工者		

(材料特性)

本施設の主な材料特性は以下のとおりである。

なお、詳細な材料特性については、〇〇に保管されている工事完成図書等による。

通番	項 目	内 容	備 考
1	鋼管杭	SKK * * * Φ * , * * * mm	
2	被覆防食	ペトロラタム被覆：期待耐用年数 * * 年	
3	電気防食	流電陽極方式：防食年数 * * 年	
4	基礎捨石	転用材 * * ~ * * * kg/個程度	
5	被覆石	* * ~ * * * kg/個程度	
6	コンクリート	* * - * - * * N	
7	鉄筋	SD * * *	
8	粗粒度アスファルト	As * *	
9	密粒度アスファルト	As * *	
10	渡版	* * L × * * B × * * t	
11	係船柱	曲柱 * , * * * KN * * * *	
12	防衝設備	* * * 製 * * 型 * * * H	
13	車止め	* * * 製 * * * H 型	
14	はしご	* * * 製 * * B × * * * H	

(利用状況)

港湾計画上の利用情報は以下のとおりである。なお、各年の利用実績は参考資料として添付する。

項 目		内 容	備 考
主要利用船舶の種類		* * * * 船	
主要取扱貨物		* * * *	
対象船舶	船型	* * , * * * D/W	
	船席数	* * バース	

I-5 付随する施設との関連性

本施設に付随する施設との関連性は、以下のとおりである。

なお「接続する緊急輸送道路」とは、道路啓開計画に示された港湾施設と接続する道路とする。

(付随する施設)

通番	項 目	内 容	備 考
1	施 設 名	* * * 泊地	
	施設番号	A-1-*	
2	施 設 名	* * * 荷さばき地	
	施設番号	F-4-*	
3	施 設 名	* * * 上屋	
	施設番号	F-5-*	
4	施 設 名	* * * 道路	
	施設番号	D-1-*	
	施 設 名		
	施設番号		

(接続する緊急輸送道路)

通番	項 目	内 容	備 考
1	道 路 名	* * * 自動車道	
	規 格	高規格道路	
2	道 路 名	国道* * 線	
	規 格	一般道	
	道 路 名		
	規 格		

I-6 維持管理レベル

本施設の各部材の維持管理レベル及び維持管理の方針の目安は、以下のとおりとする。

部 材 名 称		維持管理レベル	性能 低下度	維持管理方針の目安
栈橋全体（栈橋法線）		Ⅲ （事後保全型）	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	経過観察措置
			C	
			D	
栈橋上部工下面・側面		Ⅱ （予防保全型）	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	計画的措置
			C	経過観察措置
			D	
鋼管杭		Ⅰ （事前対策型）	A	－
			B	緊急的措置並びに応急的措置
			C	計画的措置
			D	経過観察措置
鋼管杭（被覆防食工） 鋼管杭（電気防食工）		Ⅱ （予防保全型）	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	計画的措置
			C	経過観察措置
			D	
エプロン 海底地盤 渡版		Ⅲ （事後保全型）	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	経過観察措置
			C	
			D	
土留部	ケーソン	Ⅰ （事前対策型）	A	－
			B	緊急的措置並びに応急的措置
			C	計画的措置
			D	経過観察措置
	上部工	Ⅲ （事後保全型）	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	経過観察措置
			C	
			D	
附帯設備	係船柱 防衝設備 車止め はしご	Ⅲ （事後保全型）	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	経過観察措置
			C	
			D	

I-7 座標系、位置座標の設定

本施設の維持管理に有用な、座標系（ブロック番号、部材番号等）及び位置座標（X座標、Y座標、Z座標）は、参考資料として添付する。

I-8 供用期間を延長する際の点検診断結果

本施設の供用期間を延長する際の点検診断の実績は以下のとおりである。

なお、点検診断結果は、参考資料として添付する。

項 目	時 期	備 考
供用期間を延長する際の点検診断	2021 年度	一般・詳細

I-9 その他の配慮事項

項 目	内 容	備 考
代替施設の有無	無	
補修の優先度を考慮する上での配慮事項	（自由記入）	

II 点検診断計画

本施設の点検診断の頻度及び実施条件、点検診断の時期並びに点検診断項目及び点検診断方法は以下のとおりとする。

(点検診断の頻度及び実施条件)

供用期間の延長に伴って、マーカ部を追記

項 目		内 容	備 考
定期点検 診断	一般定期点検診断	5 年以内ごとに少なくとも 1 回（点検強化対象の点検診断項目については 5 年以内に少なくとも 2 回）	
	詳細定期点検診断	供用期間中に少なくとも 1 回	
臨時点検 診断	一般臨時点検診断	日常点検において特段の異常が確認された場合及び震度 5 強以上の地震が発生した場合	
	詳細臨時点検診断	一般定期点検診断又は一般臨時点検診断の結果、詳細点検診断が必要と判断された場合	
日常点検		パース会議を活用し、定期的に利用上の支障に関するヒアリングを実施	
		点検強化対象の点検診断項目については、定期点検診断を行わない年度において、少なくとも 1 回	
		震度 4 以上の地震発生後は、鋼管杭の支持力不足に起因する変状の発生がないかを確認	

(点検診断の時期)

本施設の点検診断の実施時期の見込みは以下のとおりとする。

供用期間の延長に伴って、マーカ部を追記

年度	内 容	備 考	年度	内 容	備 考
2026	定期点検診断	一般	2051	定期点検診断	一般
2027			2052		
2028			2053		
2029	定期点検診断	一般（強化）	2054	定期点検診断	一般（強化）
2030			2055		
2031	定期点検診断	一般	2056	定期点検診断	一般
2032			2057		
2033			2058		
2034	定期点検診断	一般（強化）	2059	定期点検診断	一般（強化）
2035			2060		
2036	定期点検診断	一般	2061	定期点検診断	一般
2037			2062		
2038			2063		
2039	定期点検診断	一般（強化）	2064	定期点検診断	一般（強化）
2040			2065		
2041	定期点検診断	一般	2066	定期点検診断	一般
2042			2067		
2043			2068		
2044	定期点検診断	一般（強化）	2069	定期点検診断	一般（強化）
2045			2070		
2046	定期点検診断	一般	2071	定期点検診断	一般・詳細
2047			2072		
2048			2073		
2049	定期点検診断	一般（強化）	2074	定期点検診断	一般（強化）
2050			2075		

供用期間の延長に伴って、マーカ部を追記

(点検診断項目及び点検診断方法)

部 材 名 称	点検診断項目	点検の種類	点検診断方法
栈橋全体（栈橋法線）	凹凸、出入り (点検強化対象)	一般	点検診断ガイドラインによるほか、以下の方法により行う。 ・ ＊ ＊ システムを活用（凹凸、出入りに関する高精度な点検が可能な新技術） ・ 移動量・沈下量を定量的に、または写真等で記録
	移動量、傾斜量、沈下量	詳細	点検診断ガイドラインによる
エプロン	沈下、陥没 (点検強化対象)	一般	点検診断ガイドラインによるほか、以下の方法により行う。 ・ ＊ ＊ システムを活用（沈下、陥没に関する高精度な点検が可能な新技術） ・ 沈下、陥没の程度を定量的に、または写真等で記録
	アスファルトの劣化、損傷	一般	点検診断ガイドラインによる
栈橋上部工（上・側面部）	コンクリートの劣化、損傷 (点検強化対象)	一般	点検診断ガイドラインによるほか、以下の方法により行う。 ・ ＊ ＊ システムを活用（コンクリートの劣化、損傷に関する高精度な点検が可能な新技術） ・ 以下について定量的に、または写真等で記録 ・ ひび割れ、剥離、損傷 ・ 鉄筋腐食 ・ 劣化の兆候 等
栈橋上部工（下面部）	コンクリートの劣化、損傷 (点検強化対象)	一般	点検診断ガイドラインによるほか、以下の方法により行う。 ・ ＊ ＊ システムを活用（コンクリートの劣化、損傷に関する高精度な点検が可能な新技術） ・ 以下について定量的に、または写真等で記録 ・ ひび割れの発生方向 ・ ひび割れの本数、長さ、幅 ・ かぶりの剥落状況 ・ 錆汁の発生状況
	コンクリートの分析	詳細	点検診断ガイドラインによる

部 材 名 称		点検診断項目	点検の種類	点検診断方法
鋼管杭		鋼材の腐食、亀裂、損傷	一般	点検診断ガイドラインによる
			詳細	点検診断ガイドラインによる
		肉厚測定	詳細	点検診断ガイドラインによる
鋼管杭（被覆防食工）		被覆防食工 （ペトロラタム被覆） (点検強化対象)	一般	点検診断ガイドラインによるほか、以下の方法により行う。 ・ ＊ ＊ システムを活用（被覆防食の劣化に関する高精度な点検が可能な新技術） ・ 被覆の劣化を定量的に、または写真等で記録
			詳細	点検診断ガイドラインによる
鋼管杭（電気防食工）		電位測定	一般	点検診断ガイドラインによる
		陽極、電位	詳細	点検診断ガイドラインによる
海底地盤		洗掘、堆積 (点検強化対象)	詳細	点検診断ガイドラインによるほか、以下の方法により行う。 ・ ＊ ＊ システムを活用（洗掘、堆積に関して容易に点検が可能な新技術）
渡版		本体の損傷、塗装	一般	点検診断ガイドラインによる
土留部	ケーソン	側壁の劣化、損傷	一般	点検診断ガイドラインによる
		コンクリートの劣化、損傷	詳細	点検診断ガイドラインによる
	上部工	コンクリートの劣化、損傷	一般	点検診断ガイドラインによる
附帯設備	係船柱	本体の劣化、損傷 塗装のはがれ等の状態	日常	点検診断ガイドラインによる
	防衝設備	本体の損傷、破損、 取付金具の腐食等の状態	日常	点検診断ガイドラインによる
	車止め	本体の損傷、塗装、腐食	日常	点検診断ガイドラインによる
	はしご	本体の損傷、塗装、腐食	日常	点検診断ガイドラインによる

III 総合評価

総合評価においては、点検診断結果に基づき、施設の変状に対する工学的知見・判断に基づく評価及び計画的かつ適切な維持工事等に向けた現場的行政的判断に基づく評価を行い、今後の施設の維持管理に関する方針を定める。

なお、総合評価結果は参考資料として添付する。

IV 維持補修計画

本施設の維持補修計画は、以下のとおりとする。

通番	項 目	内 容	備 考
1	維持補修概要	犠牲陽極交換	
	実施時期	* * * * 年度	
	概算費用	*, * * * 千円	
	維持補修概要		
	実施時期		
	概算費用		

V 参考資料

参考資料は、以下の資料を添付する。

- ① 関連図面
- ② 設計計算書
- ③ 利用実績
- ④ 座標系及び位置座標
- ⑤ 点検診断結果
- ⑥ 総合評価結果

参考資料①

関連図面

位置図

平面図

標準断面図

参考資料②

設計計算書

本施設に関する設計計算書より、主な維持管理に関連する主な設計条件を以下に抜粋する。

(設計条件 (抜粋))

項 目			内 容	備 考
計画条件等	要求性能	永続作用	使用性	
		変動作用	使用性	
		偶発作用	* * 性	
利用条件等	設計供用期間		50 年	
	計画延長		***.**(m)	
	計画天端高		D.L+*.**(m)	
	計画水深		D.L-*.**(m)	
	設計水深		D.L-*.**(m)	
	基本水準面		D.L±*.**(m)	
	エプロン復員		**.**(m)	
	エプロン勾配		*.*(%)(順勾配)	
	対象船舶		**,*** (DWT)	
	対象船舶の接岸条件		接岸速度 **.**(cm/sec)	
	牽引力		*,*** (kN)	
	載荷重		永続作用 **.**(kN/m ²) 変動作用 **.**(kN/m ²)	
自然条件等	潮位条件	H.W.L	D.L+*.**(m)	
		M.S.L	D.L+*.**(m)	
		L.W.L	D.L+*.**(m)	
	残留水位条件		D.L+*.**(m)	
	地震条件		・レベル 1 地震動 kh = *.**	
気候変動の 影響を勘案した 潮位	将来作用基準年		***	
	2℃上昇 シナリオ	H.W.L	D.L+*.**(m)	
		M.S.L	D.L+*.**(m)	
		L.W.L	D.L+*.**(m)	
	4℃上昇 シナリオ	H.W.L	D.L+*.**(m)	
		M.S.L	D.L+*.**(m)	
		L.W.L	D.L+*.**(m)	

項 目			内 容	備 考
材料特性	下部工	鋼材	規格等	
		被覆防食工	ペトロラタム被覆：期待耐用年数＊＊年	
		電気防食工	流電陽極方式：防食年数＊＊年	
	栈橋上部工	コンクリート	＊＊-＊-＊＊N	
		鉄筋	SD＊＊＊	
	舗装	コンクリート舗装	＊＊-＊-＊＊N	
	附帯設備	係船柱	曲柱＊, ＊＊ ＊KN ＊ ＊ ＊ ＊	
		防衝設備	＊ ＊ ＊ 製 ＊ ＊ 型 ＊ ＊ ＊ H	
		車止め	＊ ＊ ＊ 製 ＊ ＊ ＊ H 型	
		はしご	＊ ＊ ＊ 製 ＊ ＊ B × ＊ ＊ ＊ H	

参考資料③

利用実績

(利用実績)

年	取扱貨物量	主要取扱貨物			備考
		1 位	2 位	3 位	
2026					
2027					
2028					
2029					
2030					
2031					
2032					
2033					
2034					
2035					
2036					
2037					
2038					
2039					
2040					
2041					
2042					
2043					
2044					
2045					
2046					
2047					
2048					
2049					
2050					
・ ・ ・					
2075					

参考資料④

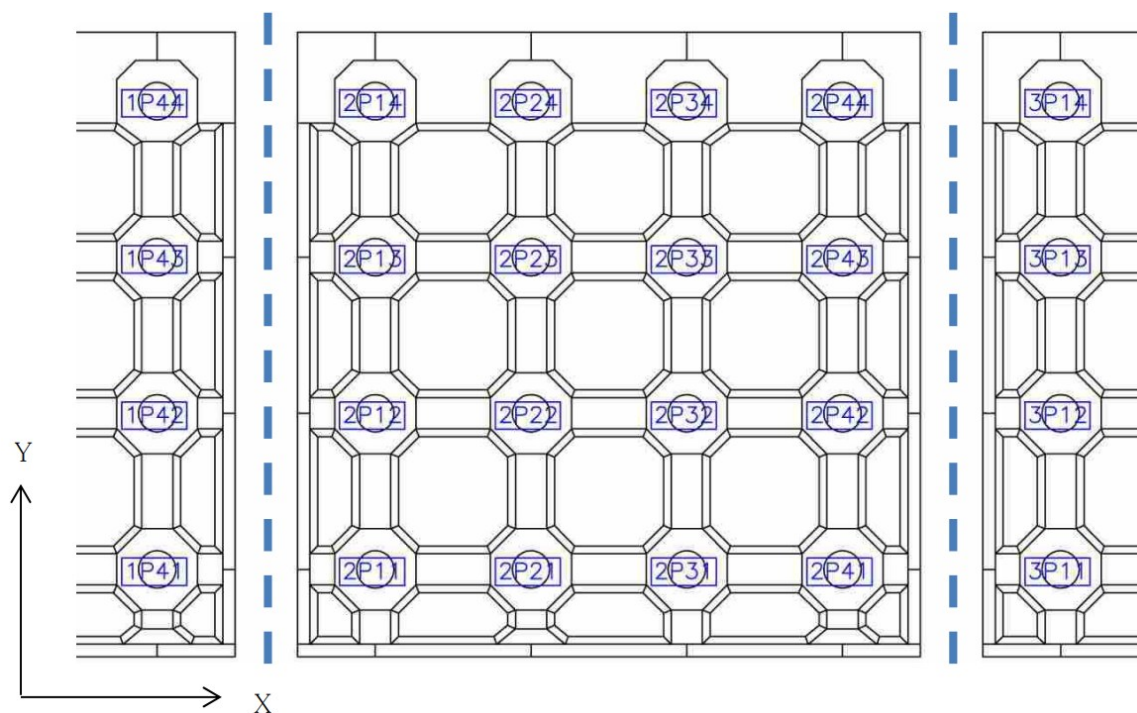
座標系及び位置座標

(座標系記号)

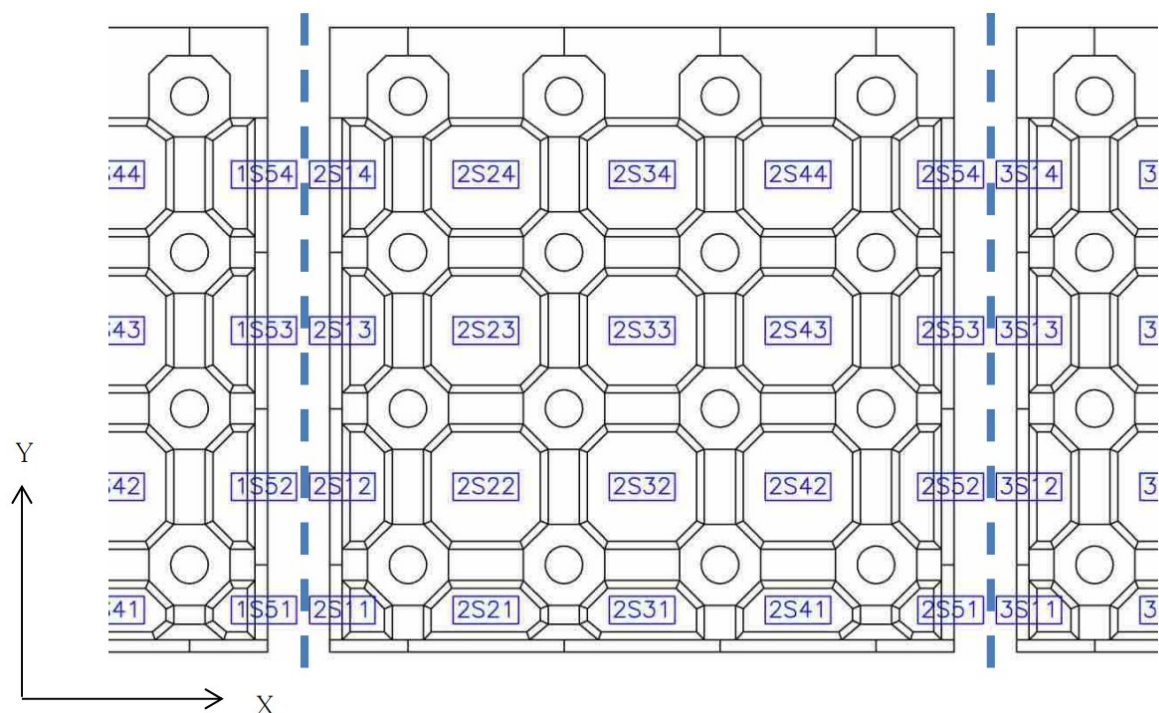
通番	名称	記号	用語
1	梁	B	Beam
2	床板	S	Slab
3	鋼管杭	P	Pile
4	被覆防食	Ppc	Protection coating
5	電気防食	Pcp	Cathodic protection
6	エプロン	Ap	Apron
7	渡版	Cp	Connection plate
8	防衝設備	F	Fender
9	係船柱	Bo	Bollard
10	車止め	Cu	Curbing
11	はしご	La	Ladder

(座標系)

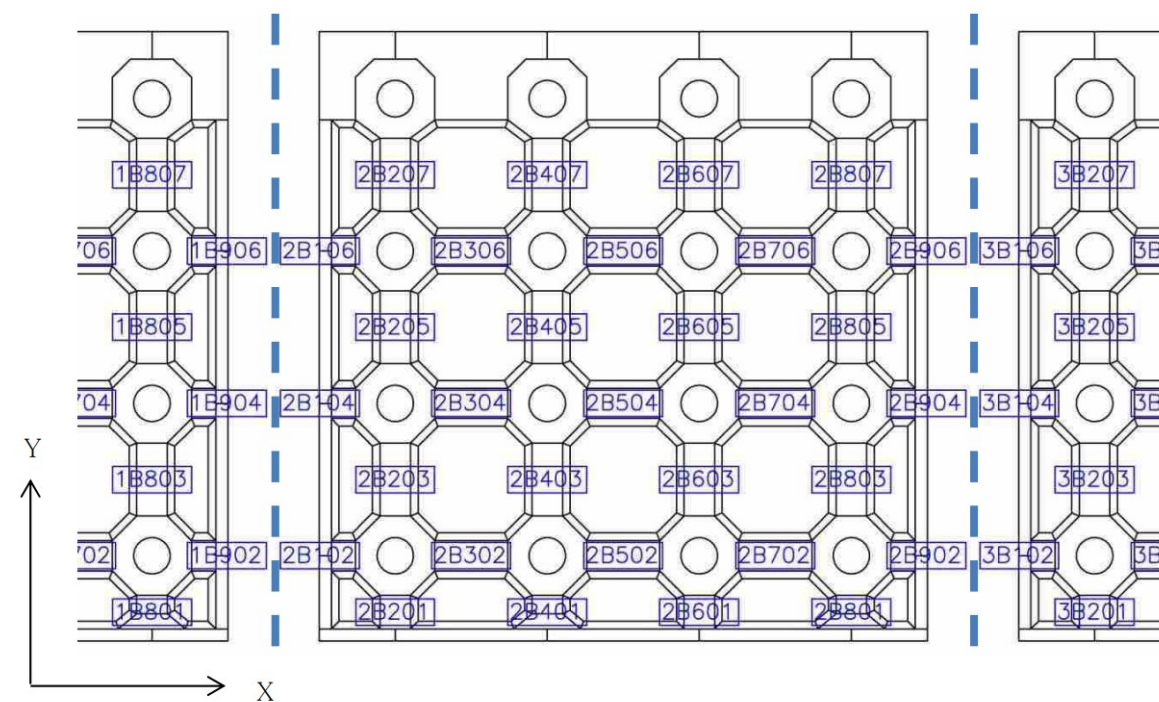
鋼管杭、被覆防食、電気防食の座標系

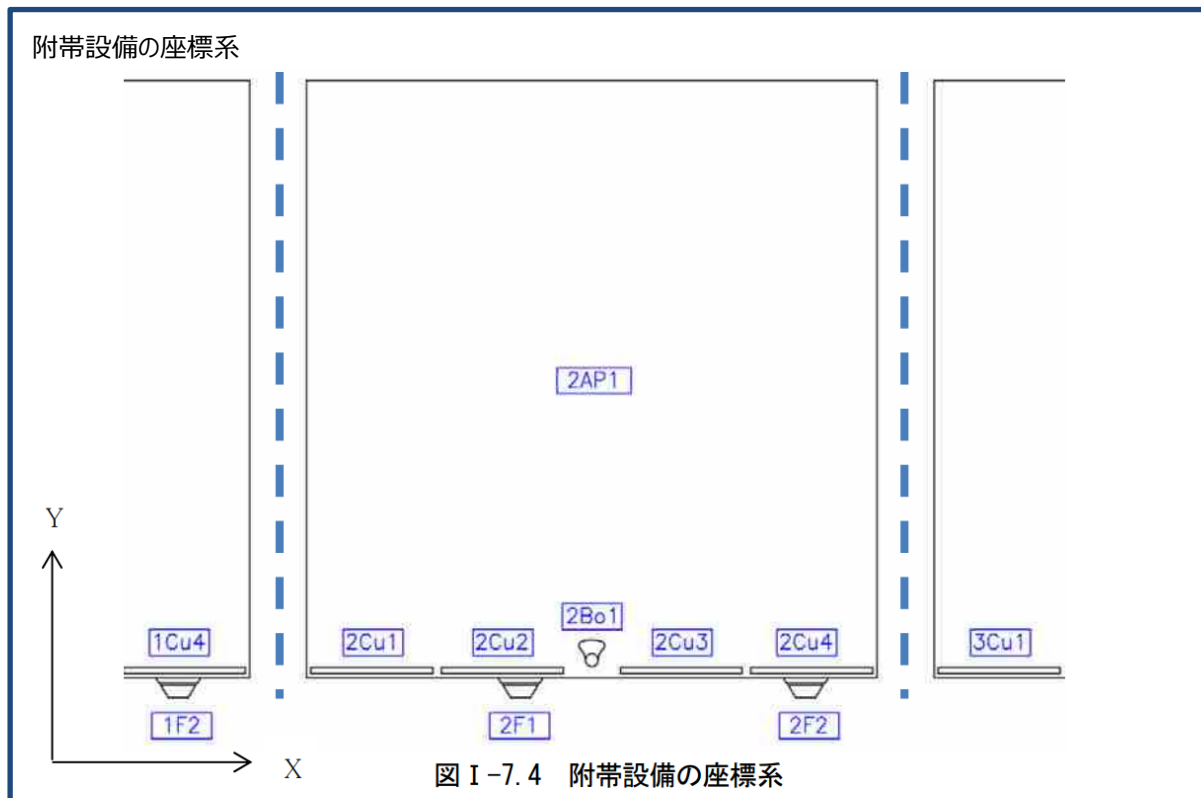


栈橋上部工（下面部）の床板の座標系



栈橋下面部の梁の座標系





(位置座標)

本施設の位置座標 (X 座標、Y 座標、Z 座標) は必要に応じて設定する。

参考資料⑤

点検診断結果

初回点検診断結果

一般定期点検診断結果

⋮

供用期間を延長する際の点検診断結果（一般・詳細）

供用期間の延長に伴って、マーカ部を追記

参考資料⑥

総合評価結果

総合評価結果（2021 年点検診断時）

部材		維持管理 レベル	点検診断			①工学的知見・判断 に基づく評価	②現場的・行政的判断 に基づく評価	③施設の維持管理 に関する方針	総合評価の概要	
			点検診断の項目	点検診断結果の概要	性能低下度					
					点検診断 項目					施設 全体
栈橋全体（栈橋法線）		Ⅲ	凹凸、出入り	○ブロックに隣接する上部工との間に 10cm 未満の凹凸がある。	C	C	（将来計画の評価） ・供用期間の延長 （維持工事等の計画） ・軽微な補修 （利用面、財政面、代替案） ・施設の重要度は中程度 （応急的措置の必要性） ・不要 （計画的措置の必要性） － （点検診断計画変更の必要性） ・供用期間延長後においても十分な配慮が必要な部材については点検を実施 ・設計供用期間末までに詳細点検診断を実施	□緊急的措置 □応急的措置 □計画的措置 ■経過観察措置	本施設は近隣に代替施設がなく、重要度が高いため、供用期間を延長するが、当初設計の要求性能と現行技術基準に基づく要求性能との間で生じる水準の差の有無が判断できないため、維持管理での十分な配慮を行うことで供用を継続する。 施設の性能の低下はほとんど認められない状態であるため、日常点検・一般定期点検診断を強化しつつ経過観察措置とする。	
			移動量、傾斜量、沈下量	変状なし	D					
エプロン		Ⅲ	沈下、陥没	◇ブロックのエプロンに 3 c m 未満の段差がある。	C					
			コンクリートの劣化、損傷	変状なし	D					
栈橋上部工（上・側面部）		Ⅱ	コンクリートの劣化、損傷	▽ブロックの上部工に幅 3 c m 未満のひび割れがある。	C					
栈橋上部工（下面部）		Ⅱ	コンクリートの劣化、損傷	▽ブロックの上部に工錆汁が点状に発生している。	C					
			コンクリートの分析	変状なし	D					
鋼管杭		I	鋼材の腐食、亀裂、損傷	変状なし	D					
		I	肉厚測定	変状なし	D					
鋼管杭（被覆防食工）		Ⅱ	被覆防食工（ベトロラム被覆）	○番の保護カバーの表面に微細なクラックが見られる。	C					
鋼管杭（電気防食工）		Ⅱ	電気防食工	防食管理電位が維持されている。（-950mV）	C					
		Ⅱ	陽極、電位	変状なし	D					
海底地盤		Ⅲ	洗掘、堆積	変状なし	D					
渡版		Ⅲ	本体の損傷、塗装、腐食	変状なし	D					
土留部	ケーソン	I	側面の劣化、損傷	変状なし	D					
			コンクリートの劣化、損傷	変状なし	D					
	上部工	Ⅲ	コンクリートの劣化、損傷	変状なし	D					
附帯設備	係船柱	Ⅲ	本体の劣化、損傷、塗装の剥がれ等の状態	△番の係船柱の塗装がはがれている。	C					
	防衛設備	Ⅲ	本体の損傷、破損、取付金具の腐食等の状態	□番の取付金具に発錆がある。	C					
	車止め	Ⅲ	本体の損傷、塗装、腐食	▽番の車止めが変形している箇所がある。	C					
	はしご	Ⅲ	本体の損傷、塗装、腐食	○番のはしごに発錆がある。	C					

（将来計画の評価）

・供用期間の延長

（維持工事等の計画）

・軽微な補修

（利用面、財政面、代替案）

・施設の重要度は中程度

（応急的措置の必要性）

・不要

（計画的措置の必要性）

ー

（点検診断計画変更の必要性）

・供用期間延長後においても十分な配慮が必要な部材については点検を実施

・設計供用期間末までに詳細点検診断を実施

☐ 緊急的措置☐ 応急的措置☐ 計画的措置

■ 経過観察措置

本施設は近隣に代替施設がなく、重要度が高いため、供用期間を延長するが、当初設計の要求性能と現行技術基準に基づく要求性能との間で生じる水準の差の有無が判断できないため、維持管理での十分な配慮を行うことで供用を継続する。

施設の性能の低下はほとんど認められない状態であるため、日常点検・一般定期点検診断を強化しつつ経過観察措置とする。

維持管理計画書作成事例
(B) 供用期間を延長する場合
No.11 矢板式係船岸

＊ ＊ 港 ＊ ＊ 地区 ＊ ＊ 岸壁

維持管理計画書

項 目	内 容	備 考
港 格	重要港湾	
港 湾 名	＊ ＊ 港	
地 区 名	＊ ＊ 地区	
施 設 名	＊ ＊ 岸壁	
施 設 番 号	C-＊-＊	

2026 年 4 月

施設設置者 国土交通省

施設管理者 ＊ ＊ 県

目 次

I	総論	1
I-1	計画の目標.....	1
I-2	維持管理の基本的な考え方.....	1
I-3	施設に関連する計画.....	1
I-4	維持管理上の諸条件	2
I-5	付随する施設との関連性.....	6
I-6	維持管理レベル	7
I-7	座標系、位置座標の設定	8
I-8	供用期間を延長する際の点検診断結果	8
I-9	その他の配慮事項	8
II	点検診断計画.....	9
III	総合評価	12
IV	維持補修計画.....	13
V	参考資料	13

I 総論**I-1 計画の目標**

本施設を維持管理する計画の目標は、以下のとおりとする。

項 目	内 容	備 考
維持管理の計画目標期間	2026～2075 年度	供用期間延長
設計供用期間	50 年	

I-2 維持管理の基本的な考え方

本施設をどのような方針で維持管理していくかの基本的な考え方は、以下のとおりとする。

項 目	内 容	備 考
維持管理の基本的な考え方	各部材の維持管理レベルに応じた対応により維持管理を行う。 供用期間の延長に伴い、点検診断を強化する。	
気候変動適応の 考え方	適応策	順応適応策
	適応の概要	2℃上昇シナリオへ対応
通常・重点点検診断施設の設定	通常点検診断施設	

I-3 施設に関連する計画

本施設に関連する計画は、以下のとおりである。

項 目	内 容	備 考
本施設の 港湾計画 への位置づけ	計画策定（位置づけ）年	****年
	将来計画	予定なし（現状を維持）
	大規模地震対策施設計画	無
予防保全計画における措置の優先度	－（経過観察措置）	
大規模地震対策推進地域等の位置づけ	有	
地域防災計画への位置づけ	有	
協働防護計画への位置づけ	有	

I-4 維持管理上の諸条件

本施設の維持管理計画に資する諸条件は、以下のとおりである。

なお、標準断面図、平面図等の関連図面は、参考資料として添付する。

(施設の情報)

項 目	内 容	備 考
港格	重要港湾	
港湾名	* * 港	
地区名	* * 地区	
施設名	* * 岸壁	
施設番号	C- * - *	
施設設置者	国土交通省	
施設管理者	* * 県	

(構造形式)

項 目	内 容	備 考
施設の分類	係留施設 岸壁	
構造形式	矢板式係船岸	
水深	D.L. - * * . * (m)	
延長（取付部を含む延長）	* * . * (m)	
面積	* * . * (m ²)	
天端高	D.L. + * * . * (m)	

(自然条件)

設計条件に関する項目		内 容	備 考
潮位	基本水準面	D.L±*.**(m)	維持管理 計画書作成 時点
	H.W.L.	D.L+*.**(m)	
	M.S.L.	D.L+*.**(m)	
	L.W.L.	D.L+*.**(m)	

(気候変動の影響を勘案した自然条件)

項 目			内 容	備 考
気候変動の影響を 勘案した潮位	将来作用基準年		2075 年	将来作用 基準年時点
	2℃上昇 シナリオ	H.W.L.	D.L+*.**(m)	
		M.S.L.	D.L+*.**(m)	
		L.W.L.	D.L+*.**(m)	
	4℃上昇 シナリオ	H.W.L.	D.L+*.**(m)	
		M.S.L.	D.L+*.**(m)	
		L.W.L.	D.L+*.**(m)	

(設計履歴)

本施設の設計の履歴は、以下のとおりである。

なお、主な設計条件は参考資料として添付する。

通番	項 目	内 容	備 考
1	件名	****土質調査	
	適用基準		
	完了年度	****年度	
	受注者	***コンサルタント	
2	件名	****基本設計	
	適用基準	港湾の施設の技術上の基準・同解説(****年度版)	
	完了年度	****年度	
	受注者	***コンサルタント	
3	件名	****細部設計	
	適用基準	港湾の施設の技術上の基準・同解説(****年度版)	
	完了年度	****年度	
	受注者	***コンサルタント	
4	件名	****補修設計	
	適用基準	港湾の施設の技術上の基準・同解説(****年度版)	
	完了年度	****年度	
	受注者	***コンサルタント	
5	件名		
	適用基準		
	完了年度		
	受注者		

(施工・補修履歴)

通番	項 目	内 容	備 考
1	件名	* * * 岸壁築造工事	
	完了年度	* * * * 年度	
	施工者	* * * 建設・* * * 工業 JV	
2	件名	* * * 被覆防食工補修工事	
	完了年度	* * * * 年度	
	施工者	* * * 建設	
3	件名	* * * 電気防食工補修工事	
	完了年度	* * * * 年度	
	施工者	* * * 建設	
4	件名	* * * エプロン補修工事	
	完了年度	* * * * 年度	
	施工者	* * * 建設	
5	件名	* * * 附帯設備補修工事	
	完了年度	* * * * 年度	
	施工者	* * * 建設	
6	件名	* * * 上部工補修工事	
	完了年度	* * * * 年度	
	施工者	* * * 建設	
	件名		
	完了年度		
	施工者		

(材料特性)

本施設の主な材料特性は以下のとおりである。

なお、詳細な材料特性については、〇〇に保管されている工事完成図書等による。

通番	項 目	内 容	備 考
1	鋼矢板	SY***, **型, ***mm	
2	被覆防食	重防食：期待耐用年数**年	
3	電気防食	流電陽極方式：防食年数**年	
4	コンクリート	**-**-**N	
5	鉄筋	SD***	
6	粗粒度アスファルト	As**	
7	密粒度アスファルト	As**	
8	係船柱	曲柱*, ***KN ****	
9	防衝設備	***製 **型 ***H	
10	車止め	***製 ***H型	
11	はしご	***製 **B × ***H	

(利用状況)

港湾計画上の利用情報は以下のとおりである。なお、各年の利用実績は参考資料として添付する。

項 目		内 容	備 考
主要利用船舶の種類		****船	
主要取扱貨物		****	
対象船舶	船型	**, ***D/W	
	船席数	**バース	

I-5 付随する施設との関連性

本施設に付随する施設との関連性は、以下のとおりである。

なお「接続する緊急輸送道路」とは、道路啓開計画に示された港湾施設と接続する道路とする。

(付随する施設)

通番	項 目	内 容	備 考
1	施 設 名	* * * 泊地	
	施設番号	A-1-*	
2	施 設 名	* * * 荷さばき地	
	施設番号	F-4-*	
3	施 設 名	* * * 上屋	
	施設番号	F-5-*	
4	施 設 名	* * * 道路	
	施設番号	D-1-*	
	施 設 名		
	施設番号		

(接続する緊急輸送道路)

通番	項 目	内 容	備 考
1	道 路 名	国道* * 線	
	規 格	一般道	
	道 路 名		
	規 格		

I-6 維持管理レベル

本施設の各部材の維持管理レベル及び維持管理の方針の目安は、以下のとおりとする。

部 材 名 称		維持管理レベル	性能 低下度	維持管理方針の目安
係船岸全体 (岸壁法線)		Ⅲ (事後保全型)	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	経過観察措置
			C	
			D	
鋼管矢板		Ⅰ (事前対策型)	A	—
			B	緊急的措置並びに応急的措置
			C	計画的措置
			D	経過観察措置
鋼管矢板 (被覆防食工)		Ⅱ (予防保全型)	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	計画的措置
			C	経過観察措置
			D	
鋼管矢板 (電気防食工)		Ⅱ (予防保全型)	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	計画的措置
			C	経過観察措置
			D	
上部工 エプロン 海底地盤		Ⅲ (事後保全型)	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	経過観察措置
			C	
			D	
附 帯 設 備	係船柱 防衝設備 車止め 排水設備 はしご	Ⅲ (事後保全型)	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	経過観察措置
			C	
			D	

I-7 座標系、位置座標の設定

本施設の維持管理に有用な、座標系（ブロック番号、部材番号等）及び位置座標（X座標、Y座標、Z座標）は、参考資料として添付する。

I-8 供用期間を延長する際の点検診断結果

本施設の供用期間を延長する際の点検診断の実績は以下のとおりである。

なお、点検診断結果は、参考資料として添付する。

項 目	時 期	備 考
供用期間を延長する際の点検診断	2021 年度	一般・詳細

I-9 その他の配慮事項

項 目	内 容	備 考
代替施設の有無	有	* * 地区 * * 岸壁
補修の優先度を考慮する上での配慮事項	（自由記入）	

II 点検診断計画

本施設の点検診断の頻度及び実施条件、点検診断の時期並びに点検診断項目及び点検診断方法は以下のとおりとする。

(点検診断の頻度及び実施条件)

項 目		内 容	備 考
定期点検 診断	一般定期点検診断	5 年以内ごとに少なくとも 1 回（点検強化対象の点検診断項目については 5 年以内に少なくとも 2 回）	
	詳細定期点検診断	供用期間中に少なくとも 1 回	
臨時点検 診断	一般臨時点検診断	日常点検において特段の異常が確認された場合及び震度 5 強以上の地震が発生した場合	
	詳細臨時点検診断	一般定期点検診断又は一般臨時点検診断の結果、詳細点検診断が必要と判断された場合	
日常点検		パース会議を活用し、定期的に利用上の支障に関するヒアリングを実施	
		点検強化対象の点検診断項目については、定期点検診断を行わない年度において、少なくとも 1 回	
		震度 4 以上の地震発生後は、鋼管杭の支持力不足に起因する変状の発生がないかを確認	

(点検診断の時期)

本施設の点検診断の実施時期の見込みは以下のとおりとする。

年度	内 容	備 考	年度	内 容	備 考
2026	定期点検診断	一般	2051	定期点検診断	一般
2027			2052		
2028			2053		
2029	定期点検診断	一般（強化）	2054	定期点検診断	一般（強化）
2030			2055		
2031	定期点検診断	一般	2056	定期点検診断	一般
2032			2057		
2033			2058		
2034	定期点検診断	一般（強化）	2059	定期点検診断	一般（強化）
2035			2060		
2036	定期点検診断	一般	2061	定期点検診断	一般
2037			2062		
2038			2063		
2039	定期点検診断	一般（強化）	2064	定期点検診断	一般（強化）
2040			2065		
2041	定期点検診断	一般	2066	定期点検診断	一般
2042			2067		
2043			2068		
2044	定期点検診断	一般（強化）	2069	定期点検診断	一般（強化）
2045			2070		
2046	定期点検診断	一般	2071	定期点検診断	一般・詳細
2047			2072		
2048			2073		
2049	定期点検診断	一般（強化）	2074	定期点検診断	一般（強化）
2050			2075		

(点検診断項目及び点検診断方法)

部 材 名 称	点検診断項目	点検の種類	点検診断方法
係船岸全体 (岸壁法線)	凹凸、出入り (点検強化対象)	一般	点検診断ガイドラインによるほか、以下の方法により行う。 ・＊＊システムを活用（凹凸、出入りに関する高精度な点検が可能な新技術） ・移動量・沈下量を定量的に、または写真等で記録
	移動量、傾斜量、沈下量 (点検強化対象)	詳細	
エプロン	沈下、陥没 (点検強化対象)	一般	点検診断ガイドラインによるほか、以下の方法により行う。 ・＊＊システムを活用（沈下、陥没に関する高精度な点検が可能な新技術） ・沈下、陥没の程度を定量的に、または写真等で記録
	アスファルトの劣化、損傷	一般	点検診断ガイドラインによる
	吸出し、空洞化	詳細	点検診断ガイドラインによる
鋼管矢板	鋼材の腐食、亀裂、損傷	一般	点検診断ガイドラインによる
		詳細	点検診断ガイドラインによる
	肉厚測定	詳細	点検診断ガイドラインによる
鋼管矢板 (被覆防食工)	被覆防食工 (ペトロラタム被覆) (点検強化対象)	一般	点検診断ガイドラインによるほか、以下の方法により行う。 ・＊＊システムを活用（被覆防食の劣化に関する高精度な点検が可能な新技術） ・被覆の劣化を定量的に、または写真等で記録
		詳細	点検診断ガイドラインによる
鋼管矢板 (電気防食工)	電位測定	一般	点検診断ガイドラインによる
	陽極、電位	詳細	点検診断ガイドラインによる

部 材 名 称		点検診断項目	点検の種類	点検診断方法
上部工		コンクリートの劣化、損傷 (点検強化対象)	一般	点検診断ガイドラインによるほか、以下の方法により行う。 ・＊＊システムを活用（コンクリートの劣化、損傷に関する高精度な点検が可能な新技術） ・以下について定量的に、または写真等で記録 ・ひび割れの発生方向 ・ひび割れの本数、長さと幅 ・かぶりの剥落状況 ・錆汁の発生状況
海底地盤		洗掘、堆積 (点検強化対象)	詳細	点検診断ガイドラインによるほか、以下の方法により行う。 ・＊＊システムを活用（洗掘、堆積に関して容易に点検が可能な新技術）
附帯設備	係船柱	本体の劣化、損傷、塗装のはがれ等の状態	日常	点検診断ガイドラインによる
	防衝設備	本体の損傷、破損、取付金具の腐食等の状態	日常	点検診断ガイドラインによる
	車止め	本体の損傷、塗装、腐食	日常	点検診断ガイドラインによる
	排水設備	排水設備の破損、グレーチングの変形、腐食	日常	点検診断ガイドラインによる
	はしご	本体の損傷、塗装、腐食	日常	点検診断ガイドラインによる

III 総合評価

総合評価においては、点検診断結果に基づき、施設の変状に対する工学的知見・判断に基づく評価及び計画的かつ適切な維持工事等に向けた現場的行政的判断に基づく評価を行い、今後の施設の維持管理に関する方針を定める。

なお、総合評価結果は参考資料として添付する。

IV 維持補修計画

本施設の維持補修計画は、以下のとおりとする。

通番	項 目	内 容	備 考
1	維持補修概要	犠牲陽極交換	
	実施時期	* * * * 年度	
	概算費用	*, * * * 千円	
	維持補修概要		
	実施時期		
	概算費用		

V 参考資料

参考資料は、以下の資料を添付する。

- ① 関連図面
- ② 設計計算書
- ③ 利用実績
- ④ 座標系及び位置座標
- ⑤ 点検診断結果
- ⑥ 総合評価結果

参考資料①

関連図面

位置図

平面図

標準断面図

参考資料②

設計計算書

本施設に関する設計計算書より、主な維持管理に関連する主な設計条件を以下に抜粋する。

(設計条件 (抜粋))

項 目			内 容	備 考
計画条件等	要求性能	永続作用	使用性	
		変動作用	使用性	
		偶発作用	－	
利用条件等	設計供用期間		50 年	
	計画延長		***.**(m)	
	計画天端高		D.L+*.**(m)	
	計画水深		D.L-*.**(m)	
	設計水深		D.L-*.**(m)	
	基本水準面		D.L±*.**(m)	
	エプロン復員		*.**(m)	
	エプロン勾配		*.*(%)(順勾配)	
	対象船舶		**,*** (DWT)	
	対象船舶の接岸条件		接岸速度 **.**(cm/sec)	
	牽引力		*,*** (kN)	
	載荷重		永続作用 **.**(kN/m ²) 変動作用 **.**(kN/m ²)	
自然条件等	潮位条件	H.W.L	D.L+*.**(m)	
		M.S.L	D.L+*.**(m)	
		L.W.L	D.L+*.**(m)	
	残留水位条件		D.L+*.**(m)	
	地震条件		・レベル 1 地震動 kh = *.**	
気候変動の 影響を勘案した 潮位	将来作用基準年		***	
	2℃上昇 シナリオ	H.W.L	D.L+*.**(m)	
		M.S.L	D.L+*.**(m)	
		L.W.L	D.L+*.**(m)	
	4℃上昇 シナリオ	H.W.L	D.L+*.**(m)	
		M.S.L	D.L+*.**(m)	
		L.W.L	D.L+*.**(m)	

項 目			内 容	備 考
材料特性	下部工	鋼材	SY***, **型, *** mm	
		被覆防食工	重防食：期待耐用年数**年	
		電気防食工	流電陽極方式：防食年数**年	
	上部工	コンクリート	***-**-**N	
		鉄筋	SD***	
	控え工	控え索	高張力鋼NHT**、φ*、L**	
	舗装	アスファルト舗装	As**	
	附帯設備	係船柱	曲柱*,***KN ****	
		防衝設備	***製 **型 ***H	
		車止め	***製 ***H 型	
		はしご	***製 **B × ***H	

参考資料③

利用実績

(利用実績)

年	取扱貨物量	主要取扱貨物			備考
		1 位	2 位	3 位	
2026					
2027					
2028					
2029					
2030					
2031					
2032					
2033					
2034					
2035					
2036					
2037					
2038					
2039					
2040					
2041					
2042					
2043					
2044					
2045					
2046					
2047					
2048					
2049					
2050					
・ ・ ・					
2075					

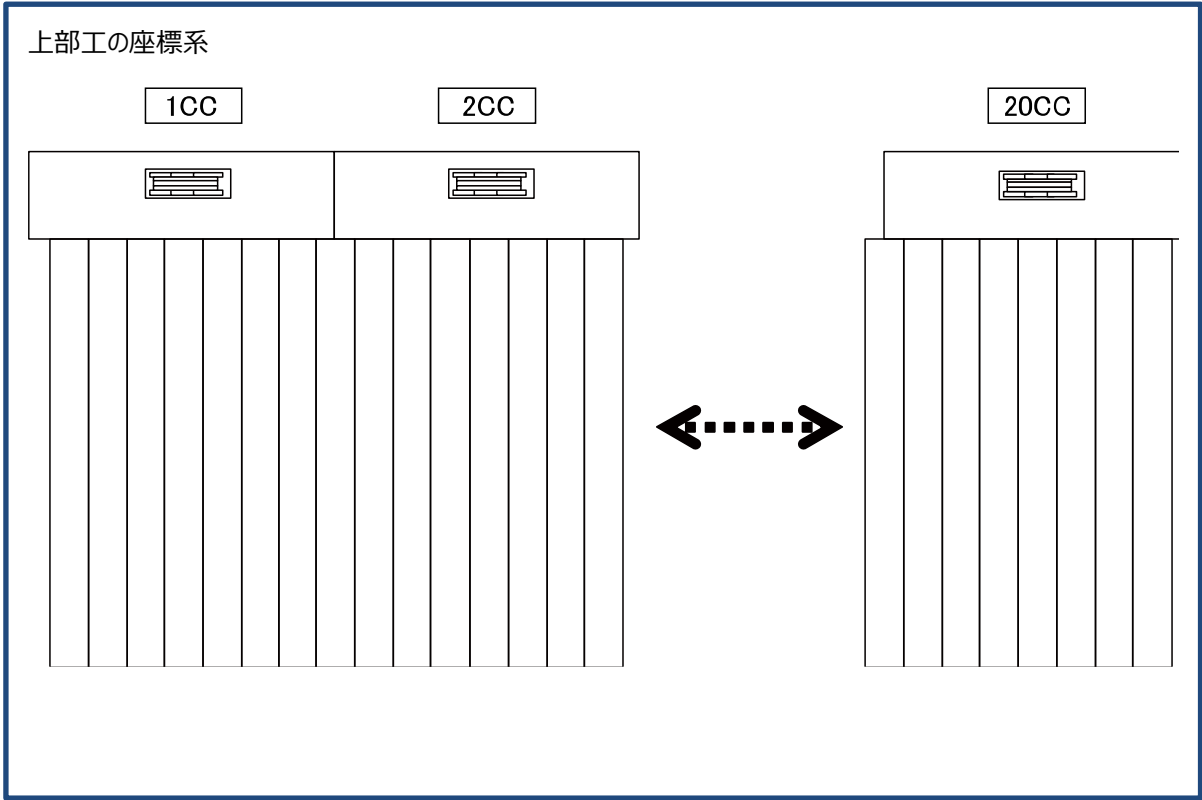
参考資料④

座標系及び位置座標

(座標系記号)

通番	名称	記号	用語
1	上部工	CC	Concrete crown

(座標系)



(位置座標)

本施設の位置座標（X 座標、Y 座標、Z 座標）は必要に応じて設定する。

参考資料⑤

点検診断結果

初回点検診断結果

一般定期点検診断結果

⋮

供用期間を延長する際の点検診断結果（一般・詳細）

参考資料⑥

総合評価結果

総合評価結果（2021 年点検診断時）

部材		維持管理 レベル	点検診断			①工学的知見・判断 に基づく評価	②現場的・行政的判断 に基づく評価	③施設の維持管理 に関する方針	総合評価の概要	
			点検診断の項目	点検診断結果の概要	性能低下度					
					点検診断 項目					施設 全体
係船岸全体（岸壁法線）		Ⅲ	凹凸、出入り	□ブロックに隣接する上部工との間に 10cm 未満の凹凸がある。	C	C	（将来計画の評価） ・供用期間の延長 （維持工事等の計画） ・軽微な補修 （利用面、財政面、代替案） ・施設の重要度は高い （応急的措置の必要性） ・不要 （計画的措置の必要性） － （点検診断計画変更の必要性） ・供用期間延長後においても十分な配慮が必要な部材については点検を実施 ・設計供用期間末までに詳細点検診断を実施	□緊急的措置 □応急的措置 □計画的措置 ■経過観察措置	本施設は、近隣に代替施設がなく重要度が高いため、供用期間を延長するが、当初設計時の要求性能と現行技術基準に基づく要求性能との間で生じる水準の差の有無が判断できないため、維持管理での十分な配慮を行うことで供用を継続する。 施設の性能低下はほとんど認められないため、日常点検・一般定期点検診断を強化しつつ経過観察措置とする。	
			移動量、傾斜量、沈下量	変状なし	D					
エプロン		Ⅲ	沈下、陥没	□ブロックのエプロンに 3 c m 未満の段差がある。	C					
			コンクリートの劣化、損傷	変状なし	D					
			吸い出し、空洞化	変状なし	D					
鋼管矢板		Ⅰ	鋼材の腐食、亀裂、損傷	変状なし	D					
			肉厚測定	変状なし	D					
鋼管矢板（被覆防食工）		Ⅱ	被覆防食工（ペトロラム被覆）	▽番の引く夫防食工のボルト、ナット等にゆるみがある。	C					
鋼管矢板（電気防食工）		Ⅱ	電位測定	防食管理電位が維持されている。（950mV）	D					
		Ⅱ	陽極、電位	変状なし	D					
上部工		Ⅲ	洗掘、堆積	変状なし	D					
海底地盤		Ⅲ	洗掘、堆積	変状なし	D					
附帯設備	係船柱	Ⅲ	本体の劣化、損傷、塗装の剥がれ等の状態	△番の係船柱の塗装がはがれている。	C					
	防衛設備	Ⅲ	本体の損傷、破損、取付金具の腐食等の状態	□番の取付金具に発錆がある。	C					
	車止め	Ⅲ	本体の損傷、塗装、腐食	▽番の車止めが変形している箇所がある。	C					
	排水設備	Ⅲ	排水設備の破損、グレーチングの変形、腐食	変状なし	D					
	はしご	Ⅲ	本体の損傷、塗装、腐食	変状なし	D					

維持管理計画書作成事例
(B) 供用期間を延長する場合
No.12 ケーソン式防波堤

＊ ＊ 港 ＊ ＊ 地区 ＊ ＊ 防波堤

維持管理計画書

項 目	内 容	備 考
港 格	重要港湾	
港 湾 名	＊ ＊ 港	
地 区 名	＊ ＊ 地区	
施 設 名	＊ ＊ 防波堤	
施 設 番 号	B - ＊ - ＊	

2026 年 4 月

施設設置者 国土交通省

施設管理者 ＊ ＊ 県

目 次

I	総論	1
I-1	計画の目標.....	1
I-2	維持管理の基本的な考え方.....	1
I-3	施設に関連する計画.....	1
I-4	維持管理上の諸条件	2
I-5	付随する施設との関連性.....	5
I-6	維持管理レベル.....	5
I-7	座標系、位置座標の設定	5
I-8	供用期間を延長する際の点検診断結果	5
I-9	その他の配慮事項	6
II	点検診断計画.....	6
III	総合評価	9
IV	維持補修計画.....	9
V	参考資料	10

I 総論

I-1 計画の目標

本施設を維持管理する計画の目標は、以下のとおりとする。

項 目	内 容	備 考
維持管理の計画目標期間	2026～2075 年度	供用期間延長
設計供用期間	50 年	

I-2 維持管理の基本的な考え方

本施設をどのような方針で維持管理していくかの基本的な考え方は、以下のとおりとする。

項 目	内 容	備 考
維持管理の基本的な考え方	各部材の維持管理レベルに応じた対応により維持管理を行う。 供用期間の延長に伴い、点検診断を強化する。	
気候変動適応の 考え方	適応策	順応適応策
	適応の概要	2℃上昇シナリオへ対応
通常・重点点検診断施設の設定	通常点検診断施設	

I-3 施設に関連する計画

本施設に関連する計画は、以下のとおりである。

項 目	内 容	備 考
本施設の 港湾計画 への位置づけ	計画策定（位置づけ）年	＊ ＊ ＊ ＊ 年
	将来計画	予定なし（現状を維持）
予防保全計画における措置の優先度	－（経過観察措置）	
大規模地震対策推進地域等の位置づけ	有	
協働防護計画への位置づけ	有	

I-4 維持管理上の諸条件

本施設の維持管理計画に資する諸条件は、以下のとおりである。

なお、標準断面図、平面図等の関連図面は、参考資料として添付する。

(施設の情報)

項 目	内 容	備 考
港格	重要港湾	
港湾名	* * 港	
地区名	* * 地区	
施設名	* * 防波堤	
施設番号	B - * - *	
施設設置者	国土交通省	
施設管理者	* * 県	

(構造形式)

項 目	内 容	備 考
施設の分類	外郭施設 防波堤	
構造形式	ケーソン式防波堤	
延長	* * . * m	
天端高	D.L. + * * . * m	

(自然条件)

設計条件に関する項目		内 容	備 考
潮位	基本水準面	D.L±*.**(m)	維持管理 計画書 作成時点
	H.W.L.	D.L±*.**(m)	
	L.W.L.	D.L±*.**(m)	
	R.W.L.	D.L±*.**(m)	

(気候変動の影響を勘案した自然条件)

設計条件に関する項目			内容	備考
気候変動の影響を 勘案した潮位	将来作用基準年		2075 年	将来作用基準 年時点
	2℃上昇 シナリオ	H.W.L.	D.L±*.**(m)	
		L.W.L.	D.L±*.**(m)	
		R.W.L.	D.L±*.**(m)	
	4℃上昇 シナリオ	H.W.L.	D.L±*.**(m)	
		L.W.L.	D.L±*.**(m)	
		R.W.L.	D.L±*.**(m)	

(設計履歴)

本施設の設計の履歴は、以下のとおりである。

なお、主な設計条件は参考資料として添付する。

通番	項 目	内 容	備 考
1	件名	****土質調査	
	適用基準		
	完了年度	****年度	
	受注者	***コンサルタント	
2	件名	****基本設計	
	適用基準	港湾の施設の技術上の基準・同解説(****年度版)	
	完了年度	****年度	
	受注者	***コンサルタント	
3	件名	****細部設計	
	適用基準	港湾の施設の技術上の基準・同解説(****年度版)	
	完了年度	****年度	
	受注者	***コンサルタント	
4	件名	****補修設計	
	適用基準	港湾の施設の技術上の基準・同解説(****年度版)	
	完了年度	****年度	
	受注者	***コンサルタント	
5	件名		
	適用基準		
	完了年度		
	受注者		

(施工・補修履歴)

通番	項 目	内 容	備 考
1	件名	***岸壁築造工事	
	完了年度	****年度	
	施工者	***建設・***工業 JV	
2	件名	***被覆防食工補修工事	
	完了年度	****年度	
	施工者	***建設	
3	件名	***電気防食工補修工事	
	完了年度	****年度	
	施工者	***建設	
4	件名	***エプロン補修工事	
	完了年度	****年度	
	施工者	***建設	
5	件名	***附帯設備補修工事	
	完了年度	****年度	
	施工者	***建設	
6	件名	***上部工補修工事	
	完了年度	****年度	
	施工者	***建設	
	件名		
	完了年度		
	施工者		

(材料特性)

本施設の主な材料特性は以下のとおりである。

なお、詳細な材料特性については、〇〇に保管されている工事完成図書等による。

通番	項 目	内 容	備 考
1	コンクリート	* * - * - * * N	
2	鉄筋	SD * * *	
3	ケーソン中詰砂	転用材 * * ~ * * * kg/個程度	
4	消波ブロック	* * トン	
5	マウンド材	転用材 * * ~ * * * kg/個程度	
6	被覆材	転用材 * * ~ * * * kg/個程度	
7	根固材	転用材 * * ~ * * * kg/個程度	

I-5 付随する施設との関連性

該当なし

I-6 維持管理レベル

本施設の各部材の維持管理レベルは、以下のとおりとする。

部 材 名 称	維持管理レベル	性能低下度	維持管理方針の目安
防波堤全体	Ⅲ	A	緊急的措置並びに応急的措置
		B	経過観察措置
		C	
		D	
ケーソン	Ⅰ (事前対策型)	A	－
		B	緊急的措置並びに応急的措置
		C	計画的措置
		D	経過観察措置
上部工 消波工 海底地盤 被覆工 根固工	Ⅲ (事後保全型)	A	緊急的措置並びに応急的措置
		B	経過観察措置
		C	
		D	

I-7 座標系、位置座標の設定

本施設の維持管理に有用な、座標系（ブロック番号、部材番号等）及び位置座標（X座標、Y座標、Z座標）は、参考資料として添付する。

I-8 供用期間を延長する際の点検診断結果

本施設の供用期間を延長する際の点検診断の実績は以下のとおりである。

なお、点検診断結果は、参考資料として添付する。

項 目	時 期	備 考
供用期間を延長する際の点検診断	2021 年度	一般・詳細

I-9 その他の配慮事項

項 目	内 容	備 考
代替施設の有無	無	
補修の優先度を考慮する上での配慮事項	(自由記入)	

II 点検診断計画

本施設の点検診断の頻度及び実施条件、定期点検診断の時期並びに点検診断項目及び点検診断方法は以下のとおりとする。

(点検診断の頻度及び実施条件)

項 目	内 容	備 考
定期点検 診断	一般定期点検診断	5 年以内ごとに少なくとも 1 回（点検強化対象の点検診断項目については 5 年以内に少なくとも 2 回）
	詳細定期点検診断	供用期間中に少なくとも 1 回
臨時点検 診断	一般臨時点検診断	日常点検において特段の異常が確認された場合及び震度 5 強以上の地震が発生した場合
	詳細臨時点検診断	一般定期点検診断又は一般臨時点検診断の結果、詳細点検診断が必要と判断された場合
日常点検		バース会議を活用し、定期的に利用上の支障に関するヒアリングを実施
		点検強化対象の点検診断項目については定期点検診断を行わない年度において、少なくとも 1 回
		震度 4 以上の地震発生後は、鋼管杭の支持力不足に起因する変状の発生がないかを確認

(定期点検診断の時期)

本施設の定期点検診断の実施時期の見込みは以下のとおりとする。

年度	内 容	備 考	年度	内 容	備 考
2026	定期点検診断	一般	2051	定期点検診断	一般
2027			2052		
2028			2053		
2029	定期点検診断	一般（強化）	2054	定期点検診断	一般（強化）
2030			2055		
2031	定期点検診断	一般	2056	定期点検診断	一般
2032			2057		
2033			2058		
2034	定期点検診断	一般（強化）	2059	定期点検診断	一般（強化）
2035			2060		
2036	定期点検診断	一般	2061	定期点検診断	一般
2037			2062		
2038			2063		
2039	定期点検診断	一般（強化）	2064	定期点検診断	一般（強化）
2040			2065		
2041	定期点検診断	一般	2066	定期点検診断	一般
2042			2067		
2043			2068		
2044	定期点検診断	一般（強化）	2069	定期点検診断	一般（強化）
2045			2070		
2046	定期点検診断	一般	2071	定期点検診断	一般
2047			2072		
2048			2073		
2049	定期点検診断	一般（強化）	2074	一般定期点検診断	一般（強化）
2050			2075		

(点検診断項目及び点検診断方法)

部 材 名 称	点検診断項目	点検の種類	点検診断方法
防波堤全体	移動 (点検強化対象)	一般	点検診断ガイドラインによるほか、以下の方法により行う。 * * システム (凹凸、出入りに関する高精度な点検が可能な新技術) 目視 ・水平移動量 (定量的または写真等で記録)
	沈下	一般	点検診断ガイドラインによる
ケーソン	コンクリートの劣化、損傷 (点検強化対象)	一般	点検診断ガイドラインによるほか、以下の方法により行う。 * * システム (劣化、損傷に関する高精度な点検が可能な新技術) 目視 ・ひび割れ、剥離、損傷、欠損 ・鉄筋露出 ・劣化の兆候 等
		詳細	点検診断ガイドラインによる
	ケーソンの空洞化	詳細	点検診断ガイドラインによる
上部工	コンクリートの劣化、損傷 (点検強化対象)	一般	点検診断ガイドラインによるほか、以下の方法により行う。 * * システム (劣化、損傷に関する高精度な点検が可能な新技術) 目視 ・ひび割れ、損傷、欠損 (定量的または写真等で記録) ・劣化の兆候 等
消波工	移動、散乱、沈下 (点検強化対象)	一般	点検診断ガイドラインによるほか、以下の方法により行う。 * * システム (移動、散乱、沈下に関する高精度な点検が可能な新技術) 目視 ・消波工の天端、法面、法肩等の変形 ・消波ブロックの移動や散乱
	損傷、欠損	一般	点検診断ガイドラインによる
	移動、散乱、沈下	詳細	点検診断ガイドラインによる

部 材 名 称	点検診断項目	点検 の種類	点検診断方法
海底地盤	洗掘、堆積 (点検強化対象)	詳細	点検診断ガイドラインによるほか、以下の方法により行う。 * * システム（洗掘、堆積に関して容易に点検が可能な新技術）
被覆工	移動、散乱、沈下	詳細	点検診断ガイドラインによる
根固工	移動、散乱、沈下	詳細	点検診断ガイドラインによる

III 総合評価

総合評価においては、点検診断結果に基づき、施設の変状に対する工学的知見・判断に基づく評価及び計画的かつ適切な維持工事等に向けた現場的行政的判断に基づく評価を行い、今後の施設の維持管理に関する方針を定める。

なお、総合評価結果は参考資料として添付する。

IV 維持補修計画

本施設の維持補修計画は、以下のとおりとする。

通番	項 目	内 容	備 考
1	維持補修概要		
	実施時期		
	概算費用		
	維持補修概要		
	実施時期		
	概算費用		

V 参考資料

参考資料は、以下の資料を添付する。

- ① 関連図面
- ② 設計計算書
- ③ 座標系及び位置座標
- ④ 点検診断結果
- ⑤ 総合評価結果

参考資料①

関連図面

位置図

平面図

標準断面図

参考資料②

設計計算書

本施設に関する設計計算書より、主な維持管理に関連する主な設計条件を以下に抜粋する。

(設計条件 (抜粋))

項 目			内 容	備 考
【計画条件等】	要求性能	永続作用	使用性	
		変動作用	使用性	
		偶発作用	－	
【利用条件等】	設計供用期間		50 年	
	計画延長		***.**(m)	
	計画天端高		D.L+*.**(m)	
	計画水深		D.L-*.**(m)	
	設計水深		D.L-*.**(m)	
	基本水準面		D.L±*.**(m)	
【自然条件等】	潮位条件	H.W.L	D.L+*.**(m)	
		M.S.L	D.L+*.**(m)	
		L.W.L	D.L+*.**(m)	
	波浪条件		$H_{(1/3)}$ *.**(m)	
	地震条件		レベル 1 地震動 kh = *.**	
【気候変動の影響を勘案した潮位】	将来作用基準年		****年	
	2℃上昇シナリオ	H.W.L	D.L+*.**(m)	
		M.S.L	D.L+*.**(m)	
		L.W.L	D.L+*.**(m)	
	4℃上昇シナリオ	H.W.L	D.L+*.**(m)	
		M.S.L	D.L+*.**(m)	
		L.W.L	D.L+*.**(m)	
材料特性	本体工	コンクリート	* * - * - * * N	
		鉄筋	SD * * *	
	上部工	コンクリート	* * - * - * * N	
		鉄筋	SD * * *	
	消波工	消波ブロック	* * トン	
	マウンド工	マウンド材	転用材 * * ～ * * * kg/個程度	
	被覆工	被覆材	転用材 * * ～ * * * kg/個程度	
	根固工	根固材	転用材 * * ～ * * * kg/個程度	

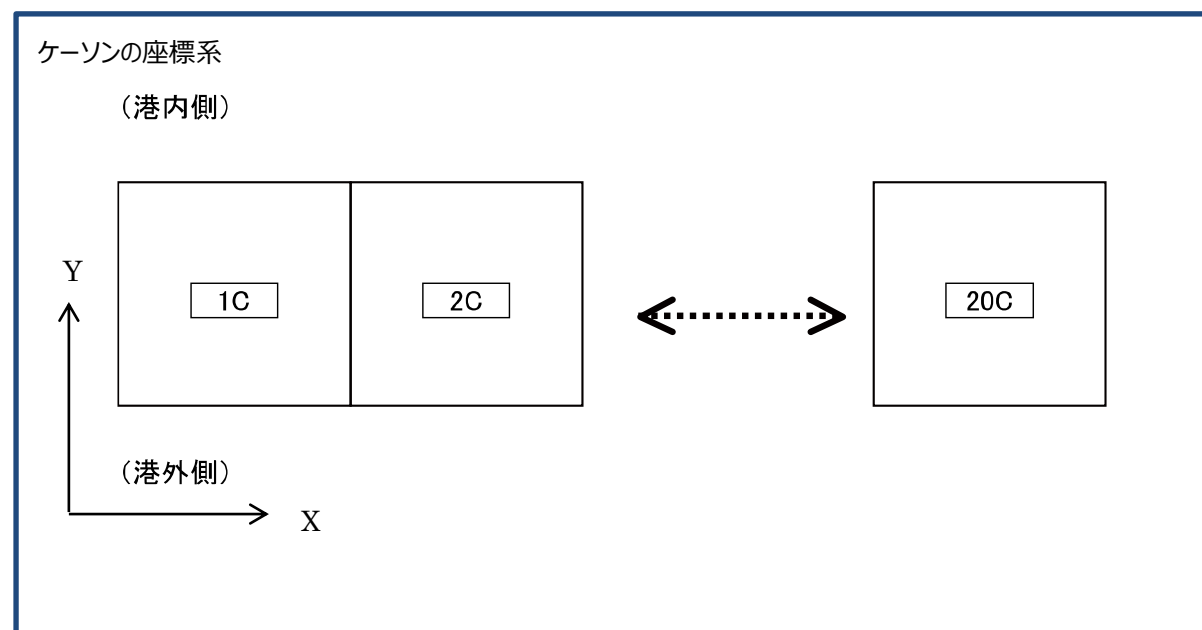
参考資料③

座標系及び位置座標

(座標系記号)

通番	名称	記号	用語
1	ケーソン	C	Caisson

(座標系)



(位置座標)

本施設の位置座標（X 座標、Y 座標、Z 座標）は必要に応じて設定する。

参考資料⑤

点検診断結果

初回点検診断結果

一般定期点検診断結果

⋮

供用期間を延長する際の点検診断結果（一般・詳細）

参考資料⑤

総合評価結果

総合評価結果（2021 年点検診断時）

部材	維持管理 レベル	点検診断				①工学的知見・判断 に基づく評価	②現場的・行政的判断 に基づく評価	③施設の維持管理 に関する方針	総合評価の概要
		点検診断の項目	点検診断結果の概要	性能低下度					
				点検診断 項目	施設 全体				
防波堤全体	Ⅲ	移動	□ブロックと△ブロックとの間に小規模なずれがある。	C	C	(緊急的措置の必要性) ・不要 (補修の必要性) ・不要	(将来計画の評価) ・供用期間の延長 (維持工事等の計画) ・軽微な補修 (利用面、財政面、代替案) ・施設の重要度は中程度 (応急的措置の必要性) ・ 不要 (計画的措置の必要性) － (点検診断計画変更の必要性) ・供用期間延長後においても十分な配慮が必要な部材については点検を実施 ・設計供用期間末までに詳細点検診断を実施	□緊急的措置 □応急的措置 □計画的措置 ■経過観察措置	本施設は近隣に代替施設がなく、重要度が高いため、供用期間を延長するが、当初設計の要求性能と現行技術基準に基づく要求性能との間で生じる水準の差の有無が判断できないため、維持管理での十分な配慮を行うことで供用を継続する。 施設の性能の低下はほとんど認められない状態であるため、日常点検・一般定期点検診断を強化しつつ経過観察措置とする。
	Ⅲ	沈下	変状なし	D					
ケーソン	Ⅰ	コンクリートの劣化、損傷（目視）	○ブロックのケーソンにおいて1方向に幅3mm程度のひび割れがある。	C					
		コンクリートの劣化、損傷（潜水）	○ブロックのケーソンにおいて1方向に幅3mm程度のひび割れがある。	C					
		ケーソンの空洞化	変状なし	D					
上部工	Ⅲ	コンクリートの劣化、損傷	◇ブロックの上部工において幅1mm未満のひび割れがある。	C					
消波工	Ⅲ	移動、散乱、沈下	△ブロックの消波ブロックの一部が移動(散乱・沈下)している。	C					
		損傷、欠損	□ブロックにおいて部分的な変状があるブロックが複数個ある。	C					
		移動、散乱、沈下	変状なし	D					
海底地盤	Ⅲ	洗掘、堆積	変状なし	D					
被覆工	Ⅲ	移動、散乱、沈下	変状なし	D					
根固工	Ⅲ	移動、散乱、沈下	変状なし	D					

維持管理計画書作成事例
(C) 用途変更をする場合
No.13 矢板式係船岸を護岸へ変更

＊ ＊ 港 ＊ ＊ 地区 ＊ ＊ 護岸

維持管理計画書

項 目	内 容	備 考
港 格	重要港湾	
港 湾 名	＊ ＊ 港	
地 区 名	＊ ＊ 地区	
施 設 名	＊ ＊ 護岸	
施 設 番 号	B - ＊ - ＊	

2026 年 4 月

施設設置者 国土交通省

施設管理者 ＊ ＊ 県

目 次

I	総論	1
I-1	計画の目標.....	1
I-2	維持管理の基本的な考え方.....	1
I-3	施設に関連する計画.....	1
I-4	維持管理上の諸条件	2
I-5	付随する施設との関連性.....	5
I-6	維持管理レベル.....	5
I-7	座標系、位置座標の設定	6
I-8	初回点検診断結果	6
I-9	その他の配慮事項	6
II	点検診断計画.....	7
III	総合評価.....	8
IV	維持補修計画.....	8
V	参考資料.....	9

I 総論

I-1 計画の目標

本施設を維持管理する計画の目標は、以下のとおりとする。

項 目	内 容	備 考
維持管理の計画目標期間	2026～2075 年度	用途変更
設計供用期間	50 年	

I-2 維持管理の基本的な考え方

本施設をどのような方針で維持管理していくかの基本的な考え方は、以下のとおりとする。

用途変更に伴って、
マーカ部を追記

項 目	内 容	備 考
維持管理の基本的な考え方	岸壁から護岸に用途を変更した。 各部材の維持管理レベルに応じた対応により 維持管理を行う。	
気候変動適応の 考え方	適応策	順応適応策
	適応の概要	2℃上昇シナリオへ対応
通常・重点点検診断施設の設定	通常点検診断施設	

I-3 施設に関連する計画

本施設に関連する計画は、以下のとおりである。

用途変更に伴って、
マーカ部を追記

項 目	内 容	備 考
本施設の 港湾計画 への位置づけ	計画策定（位置づけ）年	****年
	将来計画	なし（現状を維持）
予防保全計画における措置の優先度	－（経過観察措置）	
大規模地震対策推進地域等の位置づけ	有	
協働防護計画への位置づけ	有	

I-4 維持管理上の諸条件

本施設の維持管理計画に資する諸条件は、以下のとおりである。

なお、標準断面図、平面図等の関連図面は参考資料として添付する。

(施設の情報)

項 目	内 容	備 考
港格	重要港湾	
港湾名	* * 港	
地区名	* * 地区	
施設名	* * 護岸	用途変更後
施設番号	B - * - *	用途変更後
施設設置者	国土交通省	
施設管理者	* * 県	

(構造形式)

項 目	内 容	備 考
施設の分類	外郭施設 護岸	用途変更後
構造形式	矢板式護岸	
延長	* * . * m	
天端高	D.L. + * * . * m	

(自然条件)

設計条件に関する項目		内 容	備 考
潮位	基本水準面	D.L±*.**(m)	維持管理 計画書作成 時点
	H.W.L.	D.L+*.**(m)	
	M.S.L.	D.L+*.**(m)	
	L.W.L.	D.L+*.**(m)	

(気候変動の影響を勘案した自然条件)

項 目			内 容	備 考
気候変動の影響を 勘案した潮位	将来作用基準年		2075 年	将来作用 基準年時点
	2℃上昇 シナリオ	H.W.L.	D.L+*.**(m)	
		M.S.L.	D.L+*.**(m)	
		L.W.L.	D.L+*.**(m)	
	4℃上昇 シナリオ	H.W.L.	D.L+*.**(m)	
		M.S.L.	D.L+*.**(m)	
		L.W.L.	D.L+*.**(m)	

(設計履歴)

本施設の設計の履歴は、以下のとおりである。

なお、主な設計条件は参考資料として添付する。

通番	項 目	内 容	備 考
1	件名	****土質調査	
	適用基準		
	完了年度	****年度	
	受注者	***コンサルタント	
2	件名	****基本設計	
	適用基準	港湾の施設の技術上の基準・同解説(****年度版)	
	完了年度	****年度	
	受注者	***コンサルタント	
3	件名	****細部設計	
	適用基準	港湾の施設の技術上の基準・同解説(****年度版)	
	完了年度	****年度	
	受注者	***コンサルタント	
4	件名	****港湾計画変更検討	岸壁から護岸へ変更
	適用基準	港湾の施設の技術上の基準・同解説(****年度版)	
	完了年度	****年度	
	受注者	***コンサルタント	
	件名		
	適用基準		
	完了年度		
	受注者		

(施工・補修履歴)

通番	項 目	内 容	備 考
1	件名	***岸壁築造工事	
	完了年度	****年度	
	施工者	***建設・***工業JV	
2	件名	***被覆防食工補修工事	
	完了年度	****年度	
	施工者	***建設	
3	件名	***電気防食工補修工事	
	完了年度	****年度	
	施工者	***建設	
5	件名	***附帯設備補修工事	
	完了年度	****年度	
	施工者	***建設	
6	件名	***岸壁付帯設備撤去工事	
	完了年度	****年度	
	施工者	***建設	
7	件名	***護岸水叩き部新設工事	
	完了年度	****年度	
	施工者	***建設	
	件名		
	完了年度		
	施工者		

(材料特性)

本施設の主な材料特性は以下のとおりである。

なお、詳細な材料特性については、〇〇に保管されている工事完成図書等による。

通番	項 目	内 容	備 考
1	鋼矢板	SY***, **型, ***mm	
2	被覆防食	重防食：期待耐用年数(**年)	
3	電気防食	流電陽極方式：防食年数**年	
4	コンクリート	***-**-**N	
5	鉄筋	SD***	
6	控え索	高張力鋼NHT**、φ*、L**	
7	水叩きコンクリート	***-**-**N	
8	排水設備	***製 ***H型	

I-5 付随する施設との関連性

本施設に付随する施設との関連性は、以下のとおりである。

(付随する施設)

通番	項 目	内 容	備 考
1	施 設 名		
	施設番号		
2	施 設 名		
	施設番号		
3	施 設 名		
	施設番号		
4	施 設 名		
	施設番号		
	施 設 名		
	施設番号		

I-6 維持管理レベル

本施設の各部材の維持管理レベルは、以下のとおりとする。

部 材 名 称		維持管理レベル	性能低下度	維持管理方針の目安
鋼矢板等		Ⅰ (事前対策型)	A	—
			B	緊急的措置並びに応急的措置
			C	計画的措置
			D	経過観察措置
水叩き 護岸全体 上部工 海底地盤		Ⅲ (事後保全型)	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	経過観察措置
			C	
			D	
鋼矢板等 (被覆防食工) 鋼矢板等 (電気防食工)		Ⅱ (予防保全型)	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	計画的措置
			C	経過観察措置
			D	
附帯設備	排水設備	Ⅲ (事後保全型)	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	経過観察措置
			C	
			D	

I-7 座標系、位置座標の設定

本施設の維持管理に有用な、座標系（ブロック番号、部材番号等）及び位置座標（X座標、Y座標、Z座標）は、参考資料として添付する。

I-8 初回点検診断結果

用途変更する際の点検診断の実績は以下のとおりである。

なお、点検診断結果は、参考資料として添付する。

項 目	時 期	備 考
用途変更する際の点検診断	2023 年度	一般・詳細

I-9 その他の配慮事項

項 目	内 容	備 考
代替施設の有無	無	
補修の優先度を考慮する上での配慮事項	（自由記入）	

II 点検診断計画

本施設の点検診断の頻度及び実施条件、点検診断の時期並びに点検診断項目及び点検診断方法は以下のとおりとする。

(点検診断の頻度及び実施条件)

項 目		内 容	備 考
定期点検 診断	一般定期点検診断	5 年以内ごとに少なくとも 1 回	
	詳細定期点検診断	供用期間中に少なくとも 1 回	
臨時点検 診断	一般臨時点検診断	日常点検において特段の異常が確認された場合及び 震度 5 強以上の地震が発生した場合	
	詳細臨時点検診断	一般定期点検診断又は一般臨時点検診断の結果、 詳細点検診断が必要と判断された場合	

(点検診断の時期)

本施設の点検診断の実績及び実施時期の見込みは以下のとおりとする。

年 度	内 容	備 考	年 度	内 容	備 考
2026			2051		
2027			2052		
2028			2053		
2029			2054		
2030	定期点検診断	一般	2055	定期点検診断	一般
2031			2056		
2032			2057		
2033			2058		
2034			2059		
2035	定期点検診断	一般	2060	定期点検診断	一般
2036			2061		
2037			2062		
2038			2063		
2039			2064		
2040	定期点検診断	一般	2065	定期点検診断	一般
2041			2066		
2042			2067		
2043			2068		
2044			2069		
2045	定期点検診断	一般	2070	定期点検診断	一般
2046			2071		
2047			2072		
2048			2073		
2049			2074		
2050	定期点検診断	一般	2075	定期点検診断	一般・詳細

(点検診断項目及び点検診断方法)

部 材 名 称		点検診断項目	点検の種類	点検診断方法
水叩き		水叩きのひび割れ、損傷	日常	点検診断ガイドラインによる
護岸全体		施設全体の移動	一般	点検診断ガイドラインによる
		施設全体の沈下	一般	点検診断ガイドラインによる
		陥没、吸出し、空洞化	一般	点検診断ガイドラインによる
			詳細	点検診断ガイドラインによる
鋼矢板等		鋼材の腐食、亀裂、損傷	一般	点検診断ガイドラインによる
		肉厚測定	詳細	点検診断ガイドラインによる
鋼矢板等 (被覆防食工)		被覆防食工（重防食被覆）	一般	点検診断ガイドラインによる
			詳細	点検診断ガイドラインによる
鋼矢板等 (電気防食工)		電位測定	一般	点検診断ガイドラインによる
		直流電源及び電気設備	詳細	点検診断ガイドラインによる
上部工		コンクリートの劣化、損傷	一般	点検診断ガイドラインによる
海底地盤		洗掘、堆積	詳細	点検診断ガイドラインによる
附帯 設備	排水設備	排水設備の破損、グレーチングの変形、腐食	日常	点検診断ガイドラインによる

III 総合評価

総合評価においては、点検診断結果に基づき、施設の変状に対する工学的知見・判断に基づく評価及び計画的かつ適切な維持工事等に向けた現場的行政的判断に基づく評価を行い、今後の施設の維持管理に関する方針を定める。

なお、総合評価結果は参考資料として添付する。

IV 維持補修計画

本施設の維持補修計画は、以下のとおりとする。

通番	項 目	内 容	備 考
1	維持補修概要	犠牲陽極交換	
	実施時期	＊ ＊ ＊ 年度	
	概算費用	＊ , ＊ ＊ ＊ 千円	

V 参考資料

参考資料は、以下の資料を添付する。

- ① 関連図面
- ② 設計計算書
- ③ 座標系及び位置座標
- ④ 点検診断結果
- ⑤ 総合評価結果

参考資料①

関連図面

位置図

平面図

標準断面図

参考資料②

設計計算書

本施設に関する設計計算書より、主な維持管理に関連する主な設計条件を以下に抜粋する。

(設計条件 (抜粋))

項 目			内 容	備 考
【計画条件等】	要求性能	永続作用	使用性	
		変動作用	使用性	
		偶発作用	－	
【利用条件等】	設計供用期間		50 年	
	計画延長		***.**(m)	
	計画天端高		D.L+*.**(m)	
	基本水準面		D.L±*.**(m)	
	水叩き幅員		**(m)	
	水叩き勾配		*.%(%) (順勾配)	
【自然条件等】	潮位条件	H.W.L	D.L+*.**(m)	
		M.S.L	D.L+*.**(m)	
		L.W.L	D.L+*.**(m)	
	波浪条件		$H_{(1/3)}$ *.**(m)	
	残留水位条件		D.L+*.**(m)	
	地震条件		・レベル 1 地震動 kh = *.**	
【気候変動の 影響を勘案した 潮位】	将来作用基準年		****年	
	2℃ 上昇シ ナリオ	H.W.L	D.L+*.**(m)	
		M.S.L	D.L+*.**(m)	
		L.W.L	D.L+*.**(m)	
	4℃ 上昇シ ナリオ	H.W.L	D.L+*.**(m)	
		M.S.L	D.L+*.**(m)	
		L.W.L	D.L+*.**(m)	
材料特性	鋼矢板	鋼矢板	SY***, **型, ***mm	
		被覆防食	重防食：期待耐用年数(**年)	
		電気防食	流電陽極方式：防食年数 **年	
	上部工	コンクリート	* *- *- * * N	
		鉄筋	SD***	
	控え工	控え索	高張力鋼 N H T * *, φ *, L * *	
	水叩き	水叩きコンク リート	* *- *- * * N	
	付帯設備	排水設備	***製 ***H 型	

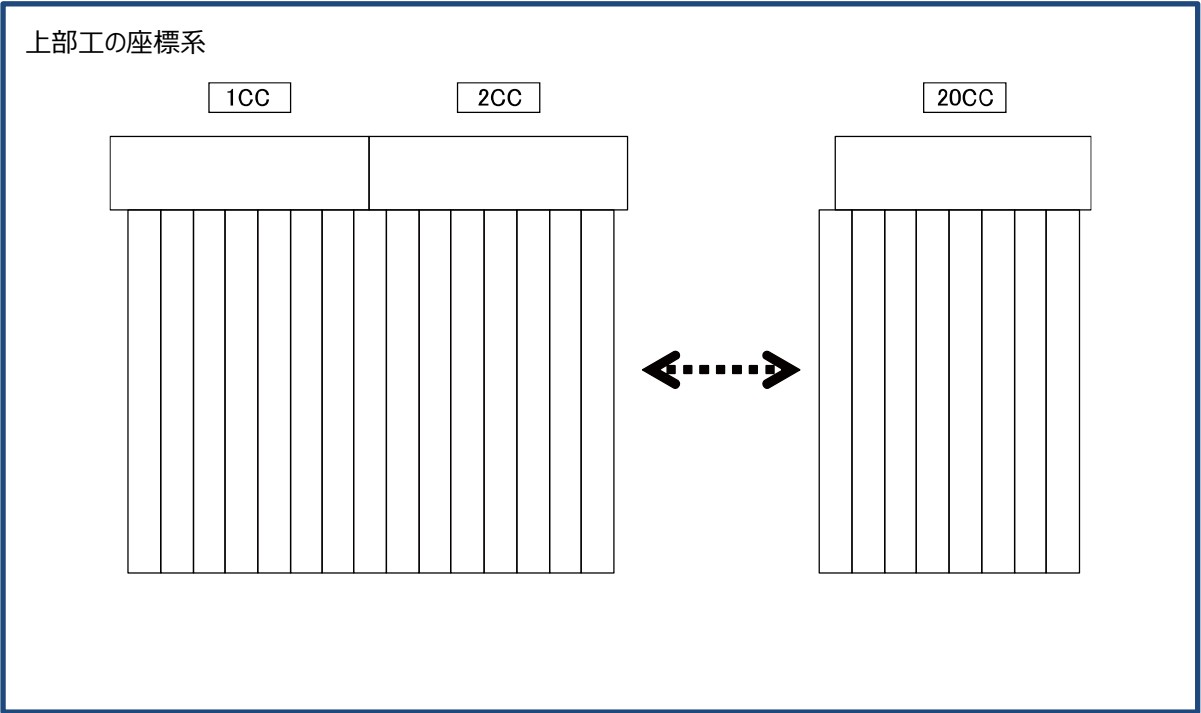
参考資料④

座標系及び位置座標

(座標系記号)

通番	名称	記号	用語
1	上部工	1CC	Concrete crown (Coping concrete)

(座標系)



(位置座標)

本施設の位置座標（X 座標、Y 座標、Z 座標）は必要に応じて設定する。

参考資料⑤

点検診断結果

初回点検診断結果

一般定期点検診断結果

⋮

岸壁から護岸に用途変更する際の点検診断結果(一般・詳細)

用途変更に伴って、
マーカ部を追記

参考資料⑥

総合評価結果

総合評価結果（2025 年点検診断時）

部材		維持管理 レベル	点検診断			①工学的知見・判断 に基づく評価	②現場的・行政的判断 に基づく評価	③施設の維持管理 に関する方針	総合評価の概要	
			点検診断の項目	点検診断結果の概要	性能低下度					
					点検診断 項目					施設 全体
水叩き	Ⅲ	水叩きのひび割れ、損傷	変状なし	D	C	（緊急的措置の必要性） ・不要 （補修の必要性） ・不要	（将来計画の評価） ・用途変更 （維持工事等の計画） ・軽微な補修 （利用面、財政面、代替案） ・施設の重要度は中程度 （応急的措置の必要性） ・不要 （計画的措置の必要性） － （点検診断計画変更の必要性） ・設計供用期間未までに詳細点検診 断を実施	□緊急的措置 □応急的措置 □計画的措置 ■経過観察措置	本施設は港湾機能の再編 に伴って岸壁から護岸に用途 変更を行った施設であり、重 要度の高い護岸である。 2026 年度時、施設の性能 の低下はほとんど認められない 状態であり、次回点検診断ま で適切に日常点検を実施す る経過観察措置とする。	
護岸全体	Ⅲ	施設全体の移動	□ブロックと△ブロックが隣接する スパンとの間に 10cm 未満のず れがある。	C						
		施設全体の沈下	◇ブロックに隣接するスパンとの 間に数 c m 程度の段差がある。	C						
		陥没、吸出し、空洞化	変状なし	D						
鋼矢板等	Ⅰ	鋼材の腐食、亀裂、空洞化 （目視）	変状なし	D						
		鋼材の腐食、亀裂、空洞化 （潜水）	変状なし	D						
		肉厚測定	変状なし	D						
鋼矢板等 （被覆防食工）	Ⅱ	被覆防食工（重防食工） （目視）	◇番の鋼管杭において鋼材まで 達しない被覆の損傷が多くみら れる。	C						
		被覆防食工（重防食工） （潜水）	◇番の鋼管杭において鋼材まで 達しない被覆の損傷が多くみら れる。	C						
鋼矢板等 （電気防食工）	Ⅱ	電位測定	変状なし	D						
		直流電源及び電気設備	変状なし	D						
上部工		Ⅲ	コンクリートの劣化、損傷	変状なし	D					
海底地盤		Ⅲ	洗掘、堆積	変状なし	D					
附帯設備	排水設備	Ⅲ	排水設備の破損、グレーチ ングの変形、腐食	変状なし	D					

維持管理計画書作成事例
(D) 気候変動の影響を勘案して見直す場合
No.14 ケーソン式防波堤

＊ ＊ 港 ＊ ＊ 地区 ＊ ＊ 防波堤

維持管理計画書

項 目	内 容	備 考
港 格	重要港湾	
港 湾 名	＊ ＊ 港	
地 区 名	＊ ＊ 地区	
施 設 名	＊ ＊ 防波堤	
施 設 番 号	B-＊-＊	

2026 年 4 月変更

施設設置者 国土交通省

施設管理者 ＊ ＊ 県

目 次

I	総論	1
I-1	計画の目標.....	1
I-2	維持管理の基本的な考え方.....	1
I-3	施設に関連する計画.....	1
I-4	維持管理上の諸条件	2
I-5	付随する施設との関連性.....	4
I-6	維持管理レベル	5
I-7	座標系、位置座標の設定	5
I-8	初回点検診断結果	5
I-9	その他の配慮事項	5
II	点検診断計画.....	6
III	総合評価	7
IV	維持補修計画.....	7
V	参考資料	8

I 総論**I-1 計画の目標**

本施設を維持管理する計画の目標は、以下のとおりとする。

項 目	内 容	備 考
維持管理の計画目標期間	1996～2045 年度	
設計供用期間	50 年	

I-2 維持管理の基本的な考え方

本施設をどのような方針で維持管理していくかの基本的な考え方は、以下のとおりとする。

項 目	内 容	備 考
維持管理の基本的な考え方	各部材の維持管理レベルに応じた対応により維持管理を行う。	
気候変動適応の考え方	適応策	順応適応策
	適応の概要	2℃上昇シナリオ
通常・重点点検診断施設の設定	通常点検診断施設	

気候変動を勘案した見直しにより
マーカ部を追記

I-3 施設に関連する計画

本施設に関連する計画は、以下のとおりである。

項 目	内 容	備 考
本施設の 港湾計画 への位置づけ	計画策定（位置づけ）年	＊ ＊ ＊ ＊ 年
	将来計画	予定なし（現状を維持）
予防保全計画における措置の優先度	－（経過観察措置）	
大規模地震対策推進地域等の位置づけ	有	
協働防護計画への位置づけ	有	

I-4 維持管理上の諸条件

本施設の維持管理計画に資する諸条件は、以下のとおりである。

なお、標準断面図、平面図等の関連図面は、参考資料として添付する。

(施設の情報)

項 目	内 容	備 考
港格	重要港湾	
港湾名	* * 港	
地区名	* * 地区	
施設名	* * 防波堤	
施設番号	B - * - *	
施設設置者	国土交通省	
施設管理者	* * 県	

(構造形式)

項 目	内 容	備 考
施設の分類	外郭施設 防波堤	
構造形式	ケーソン式防波堤	
延長	* * . * m	
天端高	D.L. + * * . * m	

(自然条件)

設計条件に関する項目		内 容	備 考
潮位	基本水準面	D.L. ± * . ** (m)	維持管理 計画書作成 時点
	H.W.L.	D.L. + * . ** (m)	
	M.S.L.	D.L. + * . ** (m)	
	L.W.L.	D.L. + * . ** (m)	

(気候変動の影響を勘案した潮位)

設計条件に関する項目			内 容	備 考
気候変動の影響を 勘案した潮位	将来作用基準年		2045 年	将来作用 基準年時点
	2℃上昇 シナリオ	H.W.L.	D.L. + * . ** (m)	
		M.S.L.	D.L. + * . ** (m)	
		L.W.L.	D.L. + * . ** (m)	
	4℃上昇 シナリオ	H.W.L.	D.L. + * . ** (m)	
		M.S.L.	D.L. + * . ** (m)	
		L.W.L.	D.L. + * . ** (m)	

気候変動を勘案した見直しにより
マーカ部を追記

(設計履歴)

本施設の設計の履歴は、以下のとおりである。

なお、主な設計条件は参考資料として添付する。

通番	項 目	内 容	備 考
1	件名	****土質調査	
	適用基準		
	完了年度	****年度	
	受注者	***コンサルタント	
2	件名	****基本設計	
	適用基準	港湾の施設の技術上の基準・同解説（** **年度版）	
	完了年度	****年度	
	受注者	***コンサルタント	
3	件名	****細部設計	
	適用基準	港湾の施設の技術上の基準・同解説（** **年度版）	
	完了年度	****年度	
	受注者	***コンサルタント	
	件名		
	適用基準		
	完了年度		
	受注者		

(施工・補修履歴)

通番	項 目	内 容	備 考
1	件名	***防波堤本体工事	
	完了年度	****年度	
	施工者	***建設・***工業 JV	
2	件名	***防波堤築造工事	
	完了年度	****年度	
	施工者	***建設・***工業 JV	
3	件名	***防波堤消波工補修工事	
	完了年度	****年度	
	施工者	***建設	
	件名		
	完了年度		
	施工者		

(材料特性)

本施設の主な材料特性は以下のとおりである。

なお、詳細な材料特性については、〇〇に保管されている工事完成図書等による。

通番	項 目	内 容	備 考
1	コンクリート	* * - * - * * N	ケーソン
2	鉄筋	SD * * *	
3	ケーソン中詰砂	転用材 * * ~ * * * kg/個程度	
4	コンクリート	* * - * - * * N	消波ブロック
5	コンクリート	* * - * - * * N	根固ブロック
6	基礎捨石	転用材 * * ~ * * * kg/個程度	
7	被覆石	転用材 * * ~ * * * kg/個程度	

I-5 付随する施設との関連性

該当なし

I-6 維持管理レベル

本施設の各部材の維持管理レベルは、以下のとおりとする。

部 材 名 称	維持管理レベル	性能低下度	維持管理方針の目安
防波堤全体	Ⅲ	A	緊急的措置並びに応急的措置
		B	経過観察措置
		C	
		D	
ケーソン	Ⅰ (事前対策型)	A	－
		B	緊急的措置並びに応急的措置
		C	計画的措置
		D	経過観察措置
上部工 消波工 海底地盤 被覆工 根固工	Ⅲ (事後保全型)	A	緊急的措置並びに応急的措置
		B	経過観察措置
		C	
		D	

I-7 座標系、位置座標の設定

本施設の維持管理に有用な、座標系（ブロック番号、部材番号等）及び位置座標（X座標、Y座標、Z座標）は、参考資料として添付する。

I-8 初回点検診断結果

本施設の初回点検診断の実績は以下のとおりである。

なお、点検診断結果は、参考資料として添付する。

項 目	時 期	備 考
初回点検診断	2021 年度	一般・詳細

I-9 その他の配慮事項

項 目	内 容	備 考
代替施設の有無	無	
補修の優先度を考慮する上での配慮事項	(自由記入)	

II 点検診断計画

本施設の点検診断の頻度及び実施条件、点検診断の時期並びに点検診断項目及び点検診断方法は以下のとおりとする。

(点検診断の頻度及び実施条件)

項 目		内 容	備 考
定期点検 診断	一般定期点検診断	5 年以内ごとに少なくとも 1 回	
	詳細定期点検診断	供用期間中に少なくとも 1 回	
臨時点検 診断	一般臨時点検診断	日常点検において特段の異常が確認された場合及び 震度 5 強以上の地震が発生した場合	
	詳細臨時点検診断	一般定期点検診断又は一般臨時点検診断の結果、 詳細点検診断が必要と判断された場合	

(点検診断の時期)

本施設の点検診断の実施時期の見込みは以下のとおりとする。

年度	内 容	備 考	年度	内 容	備 考
1996			2021		
1997			2022		
1998			2023		
1999			2024	定期点検診断	一般
2000			2025		
2001			2026		
2002			2027		
2003			2028		
2004			2029	定期点検診断	一般
2005			2030		
2006			2031		
2007			2032		
2008			2033		
2009			2034	定期点検診断	一般
2010			2035		
2011			2036		
2012			2037		
2013			2038		
2014			2039	定期点検診断	一般
2015			2040		
2016			2041		
2017			2042		
2018			2043		
2019	定期点検診断	一般	2044	定期点検診断	一般・詳細
2020			2045		

(点検診断項目及び点検診断方法)

部 材 名 称	点検診断項目	点検 の種類	点検診断方法
防波堤全体	移動	一般	点検診断ガイドラインによる
	沈下	一般	点検診断ガイドラインによる
ケーソン	コンクリートの劣化、損傷	一般	点検診断ガイドラインによる
		詳細	点検診断ガイドラインによる
	ケーソンの空洞化	詳細	点検診断ガイドラインによる
上部工	コンクリートの劣化、損傷	一般	点検診断ガイドラインによる
消波工	移動、散乱、沈下	一般	点検診断ガイドラインによる
	損傷、欠損	一般	点検診断ガイドラインによる
	移動、散乱、沈下	詳細	点検診断ガイドラインによる
海底地盤	洗掘、堆積	詳細	点検診断ガイドラインによる
被覆工	移動、散乱、沈下	詳細	点検診断ガイドラインによる
根固工	移動、散乱、沈下	詳細	点検診断ガイドラインによる

III 総合評価

総合評価においては、点検診断結果に基づき、施設の変状に対する工学的知見・判断に基づく評価及び計画的かつ適切な維持工事等に向けた現場的行政的判断に基づく評価を行い、今後の施設の維持管理に関する方針を定める。

なお、総合評価結果は参考資料として添付する。

IV 維持補修計画

本施設の維持補修計画は、以下のとおりとする。

通番	項 目	内 容	備 考
1	維持補修概要		
	実施時期		
	概算費用		
	維持補修概要		
	実施時期		
	概算費用		

V 参考資料

参考資料は、以下の資料を添付する。

- ① 関連図面
- ② 設計計算書
- ③ 座標系及び位置座標
- ④ 点検診断結果
- ⑤ 総合評価結果

参考資料①

関連図面

位置図

平面図

標準断面図

標準断面図

(2℃上昇シナリオに対応する断面)

気候変動を勘案した見直しにより
マーカ部を追記

参考資料②

設計計算書

本施設に関する設計計算書より、主な維持管理に関連する主な設計条件を以下に抜粋する。

(設計条件 (抜粋))

項 目			内 容	備 考
計画条件等	要求性能	永続作用	使用性	
		変動作用	使用性	
		偶発作用	－	
【利用条件等】	設計供用期間		50 年	
	計画延長		***.**(m)	
	計画天端高		D.L+*.**(m)	
	基本水準面		D.L±*.**(m)	
【自然条件等】	潮位条件	H.W.L	D.L+*.**(m)	
		M.S.L	D.L+*.**(m)	
		L.W.L	D.L+*.**(m)	
	波浪条件		$H_{(1/3)}$ *.**(m)	
	地震条件		レベル 1 地震動 kh = *.**	
【気候変動の影響を勘案した潮位】	将来作用基準年		****年	
	2℃上昇シナリオ	H.W.L	D.L+*.**(m)	
		M.S.L	D.L+*.**(m)	
		L.W.L	D.L+*.**(m)	
	4℃上昇シナリオ	H.W.L	D.L+*.**(m)	
		M.S.L	D.L+*.**(m)	
		L.W.L	D.L+*.**(m)	
材料特性	本体工	コンクリート	* * - * - * * N	
		鉄筋	SD * * *	
	上部工	コンクリート	* * - * - * * N	
		鉄筋	SD * * *	
	中詰工	中詰砂	転用材 * * ～ * * * kg/個程度	
	消波工	コンクリート	* * - * - * * N	
	根固工	コンクリート	* * - * - * * N	
	基礎工	基礎捨石	転用材 * * ～ * * * kg/個程度	
	被覆工	被覆石	転用材 * * ～ * * * kg/個程度	

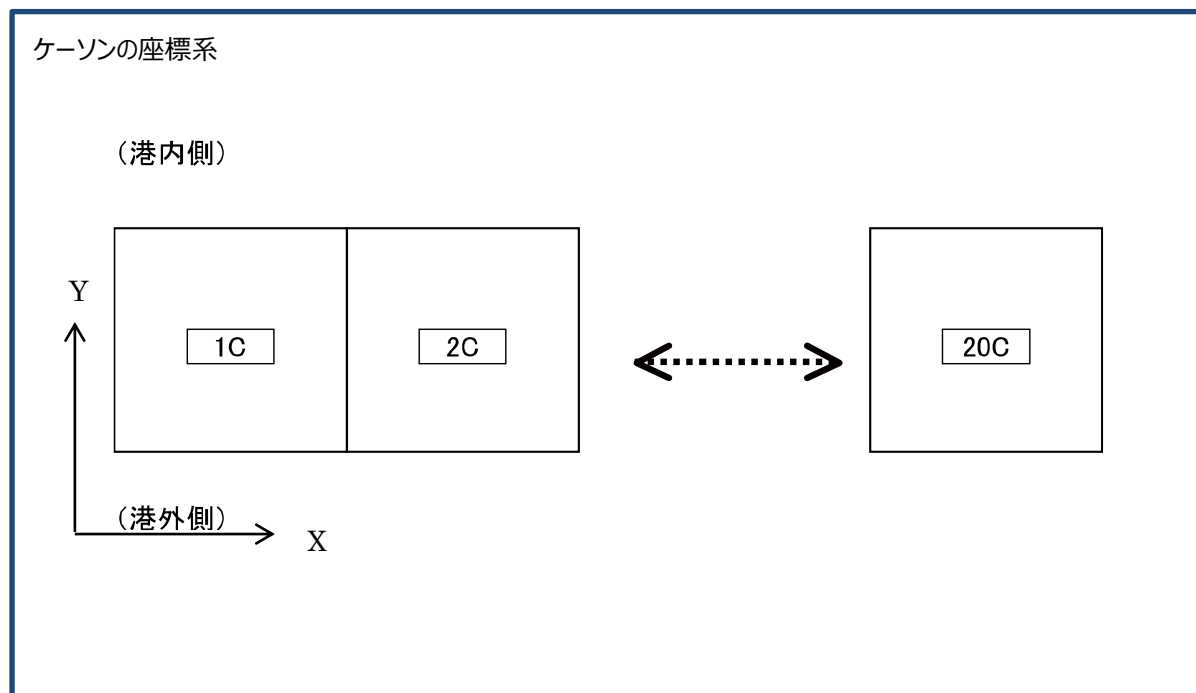
参考資料③

座標系及び位置座標

(座標系記号)

通番	名称	記号	用語
1	ケーソン	C	Caisson

(座標系)



(位置座標)

本施設の位置座標（X 座標、Y 座標、Z 座標）は必要に応じて設定する。

参考資料④

点検診断結果

初回点検診断結果

一般定期点検診断結果

⋮

一般定期点検診断結果

参考資料⑤

総合評価結果

総合評価結果（2024 年点検診断時）

部材	維持管理 レベル	点検診断				①工学的知見・判断 に基づく評価	②現場的・行政的判断 に基づく評価	③施設の維持管理 に関する方針	総合評価の概要
		点検診断の項目	点検診断結果の概要	性能低下度					
				点検診断 項目	施設 全体				
防波堤全体	I	移動	防波堤全体に小規模なずれが生じている。	C	C	（将来計画の評価） ・要求性能の変更 （維持工事等の計画） ・軽微な補修 （利用面、財政面、代替案） ・施設の重要度は中程度 （緊急的措置の必要性） ・不要 （補修の必要性） ・不要	（将来計画の評価） ・要求性能の変更 （維持工事等の計画） ・軽微な補修 （利用面、財政面、代替案） ・施設の重要度は中程度 （応急的措置の必要性） ・不要 （計画的措置の必要性） － （点検診断計画変更の必要性） ・設計供用期間未までに詳細点検診断を実施	□緊急的措置 □応急的措置 □計画的措置 ■経過観察措置	本施設は施設の性能の低下はほとんど認められない状態であり、次回点検診断まで適切に日常点検を実施する経過観察措置とする。 なお、将来における潮位の見通しを勘案すると、順応的適応策による対策が必要になる見通し。
	II	沈下	防波堤全体に小規模な段差がある。	C					
ケーソン	I	コンクリートの劣化、損傷（目視）	□ブロックで1方向に3cm程度のひび割れがある。	C					
		コンクリートの劣化、損傷（潜水）	変状なし	D					
		ケーソンの空洞化	変状なし	D					
上部工	II	コンクリートの劣化、損傷	△ブロックの上部工で幅1cm未満のひび割れがある。	C					
消波工	III	移動、散乱、沈下	▽ブロックの消波ブロックの一部が移動している。	C					
		損傷、欠損	欠損や部分的な変状があるブロックが多数個ある。	C					
		移動、散乱、沈下	変状なし	D					
海底地盤	III	洗掘、堆積	変状なし	D					
被覆工	III	移動、散乱、沈下	変状なし	D					
根固工	III	移動、散乱、沈下	変状なし	D					

維持管理計画書作成事例
(E) 通常点検診断施設を重点点検診断施設に変更する場合
No.15 矢板式係船岸

＊ ＊ 港 ＊ ＊ 地区 ＊ ＊ 岸壁

維持管理計画書

項 目	内 容	備 考
港 格	重要港湾	
港 湾 名	＊ ＊ 港	
地 区 名	＊ ＊ 地区	
施 設 名	＊ ＊ 岸壁	
施 設 番 号	C-＊-＊	

2026 年 4 月変更

施設設置者 国土交通省

施設管理者 ＊ ＊ 県

目 次

I	総論	1
I-1	計画の目標.....	1
I-2	維持管理の基本的な考え方.....	1
I-3	施設に関連する計画.....	1
I-4	維持管理上の諸条件	2
I-5	付随する施設との関連性.....	6
I-6	維持管理レベル.....	7
I-7	座標系、位置座標の設定	7
I-8	初回点検診断結果	8
I-9	その他の配慮事項	8
II	点検診断計画.....	9
III	総合評価	10
IV	維持補修計画.....	11
V	参考資料	11

I 総論**I-1 計画の目標**

本施設を維持管理する計画の目標は、以下のとおりとする。

項 目	内 容	備 考
維持管理の計画目標期間	1996～2045 年度	点検診断区分の変更
設計供用期間	50 年	

I-2 維持管理の基本的な考え方

本施設をどのような方針で維持管理していくかの基本的な考え方は、以下のとおりとする。

項 目	内 容	備 考
維持管理の基本的な考え方	各部材の維持管理レベルに応じた対応により維持管理を行う。	
気候変動適応の 考え方	適応策	順応適応策
	適応の概要	2℃上昇シナリオへ対応
通常・重点点検診断施設の設定	重点点検診断施設	

I-3 施設に関連する計画

本施設に関連する計画は、以下のとおりである。

項 目	内 容	備 考
本施設の 港湾計画 への位置づけ	計画策定（位置づけ）年	＊ ＊ ＊ ＊ 年
	将来計画	予定なし（現状を維持）
	大規模地震対策施設計画	無
予防保全計画における措置の優先度	－（経過観察措置）	
大規模地震対策推進地域等の位置づけ	有	
地域防災計画への位置づけ	有	
協働防護計画への位置づけ	有	

I-4 維持管理上の諸条件

本施設の維持管理計画に資する諸条件は、以下のとおりである。

なお、標準断面図、平面図等の関連図面は、参考資料として添付する。

(施設の情報)

項 目	内 容	備 考
港格	重要港湾	
港湾名	* * 港	
地区名	* * 地区	
施設名	* * 岸壁	
施設番号	C- * - *	
施設設置者	国土交通省	
施設管理者	* * 県	

(構造形式)

項 目	内 容	備 考
施設の分類	係留施設 岸壁	
構造形式	矢板式係船岸	
水深	D.L. - * * . * m	
延長（取付部を含む延長）	* * . * m	
面積	* * . * m ²	
天端高	D.L. + * * . * m	

(自然条件)

項 目		内 容	備 考
潮位	基本水準面	D.L±*,**(m)	維持管理 計画書作成 時点
	H.W.L.	D.L+*,**(m)	
	M.S.L.	D.L+*,**(m)	
	L.W.L.	D.L+*,**(m)	

(気候変動の影響を勘案した自然条件)

項 目			内 容	備 考
気候変動の影響を 勘案した潮位	将来作用基準年		2045 年	将来作用 基準年時点
	2℃上昇 シナリオ	H.W.L.	D.L+*.**(m)	
		M.S.L.	D.L+*.**(m)	
		L.W.L.	D.L+*.**(m)	
	4℃上昇 シナリオ	H.W.L.	D.L+*.**(m)	
		M.S.L.	D.L+*.**(m)	
		L.W.L.	D.L+*.**(m)	

(設計履歴)

通番	項 目	内 容	備 考
1	件名	****土質調査	
	適用基準		
	完了年度	****年度	
	受注者	***コンサルタント	
2	件名	****基本設計	
	適用基準	港湾の施設の技術上の基準・同解説(****年度版)	
	完了年度	****年度	
	受注者	***コンサルタント	
3	件名	****細部設計	
	適用基準	港湾の施設の技術上の基準・同解説(****年度版)	
	完了年度	****年度	
	受注者	***コンサルタント	
4	件名	****補修設計	
	適用基準	港湾の施設の技術上の基準・同解説(****年度版)	
	完了年度	****年度	
	受注者	***コンサルタント	
5	件名	****補修設計	
	適用基準	港湾の施設の技術上の基準・同解説(****年度版)	
	完了年度	****年度	
	受注者	***コンサルタント	
	件名		
	適用基準		
	完了年度		
	受注者		

(施工・補修履歴)

通番	項 目	内 容	備 考
1	件名	***岸壁築造工事	
	完了年度	****年度	
	施工者	***建設・***工業JV	
2	件名	***被覆防食工補修工事	
	完了年度	****年度	
	施工者	***建設	
3	件名	***電気防食工補修工事	
	完了年度	****年度	
	施工者	***建設	
4	件名	***エプロン補修工事	
	完了年度	****年度	
	施工者	***建設	
5	件名	***附帯設備補修工事	
	完了年度	****年度	
	施工者	***建設	
6	件名	***上部工補修工事	
	完了年度	****年度	
	施工者	***建設	
	件名		
	完了年度		
	施工者		

(材料特性)

本施設の主な材料特性は以下のとおりである。

なお、詳細な材料特性については、〇〇に保管されている工事完成図書等による。

通番	項 目	内 容	備 考
1	鋼矢板	SY* * *,* * 型,* * *mm	
2	被覆防食	ペトロラタム被覆：期待耐用年数(* * 年)	
3	電気防食	流電陽極方式：防食年数* * 年	
4	コンクリート	* * - * - * * N	
5	鉄筋	SD* * *	
6	控え索	高張力鋼NHT* * *,φ*、L* *	
7	コンクリート舗装	* * - * - * * N	
8	係船柱	曲柱*、* * *KN * * * *	
9	防衝設備	* * *製 * * 型 * * * H	
10	車止め	* * *製 * * * H 型	
11	はしご	* * *製 * * B × * * * H	

(利用状況)

港湾計画上の利用情報は以下のとおりである。なお、各年の利用実績は参考資料として添付する。

項 目		内 容	備 考
主要利用船舶の種類		* * * * 船	
主要取扱貨物		* * * *	
対象船舶	船型	* *,* * * D/W	
	船席数	* * バース	

I-5 付随する施設との関連性

本施設に付随する施設との関連性は、以下のとおりである。

なお「接続する緊急輸送道路」とは、道路啓開計画に示された港湾施設と接続する道路とする。

(付随する施設)

通番	項 目	内 容	備 考
1	施 設 名	* * * 泊地	
	施設番号	A-1-*	
2	施 設 名	* * * 荷さばき地	
	施設番号	F-4-*	
3	施 設 名	* * * 上屋	
	施設番号	F-5-*	
4	施 設 名	* * * 道路	
	施設番号	D-1-*	
	施 設 名		
	施設番号		

(接続する緊急輸送道路)

通番	項 目	内 容	備 考
1	道 路 名	国道* * 線	
	規 格	一般道	
	道 路 名		
	規 格		

I-6 維持管理レベル

本施設の各部材の維持管理レベル及び維持管理の方針の目安は、以下のとおりとする。

部 材 名 称		維持管理レベル	性能 低下度	維持管理方針の目安
係船岸全体 (岸壁法線)		Ⅲ (事後保全型)	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	経過観察措置
			C	
			D	
鋼管矢板		Ⅰ (事前対策型)	A	－
			B	緊急的措置並びに応急的措置
			C	計画的措置
			D	経過観察措置
鋼管矢板 (被覆防食工)		Ⅱ (予防保全型)	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	計画的措置
			C	経過観察措置
			D	
鋼管矢板 (電気防食工)		Ⅱ (予防保全型)	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	計画的措置
			C	経過観察措置
			D	
上部工 エプロン 海底地盤		Ⅲ (事後保全型)	A	緊急的措置並びに応急的措置
			B	経過観察措置
			C	
			D	
附 帯 設 備	係船柱	Ⅲ (事後保全型)	A	緊急的措置並びに応急的措置
	防衝設備		B	経過観察措置
	車止め		C	
	排水設備 はしご		D	

I-7 座標系、位置座標の設定

本施設の維持管理に有用な、座標系（ブロック番号、部材番号等）及び位置座標（X座標、Y座標、Z座標）は、参考資料として添付する。

I-8 初回点検診断結果

本施設の初回点検診断の実績は以下のとおりである。

なお、点検診断結果は、参考資料として添付する

項 目	時 期	備 考
初回点検診断	1995 年度	一般・詳細

I-9 その他の配慮事項

項 目	内 容	備 考
代替施設の有無	無	
補修の優先度を考慮する上での配慮事項	(自由記入)	

II 点検診断計画

本施設の点検診断の頻度もしくは実施条件、点検診断の時期及び点検診断項目及び点検診断方法は以下のとおりとする。

(点検診断の頻度もしくは実施条件)

項 目		内 容	備 考
定期点検 診断	一般定期点検診断	5 年以内ごとに少なくとも 1 回	
	詳細定期点検診断	供用期間中に少なくとも 1 回	
臨時点検 診断	一般臨時点検診断	日常点検において特段の異常が確認された場合及び 震度 5 強以上の地震が発生した場合	
	詳細臨時点検診断	一般定期点検診断もしくは一般臨時点検診断の結果、 詳細点検診断が必要と判断された場合	

(点検診断の時期)

本施設の点検診断実施時期の見込みは以下のとおりとする。

2026 年度に、通常点検診断施設を重点点検診断施設に変更している。

年度	内 容	備 考	年度	内 容	備 考
1996			2021		
1997			2022		
1998			2023		
1999			2024	定期点検診断	一般
2000			2025		
2001			2026		区分変更
2002			2027		
2003			2028		
2004			2029	定期点検診断	一般
2005			2030		
2006			2031		
2007			2032	定期点検診断	一般
2008			2033		
2009	定期点検診断	一般	2034		
2010			2035	定期点検診断	一般
2011			2036		
2012			2037		
2013			2038	定期点検診断	一般・詳細
2014	定期点検診断	一般	2039		
2015			2040		
2016			2041	定期点検診断	一般
2017			2042		
2018			2043		
2019	定期点検診断	一般	2044	定期点検診断	一般・詳細
2020			2045		

(点検診断項目及び点検診断方法)

部 材 名 称		点検診断項目	点検 の種類	点検診断方法
係船岸全体 (岸壁法線)		凹凸、出入り	一般	点検診断ガイドラインによる
		移動量、傾斜量、沈下量	詳細	点検診断ガイドラインによる
エプロン		沈下、陥没	一般	点検診断ガイドラインによる
		アスファルトの劣化、損傷	一般	点検診断ガイドラインによる
		吸出し、空洞化	詳細	点検診断ガイドラインによる
鋼管矢板		鋼材の腐食、亀裂、損傷	一般	点検診断ガイドラインによる
			詳細	点検診断ガイドラインによる
		肉厚測定	詳細	点検診断ガイドラインによる
鋼管矢板 (被覆防食工)		被覆防食工	一般	点検診断ガイドラインによる
		(ペトロラタム被覆)	詳細	点検診断ガイドラインによる
鋼管矢板 (電気防食工)		電位測定	一般	点検診断ガイドラインによる
		陽極、電位	詳細	点検診断ガイドラインによる
上部工		コンクリートの劣化、損傷	一般	点検診断ガイドラインによる
海底地盤		洗掘、堆積	詳細	点検診断ガイドラインによる
附 帯 設 備	係船柱	本体の劣化、損傷、 塗装のはがれ等の状態	日常	点検診断ガイドラインによる
	防衝設備	本体の損傷、破損、 取付金具の腐食等の状態	日常	点検診断ガイドラインによる
	車止め	本体の損傷、塗装、腐食	日常	点検診断ガイドラインによる
	排水設備	排水設備の破損、グレーチング の変形、腐食	日常	点検診断ガイドラインによる
	はしご	本体の損傷、塗装、腐食	日常	点検診断ガイドラインによる

III 総合評価

総合評価においては、点検診断結果に基づき、施設の変状に対する工学的知見・判断に基づく評価及び計画的かつ適切な維持工事等に向けた現場的行政的判断に基づく評価を行い、今後の施設の維持管理に関する方針を定める。

なお、総合評価結果は参考資料として添付する。

IV 維持補修計画

本施設の維持補修計画は、以下のとおりとする。

通番	項 目	内 容	備 考
1	維持補修概要	犠牲陽極交換	
	実施時期	* * * 年度	
	概算費用	*, * * * 千円	
	維持補修概要		
	実施時期		
	概算費用		

V 参考資料

参考資料は、以下の資料を添付する。

- ① 関連図面
- ② 設計計算書
- ③ 利用実績
- ④ 座標系及び位置座標
- ⑤ 点検診断結果
- ⑥ 総合評価結果

参考資料①

関連図面

位置図

平面図

標準断面図

参考資料②

設計計算書

本施設に関する設計計算書より、主な維持管理に関連する主な設計条件を以下に抜粋する。

(設計条件 (抜粋))

項 目			内 容	備 考
【計画条件等】	要求性能	永続作用	使用性	
		変動作用	使用性	
		偶発作用	－	
【利用条件等】	設計供用期間		50 年	
	計画延長		***.**(m)	
	計画天端高		D.L+*.**(m)	
	計画水深		D.L-*.**(m)	
	設計水深		D.L-*.**(m)	
	基本水準面		D.L±*.**(m)	
	エプロン復員		**.**(m)	
	エプロン勾配		*.%(%) (順勾配)	
	対象船舶		**,*** (DWT)	
	対象船舶の接岸条件		接岸速度 **.**(cm/sec)	
	牽引力		*,*** (kN)	
	載荷重		永続作用 **.**(kN/m ²) 変動作用 **.**(kN/m ²)	
【自然条件等】	潮位条件	H.W.L	D.L+*.**(m)	
		M.S.L	D.L+*.**(m)	
		L.W.L	D.L+*.**(m)	
	残留水位条件		D.L+*.**(m)	
	地震条件		・レベル 1 地震動 kh = *.**	

項 目			内 容	備 考
【気候変動の影響を勘案した潮位】	将来作用基準年		***	
	2℃上昇シナリオ	H.W.L	D.L+*.**(m)	
		M.S.L	D.L+*.**(m)	
		L.W.L	D.L+*.**(m)	
	4℃上昇シナリオ	H.W.L	D.L+*.**(m)	
		M.S.L	D.L+*.**(m)	
		L.W.L	D.L+*.**(m)	
材料特性	下部工	鋼矢板	SY***, **型, ***mm	
		被覆防食	ペトロラタム被覆：期待耐用年数(**年)	
		電気防食	流電陽極方式：防食年数 **年	
	上部工	コンクリート	**-**-**N	
		鉄筋	SD***	
	控え工	控え索	高張力鋼NHT**、φ*、L**	
	舗装	アスファルト舗装	As**	
	附帯設備	係船柱	曲柱*,***KN ****	
		防衝設備	***製 **型 ***H	
		車止め	***製 ***H型	
		はしご	***製 **B × ***H	

参考資料③

利用実績

(利用実績)

年	取扱貨物量	主要取扱貨物			備考
		1 位	2 位	3 位	
2026					
2027					
2028					
2029					
2030					
2031					
2032					
2033					
2034					
2035					
2036					
2037					
2038					
2039					
2040					
2041					
2042					
2043					
2044					
2045					

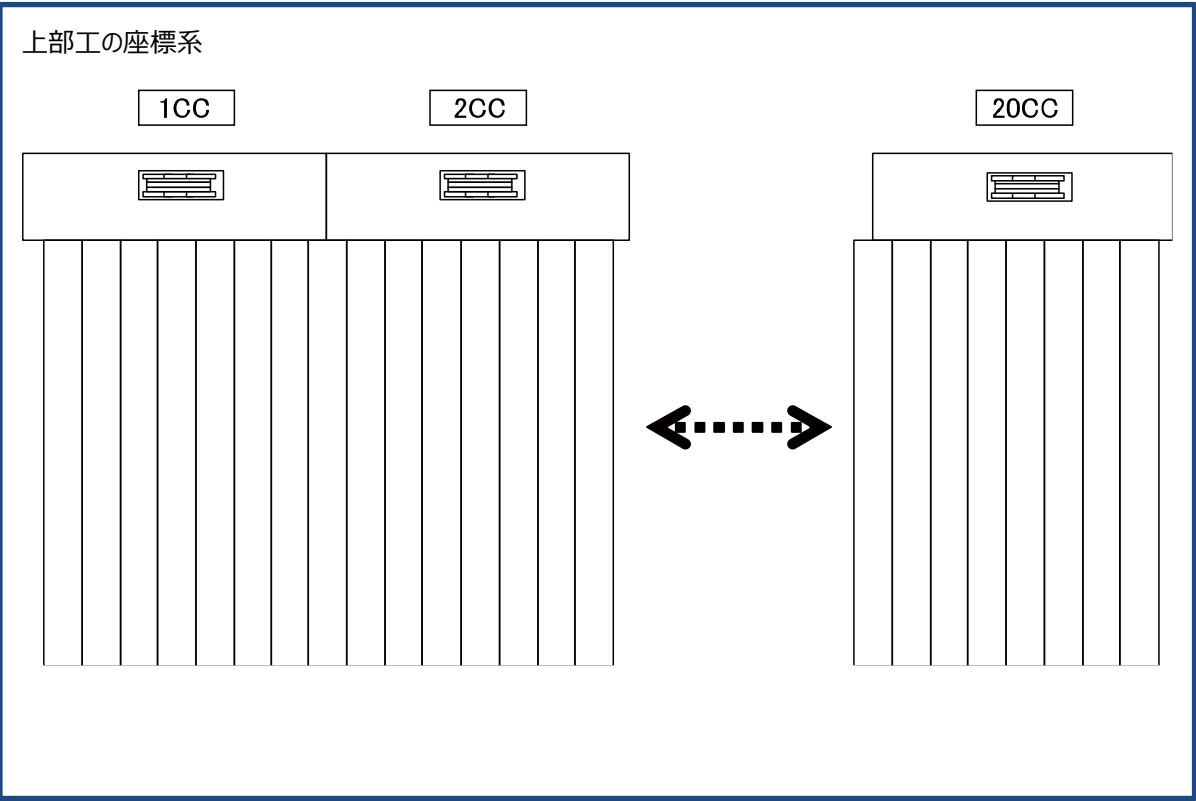
参考資料④

座標系及び位置座標

(座標系記号)

通番	名称		記号	用語
1	上部工		CC	Concrete crown (Coping concrete)

(座標系)



(位置座標)

本施設の位置座標（X 座標、Y 座標、Z 座標）は必要に応じて設定する。

参考資料⑤

点検診断結果

初回点検診断結果

一般定期点検診断結果

⋮

通常点検診断施設を重点点検診断施設に区分変更する際の点検診断結果（一般）

参考資料⑥

総合評価結果

初回点検診断した結果における総合評価結果（1995 年点検診断時）

部材		維持管理 レベル	点検診断			①工学的知見・判断 に基づく評価	②現場的・行政的判断 に基づく評価	③施設の維持管理 に関する方針	総合評価の概要	
			点検診断の項目	点検診断結果の概要	性能低下度					
					点検診断 項目					施設 全体
係船岸全体（棧橋法線）		Ⅲ	凹凸、出入り	変状なし	D	D	（将来計画の評価） － （維持工事等の計画） － （利用面、財政面、代替案） ・ 施設の重要度は高い （応急的措置の必要性） ・ 不要 （補修の必要性） ・ 不要 （計画的措置の必要性） ・ 不要 （点検診断計画変更の必要性） －	☐ 緊急的措置 ☐ 応急的措置 ☐ 計画的措置 ■経過観察措置	本施設は近隣に代替施設 のない大水深の岸壁で重要 度は高いが、新設で変状がな いため次回点検診断まで適 切に日常点検を実施する経 過観察措置とする。	
			移動量、傾斜量、沈下量	変状なし	D					
エブロン		Ⅲ	沈下、陥没	変状なし	D					
			コンクリートの劣化、損傷	変状なし	D					
			吸い出し、空洞化	変状なし	D					
鋼管矢板		Ⅰ	鋼材の腐食、亀裂、損傷	変状なし	D					
			肉厚測定	変状なし	D					
鋼管矢板（被覆防食工）		Ⅱ	被覆防食工 （ペトラタム被覆）	変状なし	D					
鋼管矢板（電気防食工）		Ⅱ	電位測定	変状なし	D					
		Ⅱ	陽極、電位	変状なし	D					
上部工		Ⅲ	洗掘、堆積	変状なし	D					
海底地盤		Ⅲ	洗掘、堆積	変状なし	D					
附帯設備	係船柱	Ⅲ	本体の劣化、損傷、 塗装の剥がれ等の状態	変状なし	D					
	防衝設備	Ⅲ	本体の損傷、破損、 取付金具の腐食等の状態	変状なし	D					
	車止め	Ⅲ	本体の損傷、塗装、腐食	変状なし	D					
	排水設備	Ⅲ	排水設備の破損、グレーチ ングの変形、腐食	変状なし	D					
	はしご	Ⅲ	本体の損傷、塗装、腐食	変状なし	D					

総合評価結果（2019 年点検診断時）

部材		維持管理 レベル	点検診断			①工学的知見・判断 に基づく評価	②現場的・行政的判断 に基づく評価	③施設の維持管理 に関する方針	総合評価の概要	
			点検診断の項目	点検診断結果の概要	性能低下度					
					点検診断 項目					施設 全体
係船岸全体（棧橋法線）		Ⅲ	凹凸、出入り	変状なし	D	C	（将来計画の評価） － （維持工事等の計画） － （利用面、財政面、代替案） ・ 施設の重要度は高い （応急的措置の必要性） ・ 不要 （計画的措置の必要性） ・ 不要 （点検診断計画変更の必要性） －	☐ 緊急的措置 ☐ 応急的措置 ☐ 計画的措置 ☒ 経過観察措置	本施設は近隣に代替施設のない大水深の岸壁で重要度は高い。2019 年度時、施設の性能の低下はほとんど認められない状態で変状がないため次回点検診断まで適切に日常点検を実施する経過観察措置とする。	
			移動量、傾斜量、沈下量	変状なし	D					
エプロン		Ⅲ	沈下、陥没	変状なし	C					
			コンクリートの劣化、損傷	◇ブロックのリエプロンに 3 c m 未満の段差がある。	C					
			吸い出し、空洞化	変状なし	D					
鋼管矢板		Ⅰ	鋼材の腐食、亀裂、損傷	変状なし	D					
			肉厚測定	変状なし	D					
鋼管矢板（被覆防食工）		Ⅱ	被覆防食工（ベトロラタム被覆）	○番保護カバーの表面に微細なクラックがみられる。	C					
鋼管矢板（電気防食工）		Ⅱ	電位測定	防食管理電位が維持されている。（-950mV）	D					
		Ⅱ	陽極、電位	変状なし	D					
上部工		Ⅲ	洗掘、堆積	▽ブロックの上部工に幅 3mm 未満のひび割れがある。	C					
海底地盤		Ⅲ	洗掘、堆積	変状なし	D					
附帯設備	係船柱	Ⅲ	本体の劣化、損傷、塗装の剥がれ等の状態	△番の係船柱の係船柱の塗装がはがれている。	C					
	防衛設備	Ⅲ	本体の損傷、破損、取付金具の腐食等の状態	□番の本体（ゴム）に欠損、亀裂、チッピングがある。	C					
	車止め	Ⅲ	本体の損傷、塗装、腐食	本体の損傷や塗装がはがれている。	C					
	排水設備	Ⅲ	排水設備の破損、グレーチングの変形、腐食	変状なし	D					
	はしご	Ⅲ	本体の損傷、塗装、腐食	変状なし	D					

総合評価結果（2024 年点検診断時） [前回の定期点検診断から2段階以上性能低下度が低下]

部材		維持管理 レベル	点検診断			①工学的知見・判断 に基づく評価	②現場的・行政的判断 に基づく評価	③施設の維持管 理 に関する方針	総合評価の概要	
			点検診断の項目	点検診断結果の概要	性能低下度					
					点検診断 項目					施設 全体
係船岸全体（棧橋法線）		Ⅲ	凹凸、出入り	変状なし	D	A	（将来計画の評価） ・点検診断区分の変更 （維持工事等の計画） ・性能回復の程度は、当初レベル ・維持工事の実施時期は、次回点 検まで ・維持工事の容易性は、制約有 （荷役車両の交通量が多いため、 順次、通行規制を敷く必要あり） ・LCCにおけるコスト優位性は、 有（次回点検までに補修すること がLCC面で優位） （利用面、財政面、代替案） ・施設の重要度は高い（日常的な 荷役に利用） ・予算確保の可否は可能（次年度 以降計画的に予算を要求） ・代替施設等による対応は不可 （港内に機能代替可能なバースが 存在しない） （応急的措置の必要性） ・必要 （計画的措置の必要性） 必要 （点検診断計画変更の必要性） ・点検診断区分の変更に伴って変 更が必要	■緊急的措置 ■応急的措置 ■計画的措置 □経過観察措置	2019 年度時、施設の性 能の低下はほとんど認めら れない状態で変状がなかっ たが、2024 年度の一般定 期診断した結果、前回の結 果から2段階以上性能低下 度が低下し、点検診断区分 を変更する必要があると判 断された。鋼矢板の変状に 起因する性能低下度Aの評 価。事故防止のため緊急的 措置としてエプロン沈下部 に立入禁止措置を講ずる が、荷役に影響があるため 応急的措置を講じ、立入禁 止範囲の最小化又は解除 を行う。 また、計画的措置として、次 年度予算で優先的な補修を 計画。	
			移動量、傾斜量、沈下量	変状なし	D					
エプロン		Ⅲ	沈下、陥没	□ブロックの岸壁背後の数力所で 3cm未満の段差がみられる。	C					
			コンクリートの劣化、損傷	◇ブロックのリエプロンに 3 c m未満の 段差がある。	C					
			吸い出し、空洞化	変状なし	D					
鋼管矢板		Ⅰ	鋼材の腐食、亀裂、損傷	○ブロックの前面の鋼矢板の平均 海面水位付近に孔食がある。	A					
			肉厚測定	変状なし	D					
鋼管矢板（被覆防食工）		Ⅱ	被覆防食工 （ベトロラム被覆）	△ブロックの被覆防食工の一部の 保護カバーや当て板に亀裂がみら れる。	C					
鋼管矢板（電気防食工）		Ⅱ	電位測定	防食管理電位が維持されている。（- 950mV）	D					
		Ⅱ	陽極、電位	変状なし	D					
上部工		Ⅲ	洗掘、堆積	▽ブロックの上部工において幅 3mm 未満のひび割れがある。	C					
海底地盤		Ⅲ	洗掘、堆積	変状なし	D					
附 帯 設 備	係船柱	Ⅲ	本体の劣化、損傷、 塗装の剥がれ等の状態	▽番の係船柱の塗装がはがれてい る。	C					
	防衛設備	Ⅲ	本体の損傷、破損、 取付金具の腐食等の状態	□番の本体（ゴム）に欠損、亀裂、 チッピングがある。	C					
	車止め	Ⅲ	本体の損傷、塗装、腐食	◇番の車止めの損傷や塗装がはが れている。	C					
	排水設備	Ⅲ	排水設備の破損、グレーチ ングの変形、腐食	変状なし	D					
	はしご	Ⅲ	本体の損傷、塗装、腐食	変状なし	D					

維持管理計画書作成事例
No.10 複数の施設を取りまとめる維持管理計画書

【例】

＊ ＊ 港 維持管理計画書

(＊ ＊ ふ頭地区 ＊ ＊ 岸壁～ ＊ ＊ 岸壁)

＊ ＊ 港 維持管理計画書

(水域施設・外郭施設) (係留施設)

＊ ＊ 港 維持管理計画書

(＊ ＊ ふ頭地区 ＊ ＊ コンテナバース)

＊ ＊ ＊ ＊ 年 ＊ ＊ 月

施設設置者 国土交通省
施設管理者 ＊ ＊ 県

表 策定、改訂等の履歴一覧表

版数	日付	項目	改訂箇所・追加資料	理由等
1		■策定	—	<u>新規策定</u> <u>総合評価に基づく維持管理の方針</u> ・〇〇施設と〇〇施設の□□工は、同時期の補修を計画する（△△年予定）。
2		☐ 改訂 ☐ その他	☐ 総論 ☐ 点検診断計画 ☐ 維持補修計画 ☐ その他	
3		☐ 改訂 ☐ その他	☐ 総論 ☐ 点検診断計画 ☐ 維持補修計画 ☐ その他	
4		☐ 改訂 ☐ その他	☐ 総論 ☐ 点検診断計画 ☐ 維持補修計画 ☐ その他	
5		☐ 改訂 ☐ その他	☐ 総論 ☐ 点検診断計画 ☐ 維持補修計画 ☐ その他	
6		☐ 改訂 ☐ その他	☐ 総論 ☐ 点検診断計画 ☐ 維持補修計画 ☐ その他	
7		☐ 改訂 ☐ その他	☐ 総論 ☐ 点検診断計画 ☐ 維持補修計画 ☐ その他	
8		☐ 改訂 ☐ その他	☐ 総論 ☐ 点検診断計画 ☐ 維持補修計画 ☐ その他	

目 次

I.	総論	1
1.	計画の目標	1
2.	維持管理計画の基本的な考え方	1
3.	施設に関連する計画	1
4.	維持管理上の諸条件等	1
5.	付随する施設	2
6.	維持管理レベル	2
7.	座標系、位置座標の設定	3
8.	初回点検診断結果の概要	3
9.	その他配慮事項	3
II.	点検診断計画	4
1.	点検診断計画の概要	4
2.	点検診断の項目及び対象部材	5
3.	点検診断の方法	5
4.	点検診断計画	5
III.	総合評価	6
IV.	維持補修計画	7
資料 1	対象施設（一覧表）	8
資料 2	施設に関する計画（一覧表）	10
資料 3	維持管理上の諸条件等	12
資料 4	維持管理レベル（一覧表）	17
資料 5	初回点検診断結果及び総合評価	20
資料 6	点検診断計画（一覧表）	24
資料 7	総合評価（一覧表）	28
資料 8	維持補修計画（一覧表）	31
参考資料	点検診断様式	35

I. 総論

1. 計画の目標

対象施設は、(供用開始年にかかわらず) 供用期間**年間 (****年～****年) にわたり適切な維持管理を行う。

計画の目標期間を、**資料 1 対象施設（一覧表）** に示す。

2. 維持管理計画の基本的な考え方

【例】連続バースの場合

対象施設は、**号岸壁、**号岸壁、**号岸壁の3バースを一体として供用しており、各施設の維持工事等については、船舶の利用に影響する。

したがって、対象施設の維持管理計画は、連続3バースを取りまとめて策定する。

【例】同じ種類及び構造形式の施設の場合

**港における外郭施設は、同一項目の定期点検診断時期を同時期に実施すること（特に海上からの目視調査）を勘案し、対象施設を一体として維持管理することが効率的である。

したがって、対象施設の維持管理計画は、複数の施設を取りまとめて策定する。

【例】利用目的が同じ施設の場合

**コンテナバースは、岸壁、コンテナヤード及びガントリークレーン等の荷役機械を一体として供用しており、対象施設を一体として維持管理することが効率的である。

したがって、対象施設の維持管理計画は、複数の施設を取りまとめて策定する。

本計画書は、複数の施設を取りまとめることにより、維持管理の合理化や効率化を図ることを目的に作成する。対象となる施設並びに通常点検診断施設または重点点検診断施設の設定等を **資料 1 対象施設（一覧表）** に示す。

3. 施設に関連する計画

対象施設の港湾計画上の位置づけを、**資料 2 施設に関する計画（一覧表）** に示す。

4. 維持管理上の諸条件等

対象施設の維持管理上の諸条件等を施設ごとに、**資料 3 維持管理上の諸条件等** に示す。

5. 付随する施設

対象施設に付随する施設を表 I -5.1 に示す。

表 I -5.1 付随する施設の情報

付随する施設			
施設名	施設番号	通常点検診断施設または重点点検診断施設	備考
****航路	A-1-*	通常点検診断施設	設置者: **港湾事務所 港湾管理者: ***港湾管理者

6. 維持管理レベル

対象施設の部材等の維持管理レベルを、**資料4 維持管理レベル（一覧表）**に示す。

維持管理レベルのⅠ（高水準の対策を事前に施す）、Ⅱ（性能低下を予防する）、Ⅲ（事後的に対処する）における維持管理の方針は、維持管理レベルの考え方と及び性能低下度に応じて、表 I -6.1 を目安とする。

ここでの維持管理の方針は、あくまでも性能低下度に着目した方針の目安であり、総合評価においては、詳細定期点検診断結果、工学的知見・判断に基づく評価及び現場的・行政的判断に基づく評価等を踏まえて、維持管理の方針を決定する。

表 I -6.1 部材の維持管理レベルに応じた維持管理の方針の目安

維持管理レベル	性能低下度	性能低下度に対する維持管理の方針の目安
Ⅰ (高水準の対策を事前に施す)	A	—
	B	緊急的措置ならびに応急的措置
	C	計画的措置
	D	経過観察
Ⅱ (性能低下を予防する)	A	緊急的措置ならびに応急的措置
	B	計画的措置
	C	経過観察
	D	経過観察
Ⅲ (事後的に対処する)	A	緊急的措置ならびに応急的措置
	B	経過観察
	C	経過観察
	D	経過観察

注) 表中に示す維持管理レベルに対する維持管理の方針はあくまで目安であり、総合評価に基づき適切に定める。

7. 座標系、位置座標の設定

対象施設の座標系及び位置座標は、現時点では設定しないものとし、必要に応じて設定する。

8. 初回点検診断結果の概要

対象施設の初回点検診断結果に基づいた劣化度の判定及び性能低下度の評価及び総合評価の概要について、複数施設を一覧にした表と施設ごとの結果を、**資料5 初回点検診断結果及び総合評価** に示す。(詳細調査結果、劣化予測等の資料を含む。)

9. その他配慮事項

対象施設の維持工事等は、他の施設の点検診断及び維持工事等の実施時期を考慮して可能な限り同時期に実施し、供用中の利用制限を最小にするように配慮する。

II. 点検診断計画

1. 点検診断計画の概要

点検診断計画は、点検診断及び総合評価の結果を踏まえ、必要な点検診断の項目及び時期について計画する。点検診断計画の概要を表Ⅱ-1.1に示す。

表Ⅱ-1.1 点検診断計画の概要

項目	点検診断の種類				
	日常点検	定期点検診断		臨時点検診断	
		一般定期点検診断	詳細定期点検診断	一般臨時点検診断	詳細臨時点検診断
担当部所	** 事務所 ** 係	** 事務所 ** 係	** 事務所 ** 係	** 事務所 ** 係	** 事務所 ** 係
点検頻度 もしくは 実施条件	1回／*	(通常点検診断施設) 1回／5年以内 (重点点検診断施設) 1回／3年以内	(通常点検診断施設) 1回／設計供用期間中 (重点点検診断施設) 1回／10年以内	・日常点検、一般定期点検診断において特段の異常が確認された場合 ・震度5弱以上の地震の発生後、早急の実施	左記の他、一般臨時点検診断において特段の異常が確認された場合
点検診断方法	陸上からの目視	陸上及び海上からの目視	実施に至る経緯等を勘案し、適切な方法を選択	陸上及び海上からの目視	実施に至る経緯等を勘案し、適切な方法を選択
点検診断の項目	点検診断様式参照	同左	実施に至る経緯等を勘案し、適切な点検診断の項目を選択	同左	同左
点検診断の範囲及び位置	点検診断計画(表)参照	同左	実施に至る経緯等を勘案し、適切な点検診断の項目を選択	同左	同左
実施体制	港湾管理者	外部委託	外部委託	港湾管理者	外部委託
点検記録様式	港湾管理者の様式による	同左	同左	同左	同左
備考	・上記内容は、実施体制、施設が置かれる状況、変状の程度により、必要に応じて変更するものとする。				

2. 点検診断の項目及び対象部材

点検診断の項目及び対象部材は、施設の種類及び構造形式に異なり、施設ごとに、**参考資料 点検診断様式** に示す。

対象施設のうち、鋼材等を用いた部材は、必要に応じて詳細調査を実施する。

3. 点検診断の方法

(1) 一般定期点検診断

一般定期点検診断の方法は、施設ごとに示す **参考資料 点検診断様式** のとおりとする。

(2) 詳細定期点検診断

詳細定期点検診断の方法は、施設ごとに示す **参考資料 点検診断様式** のとおりとする。

4. 点検診断計画

対象施設の点検診断の年次計画を、**資料6 点検診断計画（一覧表）** に示す。

総合評価の見直し及び維持工事等の実施、施設の用途の変更等により、必要が生じたときは、点検診断計画を変更する。

Ⅲ. 総合評価

対象施設の総合評価を、**資料 7 総合評価（一覧表）**に示す。

IV. 維持補修計画

対象施設の維持補修計画を、**資料 8 維持補修計画（一覧表）**に示す。

概算補修費用は、必要な時期に別途検討する。

総合評価の見直し及び維持工事等の実施、施設の用途の変更等により、必要が生じたときは、維持補修計画を変更する。

資料 1 対象施設（一覧表）

対象施設の港湾名、港格、地区名、施設の種類、施設番号、施設番号、施設名称、通常点検診断施設または重点点検診断施設の設定、計画目標期間等について、複数の施設を取りまとめて一覧表に示す。

表 1.1 対象施設（一覧表）

港湾名	港格	地区名	施設の種類		施設番号	施設名称		通常点検診断施設または重点点検診断施設の設定	維持管理の計画目標期間		
			大分類	小分類		設置者の施設名称	港湾管理者の施設名称		開始年度	終了年度	期間
港	**港湾	*地区	水域施設	航路	A-1-*	***航路	****航路	通常	****	****	**
港	**港湾	*地区	水域施設	泊地	A-2-*	***航路	****泊地	通常	****	****	**
港	**港湾	*地区	外郭施設	防波堤	B-1-*	***東防波堤	****東防波堤	通常	****	****	**
港	**港湾	*地区	外郭施設	防波堤	B-1-*	***西防波堤	****西防波堤	通常	****	****	**
港	**港湾	*地区	外郭施設	防波堤	B-1-*	***防波堤	****防波堤	通常	****	****	**
港	**港湾	*地区	外郭施設	護岸	B-5-*	***護岸	****護岸	通常	****	****	**
港	**港湾	*地区	外郭施設	護岸	B-5-*	***護岸	****護岸	通常	****	****	**
港	**港湾	*地区	係留施設	岸壁	C-1-*	***岸壁	****岸壁	重点	****	****	**
港	**港湾	*地区	係留施設	岸壁	C-1-*	***岸壁	****岸壁	重点	****	****	**
港	**港湾	*地区	係留施設	岸壁	C-1-*	***岸壁	****岸壁	重点	****	****	**
港	**港湾	*地区	係留施設	岸壁	C-1-*	***岸壁	****岸壁	重点	****	****	**
港	**港湾	*地区	係留施設	棧橋	C-4-*	***岸壁	****岸壁	重点	****	****	**
港	**港湾	*地区	係留施設	物揚場	C-6-*	***物揚場	****物揚場	通常	****	****	**
港	**港湾	*地区	係留施設	物揚場	C-6-*	***物揚場	****物揚場	通常	****	****	**
港	**港湾	*地区	臨港交通施設	道路	D-1-*	***道路	****道路	通常	****	****	**
港	**港湾	*地区	荷さばき施設	荷さばき地	F-4-*	***荷さばき地	****荷さばき地	通常	****	****	**
港	**港湾	*地区	保管施設	野積場	H-2-*	***野積場	***野積場	通常	****	****	**
港	**港湾	*地区	港湾環境整備施設	緑地	L-2-*	***緑地	****緑地	通常	****	****	**

資料 2 施設に関する計画（一覧表）

港湾計画や予防保全計画における対象施設に関わる内容等について、複数の施設を取りまとめて一覧表に示す。

表 2.1 施設に関する計画（一覧表）

施設 番号	施設名称	通常点検診断施設ま たは重点点検診断施 設の設定	港湾計画上の対象施設の位置づけ		予防保全計画上の対象施設の位置づけ		備考
	設置者の施設名称		計画策定年	改訂又は一部変更の予定	計画策定年	対応方針（案）	
A-1-*	***航路	通常					
A-2-*	***航路	通常					
B-1-*	***東防波堤	通常					
B-1-*	***西防波堤	通常					
B-1-*	***防波堤	通常					
B-5-*	***護岸	通常					
B-5-*	***護岸	通常					
C-1-*	***岸壁	重点					
C-1-*	***岸壁	重点					
C-1-*	***岸壁	重点					
C-1-*	***岸壁	重点					
C-4-*	***岸壁	重点					
C-6-*	***物揚場	通常					
C-6-*	***物揚場	通常					
D-1-*	***道路	通常					
F-4-*	***荷さばき地	通常					
H-2-*	***野積場	通常					
L-2-*	***緑地	通常					

資料 3 維持管理上の諸条件等

維持管理計画策定のための諸条件等を、施設ごとに示す。

(1) **岸壁

表 3-1.1 地区の位置、施設の位置、標準断面図 (**岸壁)

地区の位置	施設の位置
標準断面図	

表 3-1.2 平面図・正面図（全体図等）（**岸壁）

平面図・正面図（全体図等）

表 3-1.3 施設の情報 (**岸壁)

項目			内容	備考	設計条件に関する項目			内容	備考	
港湾名			**港		港湾の施設の技術上の基準・同解説			****		
港格			重要港湾		その他の適用基準類					
地区名			—							
施設名称	設置者の施設名称				自然条件	潮位	基本水準面	D.L±*.(m)		
	港湾管理者の施設名称						H.W.L	D.L±*.(m)		
施設番号			C-1-*				L.W.L	D.L±*.(m)		
施設の			大分類	係留施設			R.W.L	D.L±*.(m)		
種類	小分類		岸壁			設計震度(照査用震度)		kh=*.(m/s²)		
設計供用期間			****年～****年(50年間)		利用条件	対象船舶		***,****DWT		
供用期間			****年～****年(50年間)	維持管理期間		主な取扱貨物及び取扱貨物量		*** (千トン/年)		
通常点検診断施設または重点点検診断施設の設定			通常点検診断施設			上載荷重		*.(kN/m²)		
構造形式					構造特性	設計水深(計画水深)		D.L-*(m)(D.L-*(m))		
劣化度の判定の実施単位						延長		L=***m		
施設全体の性能低下度の評価の実施単位						天端高		D.L+*(m)		
点検診断等の留意点(現場条件等)						エプロン勾配		*.(順勾配)		
維持工事等の留意点(施工条件等)						その他特記事項		—		
維持管理に必要な書類等の保管場所	測量・設計図書				材料特性	下部工	鋼材			
							被覆防食工			
							電気防食工			
		工事関係図書					上部工	コンクリート		
						附帯設備		係船柱		
								防衝設備		
								車止め		
							排水設備			
						はしご				
	初回(定期)点検診断結果									

表 3-1.4 施工履歴及び補修履歴 (**岸壁)

No.	施設番号	C-1-*	施設名称	***岸壁	
	供用開始年	****年	通常点検診断施設または 重点点検診断施設の設定	通常	
	日付	部材等補修箇所	補修内容		備考
1	****年	供用開始			
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

資料 4 維持管理レベル（一覧表）

部材の理レベルⅠ（高水準の対策を事前に施す）、Ⅱ（性能低下を予防する）、Ⅲ（事後的に対処する）について、施設の種類及び構造形式ごとにまとめて一覧表に示す。

表 4.1 施設の部材等の維持管理レベル（一覧表）(1)

施設の種類		構造形式	部材等の 名称	施設番号及び施設名称										
大分類	小分類			A-1-*	A-2-*	B-1-*	B-1-*	B-1-*	B-5-*	B-5-*	C-1-*	C-1-*	C-1-*	
				***航路	***航路	***東防波堤	***西防波堤	***防波堤	***護岸	***護岸	***岸壁	***岸壁	***岸壁	
水域施設	航路	—	航路	Ⅲ	Ⅲ									
	泊地	—	泊地	Ⅲ	Ⅲ									
外郭施設	防波堤	ケーソン式 混成堤	ケーソン			I	I	I						
			上部工			Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ						
			消波工			Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ						
			海底地盤			Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ						
			被覆工			Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ						
			根固工			Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ						
	護岸	矢板式	附帯設備						Ⅲ	Ⅲ				
			水叩き						Ⅲ	Ⅲ				
			鋼矢板等						I	I				
			被覆防食工						Ⅱ	Ⅱ				
			電気防食工						Ⅱ	Ⅱ				
			上部工						Ⅲ	Ⅲ				
			海底地盤						Ⅲ	Ⅲ				
係留施設	岸壁・物 揚場	ケーソン式 係船岸	附帯設備								Ⅲ			
			エプロン								Ⅲ			
			ケーソン								I			
			上部工								Ⅲ			
			海底地盤								Ⅲ			
		矢板式係船 岸	附帯設備									Ⅲ	Ⅲ	
			エプロン									Ⅲ	Ⅲ	
			鋼矢板等									I	I	
			被覆防食工									Ⅱ	Ⅱ	
			電気防食工									Ⅱ	Ⅱ	
			上部工									Ⅲ	Ⅲ	
			海底地盤									Ⅲ	Ⅲ	

注）表はあくまで事例であり、各施設に対する標準的な内容を示すものではない。

表 4.2 施設の部材等の維持管理レベル（一覧表）(2)

施設の種類		構造形式	部材等の 名称	施設番号及び施設名称							
大分類	小分類			C-1-*	C-4-*	C-6-*	C-6-*	D-1-*	F-4-*	H-2-*	L-2-*
				***岸壁	***棧橋	***物揚場	***物揚場	***道路	***荷さばき地	***野積場	***緑地
係留施設	岸壁・物 揚場	矢板式係船岸	附帯設備	Ⅲ		Ⅲ	Ⅲ				
			エプロン	Ⅲ		Ⅲ	Ⅲ				
			鋼矢板等	Ⅰ		Ⅰ	Ⅰ				
			被覆防食工	Ⅱ		Ⅱ	Ⅱ				
			電気防食工	Ⅱ		Ⅱ	Ⅱ				
			上部工	Ⅲ		Ⅲ	Ⅲ				
			海底地盤	Ⅲ		Ⅲ	Ⅲ				
	棧橋	直杭式横棧橋	附帯設備		Ⅲ						
			エプロン		Ⅲ						
			棧橋上部工		Ⅱ						
			鋼管杭		Ⅰ						
			被覆防食工		Ⅱ						
			電気防食工		Ⅱ						
			海底地盤		Ⅲ						
			渡版		Ⅲ						
			土留部		—						
臨港交通 施設	道路	—	附帯設備					Ⅲ			
			舗装					Ⅲ			
荷さばき 施設	荷さばき 地	—	附帯設備						Ⅲ		
				舗装					Ⅲ		
保管施設	野積場	—	附帯設備							Ⅲ	
				舗装						Ⅲ	
港湾環境 整備施設	緑地	—	附帯設備								Ⅲ
				舗装等							

注) 表はあくまで事例であり、各施設に対する標準的な内容を示すものではない。

資料 5 初回点検診断結果及び総合評価

初回点検診断結果として、劣化度及び性能低下度、総合評価等について、複数の施設を一覧にした結果及び施設ごとの結果を示す。

表 5-1.1 初回点検診断結果及び総合評価（一覧表）

施設番号	施設名称	点検診断の 種類	施設全体の 性能低下度	工学的知見・判断に基づく評価	現場的・行政的判断に基づく評価と維持管理の方針	
	設置者の施設名称				現場的・行政的判断に基づく評価	実施時期
A-1-*	***航路	初回	D			
A-2-*	***航路	初回	D			
B-1-*	***東防波堤	初回	B			
B-1-*	***西防波堤	初回	D			
B-1-*	***防波堤	初回	B			
B-5-*	***護岸	初回	D			
B-5-*	***護岸	初回	D			
C-1-*	***岸壁	初回	C			
C-1-*	***岸壁	初回	D			
C-1-*	***岸壁	初回	C			
C-1-*	***岸壁	初回	D			
C-4-*	***棧橋	初回	D			
C-6-*	***物揚場	初回	C			
C-6-*	***物揚場	初回	C			
D-1-*	***道路	初回	D			
F-4-*	***荷さばき地	初回	A			
H-2-*	***野積場	初回	B			
L-2-*	***緑地	初回	D			

表 5-1.2 (1) **岸壁 劣化度の判定及び性能低下度の評価（初回点検診断結果：****年度実施）（例）

対象施設	部材等の名称	維持管理レベルと維持管理の方針の目安				点検診断の項目、分類及び方法				点検診断の種類	調査数量		初回点検診断結果																				集計					点検診断の項目ごとの性能低下度																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
		維持管理レベル	性能低下度	点検診断の項目ごとの性能低下度に対する方針の目安	点検診断の項目	点検診断項目の分類	点検方法	単位	数量		BL No																				a		b		c		d		合計																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
											1BL	2BL	3BL	4BL	5BL	6BL	7BL	8BL	9BL	10BL	11BL	12BL	13BL	14BL	15BL	16BL	17BL	18BL	19BL	20BL	傷数	割合	傷数	割合	傷数	割合	傷数		割合	傷数	割合	傷数	割合	下部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
矢張式係船岸	附帯設備	係船柱及び係船環	Ⅲ	事前対策型 予防保全型 ■ 事後保全型	緊急的措置並びに応急的措置 経過観察措置 経過観察措置 経過観察措置	本体の劣化、損傷、塗装のはがれ等の状態	Ⅲ類	目視（メジャー等による計測を含む、以下同じ） ・損傷、変形 ・塗装の状態	初回	個	****	c	c	c	c	c	c	c	c	c	c	c	c	c	c	c	c	c	c	c	c	0	0.0%	0	0.0%	18	90.0%	2	10.0%	20	100.0%	C																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
												d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d

注）表はあくまで事例であり、各施設に対する標準的な内容を示すものではない。

表 5-1.2 (1) **岸壁 総合評価（初回点検診断結果：***年度実施）（例）

対象施設	部材等の名称		維持管理レベル	点検診断の項目、分類及び方法			2014		工学的知見・判断に基づく評価	現場的・行政的判断に基づく評価と維持管理の方針				
				点検診断の項目	点検診断項目の分類	点検方法	初回点検診断			現場的・行政的判断に基づく評価	実施時期			
							点検診断項目ごとの性能低下度	施設全体の性能低下度						
矢板式係船岸	附帯設備	係船柱及び係船環	Ⅲ	☐ 事前対策型 ☐ 予防保全型 ☒ 事後保全型	本体の劣化、損傷、塗装のはがれ等の状態	Ⅲ類	目視（メジャー等による計測を含む、以下同じ） ・損傷、変形 ・塗装の状態	C	B	すべての係船柱において、塗装のはがれが見受けられるが、現時点では経過観察措置が妥当と考えられる。	☐ 緊急的措置 ☐ 応急的措置 ☐ 計画的措置 ☒ 経過観察措置	工学的知見・判断に基づく評価を踏まえ、経過観察措置とする。	—	
		防衝設備	Ⅲ	☐ 事前対策型 ☐ 予防保全型 ☒ 事後保全型	本体の損傷、破損、取付金具の腐食等の状態	Ⅲ類	目視 ・ゴム部の損傷 ・取付金具の錆や傷	D		一部の防舷材に欠損が見受けられるが、現時点では経過観察措置が妥当と考えられる。	☐ 緊急的措置 ☐ 応急的措置 ☐ 計画的措置 ☒ 経過観察措置	工学的知見・判断に基づく評価を踏まえ、経過観察措置とする。	—	
		車止め	Ⅲ	☐ 事前対策型 ☐ 予防保全型 ☒ 事後保全型	本体の損傷、塗装、腐食	Ⅲ類	目視 ・損傷、変形 ・塗装の状態 ・腐食	D		一部の車止めに小規模な変形が見受けられるが、現時点では経過観察措置が妥当と考えられる。	☐ 緊急的措置 ☐ 応急的措置 ☐ 計画的措置 ☒ 経過観察措置	工学的知見・判断に基づく評価を踏まえ、経過観察措置とする。	—	
		排水設備	Ⅲ	☐ 事前対策型 ☐ 予防保全型 ☒ 事後保全型	排水設備の破損、グレーチングの変形、腐食	Ⅲ類	目視 ・排水溝のつまり ・破損、変形 ・グレーチングの腐食	D		すべての排水設備に変状が認められないことから、現時点では経過観察措置が妥当と考えられる。	☐ 緊急的措置 ☐ 応急的措置 ☐ 計画的措置 ☒ 経過観察措置	工学的知見・判断に基づく評価を踏まえ、経過観察措置とする。	—	
		はしご	Ⅲ	☐ 事前対策型 ☐ 予防保全型 ☒ 事後保全型	本体の損傷、塗装、腐食	Ⅲ類	目視 ・損傷、変形 ・塗装の状態 ・腐食（鋼製の場合）	D		すべてのはしごに変状は見受けられないことから、現時点では経過観察措置が妥当と考えられる。	☐ 緊急的措置 ☐ 応急的措置 ☐ 計画的措置 ☒ 経過観察措置	工学的知見・判断に基づく評価を踏まえ、経過観察措置とする。	—	
	係船岸全体	Ⅲ	☐ 事前対策型 ☐ 予防保全型 ☒ 事後保全型	岸壁法線	凹凸、出入り	Ⅰ類	目視 ・移動量・沈下量	D	B	係船岸法線に変状は見受けられないことから、現時点では経過観察措置が妥当と考えられる。	☐ 緊急的措置 ☐ 応急的措置 ☐ 計画的措置 ☒ 経過観察措置	工学的知見・判断に基づく評価を踏まえ、経過観察措置とする。	—	
				矢板式係船岸全体	移動量、傾斜量、沈下量		移動距離測定 水準測量							
		エプロン	Ⅲ	☐ 事前対策型 ☐ 予防保全型 ☒ 事後保全型	沈下、陥没		Ⅰ類	目視						C
	エプロン（通常の場合）				コンクリート又はアスファルトの劣化、損傷	Ⅱ類	目視 ・コンクリート又はアスファルトのひび割れ、損傷	B						
					吸出し、空洞化	Ⅰ類	電磁波レーダ 削孔による目視確認 等	D						
	鋼矢板等	Ⅰ	☒ 事前対策型 ☐ 予防保全型 ☐ 事後保全型	鋼材の腐食、亀裂、損傷	Ⅰ類	目視 ・開孔の有無 ・表面の傷の状況	潜水調査	D	B	すべての鋼材に変状は見受けられないが、肉厚測定結果における腐食速度は、設計腐食速度（0.02mm/年）を上回っており、2023年（9年後）には必要肉厚を下回ることが予測される。 したがって、補修検討を実施するとともに、次回の詳細定期点検診断時までには肉厚を測定し、残存耐力を確認する。	☐ 緊急的措置 ☐ 応急的措置 ☐ 計画的措置 ☒ 経過観察措置	工学的知見・判断に基づく評価を踏まえ、補修検討を行うものとする。その間については、経過観察措置とする。	2015	
							肉厚測定	超音波厚み計						
	鋼矢板等（被覆防食工）	Ⅱ	☐ 事前対策型 ☒ 予防保全型 ☐ 事後保全型	被覆防食工	Ⅱ類	目視 ・保護カバー ・ボルト、ナット	潜水調査 ・保護カバー ・ボルト、ナット	C	B	一部の保護カバーの表面に微細なクラックが見られるが、現時点では経過観察措置が妥当と考えられる。	☐ 緊急的措置 ☐ 応急的措置 ☐ 計画的措置 ☒ 経過観察措置	工学的知見・判断に基づく評価を踏まえ、経過観察措置とする。	—	
							ベトララタム被覆	D						
鋼矢板等（電気防食工）	Ⅱ	☐ 事前対策型 ☒ 予防保全型 ☐ 事後保全型	電位測定	Ⅱ類	電位測定（電極ごとの防食管理電位） ・飽和甘こう-800mV ・海水塩化銀-800mV ・飽和硫酸銅-850mV	潜水調査 ・現存状況の確認（全数）	D	B	防食管理電位を満足しており、すべての陽極について変状は確認されていないことから、現時点では経過観察措置が妥当と考えられる。 ただし、陽極消耗量の測定結果における残存率は40%～70%、残存寿命は6.7～23.3年であり、耐用年数の前に交換する必要がある。計画的措置として、陽極の交換を行うための維持補修計画を立案する。	☐ 緊急的措置 ☐ 応急的措置 ☐ 計画的措置 ☒ 経過観察措置	工学的知見・判断に基づく評価を踏まえ、補修検討を行うものとする。その間については、経過観察措置とする。	2015		
													電気防食工（流電陽極方式）	Ⅱ類
			陽極	電位	Ⅱ類	電位測定（電極ごとの防食管理電位） ・飽和甘こう-800mV 陽極電流測定 ・施設的面積、中央部、異常腐食部								
上部工	Ⅲ	☐ 事前対策型 ☐ 予防保全型 ☒ 事後保全型	コンクリートの劣化、損傷	Ⅱ類	目視 ・ひび割れ、剝離、損傷 ・鉄筋腐食 ・劣化の兆候 等	C	一部の上部工に局部的に鉄筋が露出しているが、現時点では経過観察措置が妥当と考えられる。	☐ 緊急的措置 ☐ 応急的措置 ☐ 計画的措置 ☒ 経過観察措置	工学的知見・判断に基づく評価を踏まえ、経過観察措置とする。	—				
海底地盤	Ⅲ	☐ 事前対策型 ☐ 予防保全型 ☒ 事後保全型	洗掘、堆積	Ⅰ類	潜水調査 ・海底面の起伏	C	一部の海底地盤に深さ0.5m未満の洗掘が見受けられるが、現時点では経過観察措置が妥当と考えられる。	☐ 緊急的措置 ☐ 応急的措置 ☐ 計画的措置 ☒ 経過観察措置	工学的知見・判断に基づく評価を踏まえ、経過観察措置とする。	—				

注）表はあくまで事例であり、各施設に対する標準的な内容を示すものではない。

資料 6 点検診断計画（一覧表）

点検診断の種類及び実施時期（年次計画）について、複数の施設を取りまとめて、一覧表に示す。

表 6.1 点検診断計画（案）（一覧表）（1）（例）

施設 番号	施設名称	通常点検診 断施設また は重点点検 診断施設	維持管理の 計画目標期間			点検診断計画（上段：年度，下段：年次）											備考
			開始 年度	終了 年度	期間	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	
	設置者の施設名称					0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
A-1-*	***航路	通常	****	2020	**	初回	—	—	—	—	●	—	—	—	—	—	
A-2-*	***航路	通常	****	2030	**	初回	—	—	—	—	○	—	—	—	—	○	
B-1-*	***東防波堤	通常	****	2040	**	初回	—	—	—	—	○	—	—	—	—	○	
B-1-*	***西防波堤	通常	****	2050	**	初回	—	—	—	—	○	—	—	—	—	○	
B-1-*	***防波堤	通常	****	2045	**	初回	—	—	—	—	○	—	—	—	—	○	
B-5-*	***護岸	通常	****	2035	**	初回	—	—	—	—	○	—	—	—	—	●	
B-5-*	***護岸	通常	****	2025	**	初回	—	—	—	—	○	—	—	—	—	●	
C-1-*	***岸壁	重点	****	2045	**	初回	—	—	○	—	—	○	—	—	●	—	
C-1-*	***岸壁	重点	****	2030	**	初回	—	—	○	—	—	○	—	—	●	—	
C-1-*	***岸壁	重点	****	2025	**	初回	—	—	○	—	—	○	—	—	●	—	
C-1-*	***岸壁	重点	****	2030	**	初回	—	—	○	—	—	○	—	—	●	—	
C-4-*	***棧橋	重点	****	2045	**	初回	—	—	○	—	—	—	○	—	—	○	
C-6-*	***物揚場	通常	****	2025	**	初回	—	—	—	—	○	—	—	—	—	●	
C-6-*	***物揚場	通常	****	2025	**	初回	—	—	—	—	○	—	—	—	—	●	
D-1-*	***道路	通常	****	2050	**	初回	—	—	—	—	○	—	—	—	—	○	
F-4-*	***荷さばき地	通常	****	2050	**	初回	—	—	—	—	○	—	—	—	—	○	
H-2-*	***野積場	通常	****	2050	**	初回	—	—	—	—	○	—	—	—	—	○	
L-2-*	***緑地	通常	****	2050	**	初回	—	—	—	—	○	—	—	—	—	○	

(○：一般定期点検診断，●：詳細定期点検診断)

【色の凡例】 白色：通常点検診断施設、橙色：重点点検診断施設、灰色：供用期間以降 を示す

注）表はあくまで事例であり、各施設に対する標準的な内容を示すものではない。

表 6.2 点検診断計画（案）（一覧表）（2）（例）

施設 番号	施設名称 設置者の施設名称	通常点検診 断施設また は重点点検 診断施設	維持管理の 計画目標期間			点検診断計画（上段：年度，下段：年次）															備考
			開始 年度	終了 年度	期間	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	
						11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	
A-1-*	***航路	通常	****	2020	**	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
A-2-*	***航路	通常	****	2030	**	—	—	—	—	●	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
B-1-*	***東防波堤	通常	****	2040	**	—	—	—	—	○	—	—	—	—	○	—	—	—	—	●	
B-1-*	***西防波堤	通常	****	2050	**	—	—	—	—	○	—	—	—	—	○	—	—	—	—	●	
B-1-*	***防波堤	通常	****	2045	**	—	—	—	—	○	—	—	—	—	○	—	—	—	—	●	
B-5-*	***護岸	通常	****	2035	**	—	—	—	—	○	—	—	—	—	●	—	—	—	—	—	
B-5-*	***護岸	通常	****	2025	**	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
C-1-*	***岸壁	重点	****	2045	**	—	○	—	—	○	—	—	●	—	—	○	—	—	○	—	
C-1-*	***岸壁	重点	****	2030	**	—	○	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
C-1-*	***岸壁	重点	****	2025	**	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
C-1-*	***岸壁	重点	****	2030	**	—	○	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
C-4-*	***棧橋	重点	****	2045	**	—	—	●	—	—	○	—	—	○	—	—	●	—	—	○	
C-6-*	***物揚場	通常	****	2025	**	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
C-6-*	***物揚場	通常	****	2025	**	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
D-1-*	***道路	通常	****	2050	**	—	—	—	—	○	—	—	—	—	○	—	—	—	—	○	
F-4-*	***荷さばき地	通常	****	2050	**	—	—	—	—	○	—	—	—	—	○	—	—	—	—	○	
H-2-*	***野積場	通常	****	2050	**	—	—	—	—	○	—	—	—	—	○	—	—	—	—	○	
L-2-*	***緑地	通常	****	2050	**	—	—	—	—	○	—	—	—	—	○	—	—	—	—	○	

(○：一般定期点検診断，●：詳細定期点検診断)

【色の凡例】 白色：通常点検診断施設、橙色：重点点検診断施設、灰色：供用期間以降 を示す

注）表はあくまで事例であり、各施設に対する標準的な内容を示すものではない。

表 6.3 点検診断計画（案）（一覧表）（3）（例）

施設 番号	施設名称 設置者の施設名称	通常点検診 断施設また は重点点検 診断施設	維持管理の 計画目標期間			点検診断計画（上段：年度，下段：年次）															備考
			開始 年度	終了 年度	期間	2040	2041	2042	2043	2044	2045	2046	2047	2048	2049	2050	2051	2052	2053	2054	
						26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	
A-1-*	***航路	通常	****	2020	**	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
A-2-*	***航路	通常	****	2030	**	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
B-1-*	***東防波堤	通常	****	2040	**	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
B-1-*	***西防波堤	通常	****	2050	**	—	—	—	—	○	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	○
B-1-*	***防波堤	通常	****	2045	**	—	—	—	—	●	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
B-5-*	***護岸	通常	****	2035	**	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
B-5-*	***護岸	通常	****	2025	**	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
C-1-*	***岸壁	重点	****	2045	**	—	●	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
C-1-*	***岸壁	重点	****	2030	**	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
C-1-*	***岸壁	重点	****	2025	**	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
C-1-*	***岸壁	重点	****	2030	**	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
C-4-*	***棧橋	重点	****	2045	**	—	—	○	—	—	●	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
C-6-*	***物揚場	通常	****	2025	**	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
C-6-*	***物揚場	通常	****	2025	**	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
D-1-*	***道路	通常	****	2050	**	—	—	—	—	○	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	
F-4-*	***荷さばき地	通常	****	2050	**	—	—	—	—	○	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	
H-2-*	***野積場	通常	****	2050	**	—	—	—	—	○	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	
L-2-*	***緑地	通常	****	2050	**	—	—	—	—	○	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	

(○：一般定期点検診断，●：詳細定期点検診断)

【色の凡例】 白色：通常点検診断施設、橙色：重点点検診断施設、灰色：供用期間以降 を示す

注）表はあくまで事例であり、各施設に対する標準的な内容を示すものではない。

資料 7 総合評価（一覧表）

総合評価について、複数の施設を取りまとめて一覧表に示す。

表 7.1 総合評価の結果（策定時：2014 年）（例）

施設番号	施設名称	点検診断の 時期	施設全体の 性能低下度	工学的知見・判断に基づく評価	現場的・行政的判断に基づく評価と維持管理の方針	
	設置者の施設名称				現場的・行政的判断に基づく評価	実施時期
A-1-*	***航路	初回	D			
A-2-*	***航路	初回	D			
B-1-*	***東防波堤	初回	B			
B-1-*	***西防波堤	初回	D			
B-1-*	***防波堤	初回	B			
B-5-*	***護岸	初回	D			
B-5-*	***護岸	初回	D			
C-1-*	***岸壁	初回	C			
C-1-*	***岸壁	初回	D			
C-1-*	***岸壁	初回	C			
C-1-*	***岸壁	初回	D			
C-4-*	***棧橋	初回	D			
C-6-*	***物揚場	初回	C			
C-6-*	***物揚場	初回	C			
D-1-*	***道路	初回	D			
F-4-*	***荷さばき地	初回	A			
H-2-*	***野積場	初回	B			
L-2-*	***緑地	初回	D			

表 7.2 総合評価の結果（一般定期点検診断：****年）（例）

施設番号	施設名称	点検診断の 時期	施設全体の 性能低下度	工学的知見・判断に基づく評価	現場的・行政的判断に基づく評価と維持管理の方針	
	設置者の施設名称				現場的・行政的判断に基づく評価	実施時期
A-1-*	***航路					
A-2-*	***航路					
B-1-*	***東防波堤					
B-1-*	***西防波堤					
B-1-*	***防波堤					
B-5-*	***護岸					
B-5-*	***護岸					
C-1-*	***岸壁					
C-1-*	***岸壁					
C-1-*	***岸壁					
C-1-*	***岸壁					
C-4-*	***棧橋					
C-6-*	***物揚場					
C-6-*	***物揚場					
D-1-*	***道路					
F-4-*	***荷さばき地					
H-2-*	***野積場					
L-2-*	***緑地					

資料 8 維持補修計画（一覧表）

補修の内容及び実施時期（年次計画）について、複数の施設を取りまとめて一覧表に示す。

表 8.1 維持補修計画（案）（一覧表）（1）（例）

施設 番号	施設名称	通常点検診 断施設また は重点点検 診断施設	維持管理の 計画目標期間			維持補修計画（上段：年度，下段：年次）											備考
			開始 年度	終了 年度	期間	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	
	設置者の施設名称					0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
A-1-*	***航路	通常	****	2020	**	初回	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
A-2-*	***航路	通常	****	2030	**	初回	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
B-1-*	***東防波堤	通常	****	2040	**	初回	—	■	—	—	—	—	—	—	—	—	2016 年度：消波ブ ロック嵩上げ等
B-1-*	***西防波堤	通常	****	2050	**	初回	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
B-1-*	***防波堤	通常	****	2045	**	初回	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
B-5-*	***護岸	通常	****	2035	**	初回	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
B-5-*	***護岸	通常	****	2025	**	初回	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
C-1-*	***岸壁	重点	****	2045	**	初回	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
C-1-*	***岸壁	重点	****	2030	**	初回	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
C-1-*	***岸壁	重点	****	2025	**	初回	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
C-1-*	***岸壁	重点	****	2030	**	初回	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
C-4-*	***棧橋	重点	****	2045	**	初回	—	—	—	■	—	—	—	—	—	—	2018 年度：棧橋上 部工の補修
C-6-*	***物揚場	通常	****	2025	**	初回	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
C-6-*	***物揚場	通常	****	2025	**	初回	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
D-1-*	***道路	通常	****	2050	**	初回	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
F-4-*	***荷さばき地	通常	****	2050	**	初回	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
H-2-*	***野積場	通常	****	2050	**	初回	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
L-2-*	***緑地	通常	****	2050	**	初回	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

(■:補修)

【色の凡例】 白色:通常点検診断施設、橙色:重点点検診断施設、灰色:供用期間以降 を示す

注) 表はあくまで事例であり、各施設に対する標準的な内容を示すものではない。

表 8.2 維持補修計画（案）（一覧表）（2）（例）

施設 番号	施設名称	通常点検診 断施設また は重点点検 診断施設	維持管理の 計画目標期間			維持補修計画（上段：年度，下段：年次）																備考
	設置者の施設名称		開始 年度	終了 年度	期間	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039		
						11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25		
A-1-*	***航路	通常	****	2020	**	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
A-2-*	***航路	通常	****	2030	**	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
B-1-*	***東防波堤	通常	****	2040	**	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
B-1-*	***西防波堤	通常	****	2050	**	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
B-1-*	***防波堤	通常	****	2045	**	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
B-5-*	***護岸	通常	****	2035	**	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
B-5-*	***護岸	通常	****	2025	**	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
C-1-*	***岸壁	重点	****	2045	**	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
C-1-*	***岸壁	重点	****	2030	**	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
C-1-*	***岸壁	重点	****	2025	**	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
C-1-*	***岸壁	重点	****	2030	**	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
C-4-*	***栈橋	重点	****	2045	**	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
C-6-*	***物揚場	通常	****	2025	**	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
C-6-*	***物揚場	通常	****	2025	**	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
D-1-*	***道路	通常	****	2050	**	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
F-4-*	***荷さばき地	通常	****	2050	**	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
H-2-*	***野積場	通常	****	2050	**	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
L-2-*	***緑地	通常	****	2050	**	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

(■:補修)

【色の凡例】 白色:通常点検診断施設、橙色:重点点検診断施設、灰色:供用期間以降 を示す

注) 表はあくまで事例であり、各施設に対する標準的な内容を示すものではない。

表 8.3 維持補修計画（案）（一覧表）（3）（例）

施設 番号	施設名称	通常点検診 断施設また は重点点検 診断施設	維持管理の 計画目標期間			維持補修計画（上段：年度，下段：年次）															備考	
	設置者の施設名称		開始 年度	終了 年度	期間	2040	2041	2042	2043	2044	2045	2046	2047	2048	2049	2050	2051	2052	2053	2054		
						26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40		
A-1-*	***航路	通常	****	2020	**	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
A-2-*	***航路	通常	****	2030	**	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
B-1-*	***東防波堤	通常	****	2040	**	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
B-1-*	***西防波堤	通常	****	2050	**	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
B-1-*	***防波堤	通常	****	2045	**	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
B-5-*	***護岸	通常	****	2035	**	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
B-5-*	***護岸	通常	****	2025	**	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
C-1-*	***岸壁	重点	****	2045	**	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
C-1-*	***岸壁	重点	****	2030	**	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
C-1-*	***岸壁	重点	****	2025	**	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
C-1-*	***岸壁	重点	****	2030	**	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
C-4-*	***栈橋	重点	****	2045	**	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
C-6-*	***物揚場	通常	****	2025	**	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
C-6-*	***物揚場	通常	****	2025	**	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
D-1-*	***道路	通常	****	2050	**	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
F-4-*	***荷さばき地	通常	****	2050	**	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
H-2-*	***野積場	通常	****	2050	**	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
L-2-*	***緑地	通常	****	2050	**	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

(■:補修)

【色の凡例】 白色:通常点検診断施設、橙色:重点点検診断施設、灰色:供用期間以降 を示す

注) 表はあくまで事例であり、各施設に対する標準的な内容を示すものではない。

参考資料 点検診断様式